

基本計画書

基本計画書									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部の設置								
フリガナ 設置者	ガッコウホウジン セイセンジョシダイガク 学校法人 清泉女子大学								
フリガナ 大学の名称	セイセンジョシダイガク 清泉女子大学								
大学本部の位置	東京都品川区東五反田3丁目16番21号								
大学の目的	<p>本学は、教育基本法及び学校教育法に準拠し、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、知的・道徳的及び応用的能力を展開させ、キリスト教的世界観に立ち、高い知性と豊かな教養をそなえ、奉仕の精神に富む女性を養成することを目的とする。</p>								
新設学部等の目的	<p>総合文化学部 本学部は、人文科学の諸分野に関する幅広い知識を基盤として人間の尊厳や文化の多様性を深く理解し、人間愛の立場から自立的に社会貢献し、国際的に活躍できる人材を養成する。 また、建学の精神である「キリスト教ヒューマニズム」を基盤とし、人文科学の見地から「人間とは何か」を追究することを通して、幅広い教養と専門分野の知識を修得させる。多様な文化のあり方を理解することで、他者を尊重し、協働できる姿勢を涵養する。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	総合文化学部 総合文化学科 計	年	人	年次人	人	学士（人文科学）	文学関係	令和7年4月1日 第1年次	東京都品川区 東五反田3丁目 16番21号
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	<p>○学部の設置 地球市民学部 地球市民学科（100）（令和7年4月届出予定）</p> <p>○学生募集停止 <u>文学部（廃止）</u> <u>日本語日本文学科（△65）</u> <u>英語英文学科（△75）</u> <u>スペイン語スペイン文学科（△40）</u> <u>文化史学科（△90）</u> <u>地球市民学科（△60）</u> ※令和7年4月学生募集停止</p>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	総合文化学部 総合文化学科	243科目	247科目	26科目	516科目	124単位			

学部等の名称	基幹教員						基幹教員以外の教員(助手を除く)
	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	人	人	人	人	人	人	人
総合文化学部 総合文化学科	19 (19)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	185 (185)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	15 (15)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	23 (23)		大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 10人
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)		
小計(a~b)	19 (19)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	27 (27)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計(a~d)	19 (19)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	27 (27)		
地球市民学部 地球市民学科	8 (8)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	137 (137)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	10 (10)		大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)		
小計(a~b)	8 (8)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	12 (12)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)		
計(a~d)	8 (8)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	13 (13)		
計	27 (27)	10 (10)	3 (3)	0 (0)	40 (40)	0 (0)	— (—)

新設分

令和7年4月届出予定

既設分	司書・教職課程	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (20)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)		
	小計（a～b）	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)		
	日本語教員課程	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (4)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	共通科目	0 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (5)	0 (0)	0 (32)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (5)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	0 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (5)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	0 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (5)			

既設分 (続き)	キリスト教文化研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (7)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	言語教育研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (39)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計	0 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (6)	0 (0)	— (—)	
合計	27 (33)	10 (10)	3 (3)	0 (0)	40 (46)	0 (0)	— (—)	

職 種		専 属	そ の 他	計	大学全体					
事 務 職 員		34 (34)	63 (63)	97 (97)						
技 術 職 員		1 (1)	0 (0)	1 (1)						
図 書 館 職 員		1 (1)	4 (4)	5 (5)						
そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)						
指 導 補 助 者		0 (0)	14 (14)	14 (14)						
計		36 (36)	81 (81)	117 (117)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	22,934.30㎡	0㎡	0㎡	22,934.30㎡					
	そ の 他	6,831.00㎡	0㎡	0㎡	6,831.00㎡					
	合 計	29,765.30㎡	0㎡	0㎡	29,765.30㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		14,481.73㎡ (㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	14,481.73㎡ (㎡)					
教室・教員研究室		教 室	43室	教員研究室	50室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	学部単位での 特定不能なため、 大学全体の数		
	総合文化学部総合文化学科	718,100 [463,400] (653,300 [406,800])	335,800 [333,000] (280,000 [277,800])	4,000 [2,400] (3,800 [2,300])	765 [730] (690 [680])	0 (0)	0 (0)			
	計	718,100 [463,400] (653,300 [406,800])	335,800 [333,000] (280,000 [277,800])	4,000 [2,400] (3,800 [2,300])	765 [730] (690 [680])	0 (0)	0 (0)			
スポーツ施設等		スポーツ施設		講堂	厚 生 補 導 施 設			大学全体		
		0㎡		1,035㎡	2,146㎡					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費には電子ジャーナル・データベース・雑誌費用を含む。
		教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	－千円	－千円	
		共同研究費等		1330千円	1330千円	1330千円	1330千円	－千円	－千円	
		図書購入費	46,650千円	46,650千円	46,650千円	46,650千円	46,650千円	－千円	－千円	
	設備購入費	21630千円	14350千円	10850千円	10850千円	10850千円	－千円	－千円		
	学生1人当り納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
			1370千円	1120千円	1120千円	1120千円	－	－		
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、手数料 等							

大 学 の 名 称		清泉女子大学							所 在 地	
学 部 等 の 名 称	修業年 限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員充 足率	開設 年度			
	年	人	年次 人	人		倍				
既 設 大 学 等 の 状 況	文学部					—				
	日本語日文学科	4	—	—	—	—	昭和25年度	令和7年度より 学生募集停止		
	英語英文学科	4	—	—	—	—	昭和25年度	令和7年度より 学生募集停止		
	スペイン語スペイン文学 科	4	—	—	—	—	昭和36年度	令和7年度より 学生募集停止		
	文化史学科	4	—	—	—	—	平成5年度	東京都品川区 東五反田 3丁目16番21号	令和7年度より 学生募集停止	
	地球市民学科	4	—	—	—	—	平成13年度		令和7年度より 学生募集停止	
	人文科学研究科									
	人文学専攻	3	5	—	15	博士（人文学）	—	平成8年度		
	言語文化専攻	2	6	—	12	修士（言語文化）	—	平成5年度		
	思想文化専攻	2	6	—	12	修士（思想文化）	—	平成6年度		
地球市民学専攻	2	5	—	10	修士（地球市民 学）	—	平成17年度			
附属施設の概要	該当なし									

学校法人清泉女子大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度

入学 編入学 収容
定員 定員 定員

清泉女子大学			
文学部			
日本語日本文学科	65	—	260
英語英文学科	75	—	300
スペイン語スペイン文学科	40	—	160
文化史学科	90	—	360
地球市民学科	60	—	240
<hr/>			
計	330	—	1320
清泉女子大学大学院人文科学研究科			
人文学専攻	5	—	15
言語文化専攻	6	—	12
思想文化専攻	6	—	12
地球市民学専攻	5	—	10
<hr/>			
計	22	—	49

令和7年度

入学 編入学 収容
定員 定員 定員 変更の事由

清泉女子大学				
<u>総合文化学部</u>				学部の設置 (届出)
<u>総合文化学科</u>	<u>230</u>	—	<u>920</u>	
→ <u>地球市民学部</u>				学部の設置 (届出)
<u>地球市民学科</u>	<u>100</u>	—	<u>400</u>	
<hr/>				
計	<u>330</u>	—	<u>1320</u>	
清泉女子大学大学院人文科学研究科				
人文学専攻	5	—	15	
言語文化専攻	6	—	12	
思想文化専攻	6	—	12	
地球市民学専攻	5	—	10	
<hr/>				
計	22	—	49	

設置の前後における学位等及び基幹教員の所属の状況

届出時における状況					新設学部等の学年進行 終了時における状況						
学部等の名称	授与する学位等		異動先	基幹教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	基幹教員	
	学位又は 称号	学位又は 学科の分野		助教 以上	うち 教授		学位又は 称号	学位又は 学科の分野		助教 以上	うち 教授
文学部 日本語日本文学科 (廃止)	学士(日本語日本文学)	文学関係	総合文化学部総合文化学科	6	5	総合文化学部 総合文化学科	学士 (人文学)	文学関係	文学部日本語日本文学科	6	5
			退職	1	1				文学部英語英文学科	4	3
									文学部スペイン語スペイン文学科	5	3
									文学部文化史学科	9	5
									司書・教職課程	2	2
			計	7	6				キリスト教文化研究所	1	1
文学部 英語英文学科 (廃止)	学士(英語英文学)	文学関係	総合文化学部総合文化学科	4	3	地球市民学部 地球市民学科	学士(地球市民学)	文学関係	文学部スペイン語スペイン文学科	1	1
			その他	2	2				文学部地球市民学科	6	4
			退職	1	1				司書・教職課程	2	1
			計	7	6				日本語教員課程	1	1
文学部 スペイン語スペイン文学科 (廃止)	学士(スペイン語スペイン文学)	文学関係	総合文化学部総合文化学科	5	3	地球市民学部 地球市民学科	学士(地球市民学)	文学関係	人文科学研究所	1	0
			地球市民学部地球市民学科	1	1				言語教育研究所	1	1
			退職	1	1				新規採用	1	0
			計	7	5				計	13	8
文学部 文化史学科 (廃止)	学士(文化史学)	文学関係	総合文化学部総合文化学科	9	5	/					
			退職	1	1						
			計	10	6						
文学部 地球市民学科 (廃止)	学士(地球市民学)	文学関係	地球市民学部地球市民学科	6	4						
			退職	1	1						
			計	7	5						
司書・教職課程	-	-	総合文化学部総合文化学科	2	2						
			地球市民学部地球市民学科	2	1						
			退職	1	1						
			計	5	4						
日本語教員課程	-	-	地球市民学部地球市民学科	1	1						
			計	1	1						
人文科学研究所	-	-	地球市民学部地球市民学科	1	0						
			退職	1	1						
			計	2	1						
キリスト教文化研究所	-	-	総合文化学部総合文化学科	1	1						
			計	1	1						
言語教育研究所	-	-	地球市民学部地球市民学科	1	1						
			計	1	1						

基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改 編 内 容 等	学 位 又 は 学 科 の 分 野	手 続 の 区 分
昭和25年4月	文学部国文学科 設置	文学	設置認可 (学科)
	文学部英文学科 設置	文学	設置認可 (学科)
昭和36年4月	文学部スペイン語スペイン文学科 設置	文学	設置認可 (学科)
昭和38年4月	文学部キリスト教文化学科 設置	文学	設置認可 (学科)
平成5年4月	文学部文化史学科 設置	文学	設置認可 (学科)
平成5年4月	文学部キリスト教文化学科の学生募集停止	—	学生募集停止 (学科)
平成6年4月	文学部英文学科 → 文学部英語英文学科	文学	名称変更 (学科)
平成9年4月	文学部国文学科 → 文学部日本語日本文学科	文学	名称変更 (学科)
平成13年4月	文学部地球市民学科 設置	文学	設置認可 (学科)
令和7年4月	総合文化学部総合文化学科 設置	文学	設置届出 (学部)
令和7年4月	地球市民学部地球市民学科 設置	文学	設置届出 (学部)
令和7年4月	文学部日本語日本文学科、英語英文学科、スペイン語スペイン文学科、文化史学科及び地球市民学科の学生募集停止	—	学生募集停止 (学科)

教 育 課 程 等 の 概 要

(総合文化学部総合文化学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外を除く の教員		
専門コア科目	総合文化スタディーズ1	1前			2		○			5	3					1	オムニバス・共同 (一部)	
	総合文化スタディーズ2	1前			2		○			2	2						オムニバス・共同 (一部)	
	総合文化スタディーズ3	1前			2		○			4	3						オムニバス・共同 (一部)	
	日本文化入門演習	1後	○		2			○		3	1						オムニバス・共同 (一部)	
	国際文化入門演習	1後	○		2			○		5	1	1					オムニバス・共同 (一部)	
	文化史入門演習	1後	○		2			○		3	1						オムニバス・共同 (一部)	
	総合文化データサイエンス	2前	○	2			○			3	1						オムニバス・共同 (一部)	
	基礎演習1a (日本文化)	2前	○		2			○		1								
	基礎演習2a (日本文化)	2前	○		2			○			1							
	基礎演習3a (日本文化)	2前	○		2			○		1								
	基礎演習4a (日本文化)	2前	○		2			○		1								
	基礎演習5a (日本文化)	2前	○		2			○		1								
	基礎演習6a (国際文化・英)	2前	○		2			○				1						
	基礎演習7a (国際文化・英)	2前	○		2			○		1								
	基礎演習8a (国際文化・英)	2前	○		2			○		1								
	基礎演習9a (国際文化・英)	2前	○		2			○		1								
	基礎演習10a (国際文化・西)	2前	○		2			○			1							
	基礎演習11a (国際文化・西)	2前	○		2			○		1								
	基礎演習12a (国際文化・西)	2前	○		2			○			1							
	基礎演習13a (国際文化・西)	2前	○		2			○		1								
	基礎演習14a (文化史)	2前	○		2			○		1								
	基礎演習15a (文化史)	2前	○		2			○			1							
	基礎演習16a (文化史)	2前	○		2			○		1								
	基礎演習17a (文化史)	2前	○		2			○			1							
	基礎演習18a (文化史)	2前	○		2			○		1								
	基礎演習19a (文化史)	2前	○		2			○		1								
	基礎演習20a (文化史)	2前	○		2			○		1								
	基礎演習21a (文化史)	2前	○		2			○			1							
	基礎演習22a (文化史)	2前	○		2			○			1							
	基礎演習1b (日本文化)	2後	○		2			○		1								
	基礎演習2b (日本文化)	2後	○		2			○			1							
	基礎演習3b (日本文化)	2後	○		2			○		1								
	基礎演習4b (日本文化)	2後	○		2			○		1								
	基礎演習5b (日本文化)	2後	○		2			○		1								
	基礎演習6b (国際文化・英)	2後	○		2			○				1						
	基礎演習7b (国際文化・英)	2後	○		2			○		1								
	基礎演習8b (国際文化・英)	2後	○		2			○		1								
	基礎演習9b (国際文化・英)	2後	○		2			○		1								
	基礎演習10b (国際文化・西)	2後	○		2			○			1							
	基礎演習11b (国際文化・西)	2後	○		2			○		1								
	基礎演習12b (国際文化・西)	2後	○		2			○			1							
	基礎演習13b (国際文化・西)	2後	○		2			○		1								
	基礎演習14b (文化史)	2後	○		2			○		1								
	基礎演習15b (文化史)	2後	○		2			○			1							
基礎演習16b (文化史)	2後	○		2			○		1									
基礎演習17b (文化史)	2後	○		2			○			1								
基礎演習18b (文化史)	2後	○		2			○		1									
基礎演習19b (文化史)	2後	○		2			○		1									
基礎演習20b (文化史)	2後	○		2			○		1									
基礎演習21b (文化史)	2後	○		2			○			1								
基礎演習22b (文化史)	2後	○		2			○			1								
演習1a (日本文化)	3前	○		2			○		1									
演習2a (日本文化)	3前	○		2			○			1								
演習3a (日本文化)	3前	○		2			○		1									
演習4a (日本文化)	3前	○		2			○		1									

専門コア科目(続き)	演習5a (日本文化)	3前	○		2			○		1								
	演習6a (国際文化・英)	3前	○		2			○			1							
	演習7a (国際文化・英)	3前	○		2			○		1		1						
	演習8a (国際文化・英)	3前	○		2			○		1								
	演習9a (国際文化・英)	3前	○		2			○		1								
	演習10a (国際文化・西)	3前	○		2			○			1							
	演習11a (国際文化・西)	3前	○		2			○		1								
	演習12a (国際文化・西)	3前	○		2			○			1							
	演習13a (国際文化・西)	3前	○		2			○		1								
	演習14a (文化史)	3前	○		2			○		1								
	演習15a (文化史)	3前	○		2			○			1							
	演習16a (文化史)	3前	○		2			○		1								
	演習17a (文化史)	3前	○		2			○			1							
	演習18a (文化史)	3前	○		2			○		1								
	演習19a (文化史)	3前	○		2			○		1								
	演習20a (文化史)	3前	○		2			○		1								
	演習21a (文化史)	3前	○		2			○				1						
	演習22a (文化史)	3前	○		2			○				1						
	演習1b (日本文化)	3後	○		2			○		1								
	演習2b (日本文化)	3後	○		2			○			1							
	演習3b (日本文化)	3後	○		2			○		1								
	演習4b (日本文化)	3後	○		2			○		1								
	演習5b (日本文化)	3後	○		2			○		1								
	演習6b (国際文化・英)	3後	○		2			○				1						
	演習7b (国際文化・英)	3後	○		2			○		1								
	演習8b (国際文化・英)	3後	○		2			○		1								
	演習9b (国際文化・英)	3後	○		2			○		1								
	演習10b (国際文化・西)	3後	○		2			○				1						
	演習11b (国際文化・西)	3後	○		2			○		1								
	演習12b (国際文化・西)	3後	○		2			○				1						
	演習13b (国際文化・西)	3後	○		2			○		1								
	演習14b (文化史)	3後	○		2			○		1								
	演習15b (文化史)	3後	○		2			○				1						
	演習16b (文化史)	3後	○		2			○		1								
	演習17b (文化史)	3後	○		2			○				1						
	演習18b (文化史)	3後	○		2			○		1								
	演習19b (文化史)	3後	○		2			○		1								
	演習20b (文化史)	3後	○		2			○		1								
	演習21b (文化史)	3後	○		2			○				1						
	演習22b (文化史)	3後	○		2			○				1						
	研究法演習a	4前	○		2			○		14	7	1						
	研究法演習b	4後	○		2			○		14	7	1						
	卒業論文・卒業プレゼンテーション	4通	○		4			○		1								
	小計(98科目)	—	—		10	188	0	—		16	7	1	0	0	1			
	専門基礎科目	日領本域文化	初級くずし字ワークショップ	1前・後		2			○									1
			漢字文化論	1前		2		○		1								
			日本語データ分析入門	1前・後		2			○									1
日本文学読解トレーニング			1後		2			○		2								オムニバス・共同(一部)
領国際・文化英化		パフォーマンスa	1前		2			○										3
		パフォーマンスb	1後		2			○										3
		英語アカデミック・ベーシックスa	1前		2			○										3
		英語アカデミック・ベーシックスb	1後		2			○										3
国際文化領域・西		スペイン語Ⅰ-1(文法)	1前		1			○		1								
		スペイン語Ⅰ-2(文法)	1前		1			○		1								
		スペイン語Ⅰ-1(会話)	1前		1			○									1	
		スペイン語Ⅰ-2(会話)	1前		1			○									1	
		スペイン語Ⅱ-1(文法)	1後		1			○		1								
		スペイン語Ⅱ-2(文法)	1後		1			○		1								
		スペイン語Ⅱ-1(会話)	1後		1			○									1	
		スペイン語Ⅱ-2(会話)	1後		1			○									1	
		Gramática y lectura I-1	1前		1			○		1								
		Gramática y lectura I-2	1前		1			○									1	
		Comunicación oral I-1	1前		1			○				1						
		Comunicación oral I-2	1前		1			○									1	
	Gramática y lectura II-1	1後		1			○		1									
	Gramática y lectura II-2	1後		1			○									1		
	Comunicación oral II-1	1後		1			○				1							
	Comunicación oral II-2	1後		1			○									1		

専門基礎科目 (続き)	文化史領域	文化史学序説	1前		2	○			5	4					オムニバス・共同 (一部)		
		日本史概説a	1前		2	○			1								
		日本史概説b	1後		2	○					1						
		東洋史概説a	1前		2	○					1						
		東洋史概説b	1後		2	○					1						
		西洋史概説a	1前		2	○				1							
		西洋史概説b	1後		2	○				1							
		史学概論	1後		2	○				2	2					オムニバス	
		美術史概論	1後		2	○				2						オムニバス・共同 (一部)	
		哲学概論	1後		2	○								1			
		宗教学概論	1後		2	○						1					
		聖書学概論	1後		2	○						1					
		小計(36科目)		—	—	0	56	0	—	—	11	5	0	0	0	13	
		専門探究科目	文理融合特論	3・4後		2	○				2						オムニバス・共同 (一部)
死生学	2・3後			2	○				3	3					オムニバス		
怪異学1	2・3前			2	○				1								
怪異学2	2・3後			2	○				2						オムニバス・共同 (一部)		
ファンタジー学1	2後			2	○				1								
ファンタジー学2	2・3前			2	○								1				
異文化コミュニケーション1	2後			2	○				1								
異文化コミュニケーション2	2・3後			2	○	○				1							
源氏物語の世界1	2・3前			2	○				1								
源氏物語の世界2	2・3後			2	○					1							
日本語学の世界1	1・2前			2	○				1								
日本語学の世界2	1・2後			2	○								1				
日本語学の世界3	2・3後			2	○								1				
日本古典文学の世界1	1・2前			2	○								1				
日本古典文学の世界2	1・2後			2	○								1				
日本古典文学の世界3	2・3後			2	○				1								
日本近代文学の世界1	1・2後			2	○								1				
日本近代文学の世界2	1・2後			2	○								1				
日本近代文学の世界3	2・3後			2	○								1				
漢文学の世界	1・2後			2	○								1				
英語文学の世界1	1・2前			2	○								1				
英語文学の世界2	1・2後			2	○								1				
英語学の世界	1・2後			2	○				1								
英語音声学の世界	1・2前			2	○								1				
異文化コミュニケーションの世界	1・2前			2	○								1				
児童文学の世界	1・2前			2	○				1					1			
メディアスペイン語の世界	2・3前			2	○	○								1			
西洋美術史の世界	1・2後			2	○				1								
日本美術史の世界	1・2前			2	○				1								
東洋美術史の世界	1・2後			2	○									1			
歴史ミュージカルの世界	1・2前			2	○				1								
日本語の歴史と文化	2・3休			2	○				1					1	オムニバス		
イギリスの歴史と文化	2前			2	○						1						
アメリカの歴史と文化	2後			2	○									1			
スペインの歴史と文化	2・3前			2	○									1			
ラテンアメリカの歴史と文化	2・3前			2	○									1			
日本の歴史と文化1	2・3前			2	○									1			
日本の歴史と文化2	2・3後			2	○									1			
中国の歴史と文化	2・3後			2	○									1			
イスラームの歴史と文化	2・3前			2	○									1			
朝鮮・韓国の歴史と文化	2・3前			2	○									1			
中欧・東欧の歴史と文化	2・3前			2	○									1			
パフォーマンス・アーツa (英語)	2前			2				○		1							
パフォーマンス・アーツb (英語)	2後			2				○		1							
パフォーマンス・アーツ (スペイン語)	2・3後			2				○			1						
対照言語学1 (日英)	3・4後			2	○									1	隔年		
対照言語学2 (日西)	2・3後			2	○				1						隔年		
対照言語学3 (日中)	3・4前		2	○									1	隔年			
対照言語学4 (日韓)	2・3後		2	○									1	隔年			
短期研修1 (英語圏)	2・3休		2				○		1								
短期研修2 (スペイン語圏)	2・3休		2				○			1							
短期研修3 (文化史・国外)	1・2・3・4休		2				○			2				共同			
短期研修4 (文化史・国内)	1・2・3・4休		2				○							共同			
短期研修5 (韓国)	1・2・3・4休		2				○		1					共同			

専門探究科目(続き)	日本語学概論1	2前								1					1	オムニバス
	日本語学概論2	2後								1						
	日本古典文学概論1	2前								1						
	日本古典文学概論2	2後								1	1					オムニバス
	日本近代文学概論1	2前													1	
	日本近代文学概論2	2後									1					
	現代の日本語	2・3前									1					
	日本近代文学とジェンダー	2・3前									1					
	日本近代文学と社会	2・3後													1	
	日本語学探究	3前													1	
	日本古典文学探究	3後													1	
	日本近代文学探究	3前													1	
	比較文学研究	2・3後													1	
	日本芸能文化1	2・3前													1	
	日本芸能文化2	2・3後									1					
	現代日本サブカルチャー分析	2・3後									4	1				オムニバス・共同(一部)
	中級くずし字ワークショップ	2・3前													1	
	上級くずし字ワークショップ	2・3後													1	
	創作ワークショップ1(俳句)	2・3前													1	
	創作ワークショップ2(短歌)	2・3休													1	
	創作ワークショップ3(小説)	2・3前													1	
	創作ワークショップ4(朗読)	2・3後													1	
	日本文学踏査	1・2後									1	1				共同
	書道1	2・3前													1	
	書道2	2・3後													1	
	日本語表現法1	2・3前													1	
	日本語表現法2	2・3後													1	
	漢文学1	2・3休													1	
	漢文学2	2・3休													1	
	プレゼンテーションa	2前													3	
	プレゼンテーションb	2後													3	
	対話表現文法a	2前													2	
	対話表現文法b	2後													2	
	英語アカデミック・アドバンスト	3後													1	
	コミュニケーション・スキルズIa	2前									1				2	
	コミュニケーション・スキルズIb	2後									1				2	
	コミュニケーション・スキルズIIa	3前													3	
	コミュニケーション・スキルズIIb	3後													3	
	時事英語自主学修	2・3前・後													1	
	発音クリニック	1・2休													1	
	留学準備スタートアップ講座	1後													1	
	英語通訳演習	2前													1	
	英語翻訳演習1a	3前														
	英語翻訳演習1b	3後														
	英語翻訳演習2a	3前													1	
	英語翻訳演習2b	3後													1	
	児童文学演習	2後									1					
	談話分析演習	2後									1					
	談話分析	2前									1					
	英語史	2前													1	
英語圏文学	3後													1		
英語圏比較文化	3前													1		
国際文化交流	1・2前													1		
国際文化交流演習	2・3後													1		
スペイン語Ⅲ(文法)	2前									1						
スペイン語Ⅲ(会話)	2前													2		
スペイン語Ⅲ(作文)	2前													2		
Gramática y lectura Ⅲ-1	2前									1						
Gramática y lectura Ⅲ-2	2前													1		
Comunicación oral Ⅲ-1	2前										1					
Comunicación oral Ⅲ-2	2前													1		
スペイン語Ⅳ(文法)	2後									1						
スペイン語Ⅳ(会話)	2後													2		
スペイン語Ⅳ(読解演習)	2後													2		
スペイン語圏の文化と社会	2後									1	2			1	オムニバス	
スペイン語Ⅴ(総合)	3前													2		
スペイン語Ⅴ(読解演習)	3前													1		
スペイン語Ⅵ(総合)	3後													2		

専門探究科目（続き）	スペイン語検定対策講座	2・3前			2				○									1	
	スペイン語音声学	2・3前			2		○				1								
	スペイン語学	2・3前			2		○				1								
	スペイン語圏の世界遺産	2・3前			2				○										1
	スペイン文学史	2・3前			2		○												1
	ラテンアメリカ文学史	2・3後			2		○												1
	スペイン美術	2・3後			2		○												1
	スペイン語圏の音楽文化	2・3後			2					○									1
	スペイン文学を楽しむ	2・3前			2					○									1
	ラテンアメリカ文学を楽しむ	2・3後			2					○									1
	スペイン語圏の社会と女性	2・3前			2		○					1							
	スペイン語史	3・4後			2		○				1								
	スペイン・ラテンアメリカ文学	3・4後			2		○					1							
	スペイン語翻訳演習	3・4後			2					○			1						
	スペイン語通訳演習	3・4前			2					○									1
	ビジネススペイン語	3・4後			2					○									1
	グローバルヒストリー	2・3後			2		○				1								
	西洋思想史	2・3前			2		○												1
	現代社会と宗教	2・3休			2		○												1
	キリスト教の源流	2・3後			2		○				1								
	日本古代史特論	3前			2		○				1								
	日本中世史特論	3後			2		○												1
	日本近世史特論	3前			2		○					1							
	日本近現代史特論	3後			2		○												1
	日本思想史	2・3前			2		○												1
	古文書学1	2・3前			2		○												1
	古文書学2	2・3後			2		○												1
	東洋史特論1	3前			2		○					1							
	東洋史特論2	3後			2		○					1							
	東洋思想史	2・3後			2		○												1
	西洋史特論1	3前			2		○												1
	西洋史特論2	3後			2		○												1
	歴史ミュージカル特論	3後			2		○				1								
	西洋美術史特論1	3前			2		○				1								
	西洋美術史特論2	3後			2		○												1
	近現代美術史特論	3前			2		○												1
	日本美術史特論1	3前			2		○												1
	日本美術史特論2	3後			2		○				1								
	東洋美術史特論	3前			2		○												1
	工芸史	3前			2		○												1
	人間とは何かについての哲学特論	3前			2		○												1
	どう生きるかについての哲学特論	3後			2		○												1
	宗教学特論	3前			2		○					1							
	宗教史特論	3後			2		○					1							
	キリスト教の展開	2・3前			2		○												1
	聖書学特論	3後			2		○					1							
	西洋キリスト教史1	2・3前			2		○												1
	西洋キリスト教史2	2・3後			2		○												1
	日本キリスト教史1	2・3前			2		○												1
	日本キリスト教史2	2・3後			2		○												1
	日本宗教史1	2・3前			2		○												1
	日本宗教史2	2・3後			2		○												1
	仏教史	2・3後			2		○												1
	美学	2・3前			2		○					1							
	考古学	2・3前			2		○												1
	民俗学	2・3後			2		○												1
	政治学1	2・3前			2		○				1								
	政治学2	2・3後			2		○				1								
	社会学1	2・3前			2		○												1
	社会学2	2・3後			2		○												1
	人文・自然地理学	2・3前			2		○												1
	地誌	2・3後			2		○												1
	帝国の歴史	2・3後			2		○				5	2							オムニバス
	神話と伝承	2・3前			2		○												1
	女性史	2・3前			2		○												1
	ジェンダー史	2・3後			2		○				2	2							オムニバス
文化史学発展研究1	3後			2		○				5	4							オムニバス・共同（一部）	
文化史学発展研究2	3前			2		○												1	
小計(190科目)				0	376	0				18	7	1	0	0				92	

資格課程科目	教職課程	教職入門	1後		2	○			1					2	オムニバス・共同 (一部)	
		教育学概論	2前		2	○								1		
		教育心理学	2前		2	○			1							
		教育制度論	2後		2	○			1							
		教育方法論 (ICT活用を含む)	2後		2	○									1	
		特別支援教育概論	2休		1	○									1	
		教育課程論	3前		1	○									1	
		特別活動の理論と方法	3前		1	○			1							
		生徒指導 (進路指導を含む)	3前		2	○			1							
		教育相談	3後		2	○			1							
		道徳教育の理論と方法	3前		2	○									1	
		教育実習指導	3後		1	○			1							
		総合的な学習の時間の指導法	3前		1	○									1	
		教職実践演習 (中・高)	4後		2		○		1						2	オムニバス・共同 (一部)
		教育実習Ⅰ	4通		2			○	1							標準外
		教育実習Ⅱ	4通		2			○	1							標準外
		教育と法律	2・3・4後		2	○									1	
		現代教育問題	2・3・4前		2	○									1	
		学習科学	2・3・4前		2	○			1							
		国語科教育法Ⅰ	2前		2	○									1	
		国語科教育法Ⅱ	2後		2	○									1	
		英語科教育法Ⅰ	2前		2	○									1	
		英語科教育法Ⅱ	2後		2	○									1	
		イスパニア語科教育法Ⅰ	2前		2	○									1	
		イスパニア語科教育法Ⅱ	2後		2	○									1	
		社会科・地歴科教育法Ⅰ	2前		2	○									1	
		社会科・地歴科教育法Ⅱ	2後		2	○									1	
		宗教科教育法Ⅰ	2前		2	○									1	
		宗教科教育法Ⅱ	2後		2	○									1	
		国語科教育法Ⅲ	3前		2	○									1	
		国語科教育法Ⅳ	3後		2	○									1	
		英語科教育法Ⅲ	3前		2	○									1	
		英語科教育法Ⅳ	3後		2	○									1	
		イスパニア語科教育法Ⅲ	3前		2	○									1	
		イスパニア語科教育法Ⅳ	3後		2	○									1	
		社会科・公民科教育法Ⅰ	3前		2	○									1	
		社会科・公民科教育法Ⅱ	3後		2	○									1	
		宗教科教育法Ⅲ	3前		2	○									1	
		宗教科教育法Ⅳ	3後		2	○									1	
小計(39科目)	—	—	0	73	0	—	—	2	0	0	0	0	0	11		
司書教諭課程	学校経営と学校図書館	2・3・4前		2	○									1		
	読書と豊かな人間性	2・3・4後		2	○									1		
	学校図書館メディアの構成	2・3・4後		2	○									1		
	学習指導と学校図書館	2・3・4前		2	○									1		
	情報メディアの活用	3・4後		2	○									1		
	小計(5科目)	—	—	0	10	0	—	—	0	0	0	0	0	0	2	
学芸員課程	生涯学習概論	2・3・4前		2	○									1		
	博物館情報・メディア論	3休		2	○									1		
	博物館学	3休		4	○									1		
	博物館資料論	3休		2	○			1								
	博物館教育論	3後		2	○									1		
	博物館展示論	3後		2	○									1		
	博物館資料保存論	3前		2	○									1		
	博物館実習	4通		3			○	1						1	標準外 共同	
小計(8科目)	—	—	0	19	0	—	—	1	0	0	0	0	0	7		
基幹教育科目	清泉スタンダード	スタートアップ・ゼミナール	1前		1		○		2					2		
		初年次ゼミナール	1前		2		○		7	3						
		初年次ゼミナール	1後		2		○		1							メディア
		キャリア・デザインⅠ	1後		2	○		3							1	
		スペイン語の世界	2後		2		○		1	1					8	
		人間論	1前		2		○		1	2					2	オムニバス
		キリスト教学Ⅰ	2前		2		○		1	1					2	
		キリスト教学Ⅱ	2後		2		○		1	1					2	
		健康・安全管理	1後		2		○								2	オムニバス
		情報環境の構築	1前		1			○	1						2	
		情報環境の構築	1休		1				1						1	共同
		データリテラシー基礎	1後		1			○	1						2	
		情報社会の安全と倫理	1前		1			○	1							
小計(13科目)	—	—	18	3	0	—	—	14	6	0	0	0	0	20		

必修 外国語	First-year English: Integrated Skills	1前・後			2			○							7	
	First-year English: Seisen Studies in English	1前・後			2			○							5	
	First-year English: Basic English HC a	1前			2			○							1	
	First-year English: Basic English HC b	1後			2			○							1	
	Second-year English: English Seminar	2前		2			○								5	
	小計(5科目)		—	—	2	8	0	—		0	0	0	0	0	15	
基幹 教育 科目 (<small>続き</small>)	選択 外国語	English Skills Workshop (Extensive Reading) a	1・2・3・4前			2			○						1	
		English Skills Workshop (Extensive Reading) b	1・2・3・4後			2			○						1	
		English Skills Workshop (Active Skills for Communication) a	1・2・3・4前			2			○						1	
		English Skills Workshop (Active Skills for Communication) b	1・2・3・4後			2			○						1	
		English Skills Workshop (Academic Listening)	1・2・3・4後			2			○						1	
		English Skills Workshop (Advanced Academic Listening)	1・2・3・4後			2			○						1	
		English Skills Workshop (Academic Writing)	1・2・3・4前			2			○						1	
		TOEIC対策講座 Pre-intermediate a	1・2・3・4前			2			○							3
		TOEIC対策講座 Pre-intermediate b	1・2・3・4後			2			○							4
		TOEIC対策講座 Intermediate a	1・2・3・4前			2			○							3
		TOEIC対策講座 Intermediate b	1・2・3・4後			2			○							4
		TOEIC対策講座 Advanced a	1・2・3・4前			2			○							1
		TOEIC対策講座 Advanced b	1・2・3・4後			2			○							1
		留学準備TOEFL-ITP対策講座 a	1・2・3・4前			2			○							1
		留学準備TOEFL-ITP対策講座 b	1・2・3・4後			2			○							1
		留学準備TOEFL S&W対策講座	1・2・3・4後			2			○							1
		留学準備IELTS対策講座 a	1・2・3・4前			2			○							1
		留学準備IELTS対策講座 b	1・2・3・4後			2			○							1
		英検対策講座 a	1・2・3・4前			2			○							1
		英検対策講座 b	1・2・3・4後			2			○							1
		Business Communication	1・2・3・4後			2			○							1
		Current Issues: SDGs a	1・2・3・4前			2			○							1
		Current Issues: SDGs b	1・2・3・4後			2			○							1
		フランス語入門	1・2・3・4前			2			○							1
		フランス語初級	1・2・3・4後			2			○							1
		ドイツ語入門	1・2・3・4前			2			○							1
		ドイツ語初級	1・2・3・4後			2			○							1
		中国語入門	1・2・3・4前			2			○							3
		中国語初級	1・2・3・4後			2			○							1
		朝鮮・韓国語入門	1・2・3・4前			2			○							1
		朝鮮・韓国語初級	1・2・3・4後			2			○							1
		イタリア語入門	1・2・3・4前			2			○							1
		イタリア語初級	1・2・3・4後			2			○							1
		ギリシア語入門	1・2・3・4前			2			○			1				
		ギリシア語初級	1・2・3・4後			2			○			1				
		ラテン語入門	1・2・3・4前			2			○							1
		ラテン語初級	1・2・3・4後			2			○							1
		ロシア語入門	1・2・3・4前			2			○				1			
		ロシア語初級	1・2・3・4後			2			○				1			
		日本語上級文法a	1・2・3・4前			2			○							1
		日本語上級文法b	1・2・3・4後			2			○							1
		日本語上級読解a	1・2・3・4前			2			○							1
		日本語上級読解b	1・2・3・4後			2			○							1
		日本語上級会話a	1・2・3・4前			2			○							1
		日本語上級会話b	1・2・3・4後			2			○							1
		日本語上級総合a	1・2・3・4前			2			○							1
		日本語上級総合b	1・2・3・4後			2			○							1
		日本語中級Ia	1・2・3・4前			2			○							1
		日本語中級Ib	1・2・3・4後			2			○							1
		日本語中級IIa	1・2・3・4前			2			○							1
		日本語中級IIb	1・2・3・4後			2			○							1
		日本語中級IIIa	1・2・3・4前			2			○							1
		日本語中級IIIb	1・2・3・4後			2			○							1
		日本語中級IVa	1・2・3・4前			2			○							1
		日本語中級IVb	1・2・3・4後			2			○							1
	小計(55科目)		—	—	0	110	0	—		1	1	0	0	0	27	

学位又は称号	学士（人文科学）	学位又は学科の分野	文学関係
卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等	
<ul style="list-style-type: none"> ・自学科専門科目: 専門コア科目22単位必修（10単位必修、12単位選択必修）、専門基礎科目から8単位選択必修、専門探究科目から32単位選択必修（計62単位） ・基幹教育科目: 清泉スタンダード18単位必修、必修外国語から2単位必修、4単位選択必修、選択外国語（日本語を除く）から2単位選択必修、教養科目から14単位以上選択必修（計40単位） ・自由選択: 22単位 合計124単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：24単位（半期））		1学年の学期区分	2学期
		1学期の授業期間	13週
		1時限の授業の標準時間	105分

教 育 課 程 等 の 概 要

(文学部日本語日本文学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く)教員以外の教員		
自学科専門科目	日本古典文学入門演習	1後	○	2				○			1	1						オムニバス
	日本近代文学入門演習	1前	○	2				○			1							
	日本語学入門演習	1前	○	2				○			1							
	漢文学基礎演習	1前・後		2				○										1
	初級くずし字解読演習	1前・後		2				○										1
	源氏物語1	2前	○	2				○			1							
	源氏物語2	2後		2				○										1
	日本古典文学概論1	2休		2				○			1							1
	日本古典文学概論2	2後		2				○				1						1
	日本近代文学概論1	2前		2				○			1		1					1
	日本近代文学概論2	2後		2				○			1							1
	日本語学概論1	2後		2				○			1							
	日本語学概論2	2前		2				○			1							
	日文データサイエンス演習	2前・後		2					○									1
	日本古典文学基礎演習2	2後			2				○									1
	日本古典文学基礎演習3	2前			2				○		1							
	日本古典文学基礎演習5	2前			2				○			1						
	日本古典文学基礎演習6	2後			2				○				1					
	日本古典文学基礎演習7	2前			2				○									1
	日本古典文学基礎演習8	2後			2				○									1
	日本近代文学基礎演習1	2前			2				○		1							
	日本近代文学基礎演習3	2前			2				○		1							
	日本近代文学基礎演習4	2後			2				○		1							
	日本近代文学基礎演習6	2後			2				○									1
	日本語学基礎演習1	2前			2				○		1							
	日本語学基礎演習2	2後			2				○									1
	日本語学基礎演習3	2前			2				○		1							
	日本語学基礎演習4	2後			2				○		1							
小計(28科目)				—	—	28	28	0	—	—	5	1	0	0	0	0	9	
専門応用科目	日本古典文学演習2a	3・4前	○	2				○			1							
	日本古典文学演習2b	3・4後	○	2				○			1							
	日本古典文学演習3a	3・4前	○	2				○				1						
	日本古典文学演習3b	3・4後	○	2				○				1						
	日本古典文学演習4a	3・4前	○	2				○			1							
	日本古典文学演習4b	3・4後	○	2				○			1							
	日本古典文学演習5a	3・4前		2				○									1	
	日本古典文学演習6b	3・4後		2				○									1	
	日本近代文学演習1a	3・4前	○	2				○			1							
	日本近代文学演習1b	3・4後	○	2				○			1							
	日本近代文学演習2a	3・4前	○	2				○			1							
	日本近代文学演習2b	3・4後	○	2				○			1							
	日本近代文学演習3a	3・4前		2				○									1	
	日本近代文学演習3b	3・4後		2				○									1	
	日本近代文学演習4a	3・4前		2				○									1	
	日本近代文学演習5b	3・4後		2				○									1	
	日本語学演習1a	3・4前	○	2				○			1							
	日本語学演習1b	3・4後	○	2				○			1							
日本語学演習2a	3・4前	○	2				○			1								
日本語学演習2b	3・4後	○	2				○			1								

専門応用科目(続)	日本語学演習3a	3・4前			2			○								1		
	日本語学演習3b	3・4後			2			○								1		
専門応用科目(続)	日本語学演習4b	3・4後			2			○								1		
	研究法演習a	4前	○	2				○		6	1							
専門応用科目(続)	研究法演習b	4後	○	2				○		6	1							
	卒業論文	4通	○	4				○		1								
小計(26科目)		—	—	8	46	0		—		6	1	0	0	0	0	9		
自学科専門科目(続き)	専門探究科目	文語文法	1後			2		○									1	
		口語文法	1前			2		○									1	
		日本古典文学Ⅰ-1a	1・2前			2		○									1	
		日本古典文学Ⅰ-1b	1・2前			2		○									1	
		日本古典文学Ⅰ-2a	1・2前			2		○				1					1	
		日本古典文学Ⅰ-2b	1・2後			2		○									1	
		日本近代文学Ⅰ-1a	1・2前			2		○									1	
		日本近代文学Ⅰ-1b	1・2前			2		○									1	
		日本語学Ⅰ-1a	1・2後			2		○									1	
		日本語学Ⅰ-1b	1・2後			2		○									1	
		中級くずし字解読演習a	2・3・4前			2			○								1	
		上級くずし字解読演習b	2・3・4後			2			○								1	
		漢文学a	2・3・4休			2		○									1	
		漢文学b	2・3・4休			2		○									1	
		書道a	2・3・4前			2		○									1	
		書道b	2・3・4後			2		○									1	
		日本語表現法1	2・3・4前・後			2		○									1	
		日本語表現法2	2・3・4休			2		○									1	
		日本語史a	2・3・4前			2		○									1	
		日本古典文学Ⅱ-1a	2・3・4前			2		○				1						
		日本古典文学Ⅱ-1b	2・3・4後			2		○				1						
		日本古典文学Ⅱ-2a	2・3・4前			2		○									1	
		日本近代文学Ⅱ-1a	2・3・4前			2		○									1	
		日本近代文学Ⅱ-1b	2・3・4前			2		○									1	
		日本近代文学Ⅱ-2a	2・3・4休			2		○				1						メディア
		日本近代文学Ⅱ-2b	2・3・4前			2		○									1	
		日本語学Ⅱ-1a	2・3・4前			2		○									1	
		日本語学Ⅱ-1b	2・3・4前			2		○									1	
		日本語学Ⅱ-2a	2・3・4前			2		○									1	
		日本語学Ⅱ-2b	2・3・4後			2		○				1						
		対照言語学1(日英)a	2・3・4前			2		○									1	隔年
		対照言語学1(日英)b	2・3・4前			2		○									1	隔年
		対照言語学2(日西)	2・3・4前			2		○				1						
		対照言語学3(日中)a	2・3・4前			2		○									1	隔年
		対照言語学3(日中)b	2・3・4後			2		○									1	隔年
		対照言語学4(日韓)a	2・3・4前			2		○				1						隔年
		対照言語学4(日韓)b	2・3・4後			2		○				1						隔年
		比較文学1a	2・3・4前			2		○									1	
		比較文学1b	2・3・4後			2		○									1	
		日本語日本文学スタディーズ1	2・3・4前			2		○					1					
		日本語日本文学スタディーズ2	2・3・4休			2		○									1	
		日本語日本文学スタディーズ3	2・3・4後			2		○									1	
		日本語日本文学スタディーズ4	2・3・4前			2		○									1	
小計(43科目)		—	—	0	86	0		—		5	2	0	0	0	0	23		
全学共通科目	「建学の精神」科目	人間論	1前	○	2			○		3	1						オムニバス	
		キリスト教学Ⅰ	2前		2			○		1	1					3		
		キリスト教学Ⅱ	2後		2			○		1	1					3		
		キリスト教と文化a	1・2・3・4前			2		○		1						5	オムニバス	
		キリスト教と文化b	1・2・3・4後			2		○		1						5	オムニバス	
		キリスト教概論a	1・2・3・4前			2		○								1		
		キリスト教概論b	1・2・3・4後			2		○								1		
		キリスト教思想a	2・3・4前			2		○		1								
		キリスト教思想b	2・3・4後			2		○		1								
		キリスト教文学a	2・3・4前			2		○								1		
		キリスト教文学b	2・3・4後			2		○								1		
		小計(11科目)		—	—	6	16	0		—		3	1	0	0	0	12	
初年次教育科目	スタートアップ・ゼミナール	1前		1				○		7	1							
	初年次ゼミナール	1前	○	2				○		7	2	1						
	初年次ゼミナール	1後			2			○			2					メディア		
	初年次スタディーズ1	1後			2			○		6	3					オムニバス・共同(一部)		
	初年次スタディーズ2	1後			2			○		7	1	1				オムニバス・共同(一部)		

初年次教育科目(続き)	初年次スタディーズ3	1後			2		○			6	2					オムニバス・共同(一部)
	初年次スタディーズ4	1後			2		○			5	2					オムニバス・共同(一部)
	初年次スタディーズ5	1後			2		○			4	4					オムニバス・共同(一部)
	初年次スタディーズ6	1後			2		○				1					メディア
	小計(9科目)	—	—	3	14	0	—			27	8	2	0	0	0	
外国語科目(必修・英語)	First-year English: Reading & Writing a	1前			2		○			1						10
	First-year English: Advanced English I-1a	1前			2		○									1
	First-year English: Advanced English I-2a	1前			2		○									1
	First-year English: Advanced English II-1a	1前			2		○									1
	First-year English: Advanced English II-2a	1前			2		○									1
	First-year English: Basic English a	1前			4		○									1
	First-year English: Reading & Writing b	1後			2		○			1						10
	First-year English: Advanced English I-1 b	1後			2		○									1
	First-year English: Advanced English I-2 b	1後			2		○									1
	First-year English: Advanced English II-1 b	1後			2		○									1
	First-year English: Advanced English II-2 b	1後			2		○									1
	First-year English: Basic English b	1後			4		○									1
	First-year English: Listening & Speaking	1前・後			2		○									7
	First-year English: Seisen Studies in English	1前・後			2		○									7
	Second-year English: Academic English a	2前			2		○									9
	Second-year English: Advanced English I-1a	2前			2		○									1
	Second-year English: Advanced English I-2a	2前			2		○									1
	Second-year English: Advanced English II-1a	2前			2		○									1
	Second-year English: Advanced English II-2a	2前			2		○									1
	Second-year English: Academic English b	2後			2		○									9
	Second-year English: Advanced English I-1b	2後			2		○									1
	Second-year English: Advanced English I-2b	2後			2		○									1
	Second-year English: Advanced English II-1b	2後			2		○									1
	Second-year English: Advanced English II-2b	2後			2		○									1
	Second-year English: Writing	2前・後			2		○									6
	Second-year English: English Seminar	2前・後			2		○			1						5
	小計(26科目)	—	—	0	56	0	—			1	0	0	0	0	30	
外国語科目(選択・英語)	English Skills Workshop (Extensive Reading)a	1・2・3・4前			2		○									1
	English Skills Workshop (Extensive Reading)b	1・2・3・4後			2		○									1
	English Skills Workshop (Academic Listening)a	1・2・3・4前			2		○									1
	English Skills Workshop (Academic Listening)b	1・2・3・4後			2		○									1
	English Skills Workshop (Advanced Academic Listening)a	1・2・3・4前			2		○									1
	English Skills Workshop (Advanced Academic Listening)b	1・2・3・4後			2		○									1
	English Skills Workshop (Academic Writing)a	1・2・3・4前			2		○									1

資格課程科目	教職課程	教職入門	1後			2		○			3							オムニバス		
		教育学概論	2前			2		○			1									
		教育心理学	2前			2		○			1									
		教育制度論	2後			2		○			1									
		教育方法論 (ICT活用を含む)	2後			2		○			1									
		特別支援教育概論	2休			1		○										1		
		教育課程論	3前			1		○						1						
		特別活動の理論と方法	3前			1		○				1								
		生徒指導 (進路指導を含む)	3前			2		○				1								
		教育相談	3後			2		○											1	
		道徳教育の理論と方法	3前			2		○				1								
		教育実習指導	3後			1		○				1								
		総合的な学習の時間の指導法	3後			1		○						1						
		教育実践演習 (中・高)	4後			2				○		3								オムニバス
		教育実習1	4通			2						1								標準外
		教育実習2	4通			2						1								標準外
		国語科教育法 I	2前			2		○											1	
		国語科教育法 II	2後			2		○											1	
		国語科教育法 III	3前			2		○											1	
		国語科教育法 IV	3後			2		○											1	
		英語科教育法 I	2前			2		○				1								
		英語科教育法 II	2後			2		○				1								
		英語科教育法 III	3前			2		○				1								
		英語科教育法 IV	3後			2		○				1								
		イスパニア語科教育法 I	2前			2		○											1	
		イスパニア語科教育法 II	2後			2		○											1	
		イスパニア語科教育法 III	3前			2		○											1	
		イスパニア語科教育法 IV	3後			2		○											1	
		社会科・地歴科教育法 I	2前			2		○				1								
		社会科・地歴科教育法 II	2後			2		○				1								
		社会科・公民科教育法 I	3前			2		○				1								
		社会科・公民科教育法 II	3後			2		○				1								
		宗教科教育法 I	2前			2		○											1	
		宗教科教育法 II	2後			2		○											1	
		宗教科教育法 III	3前			2		○											1	
		宗教科教育法 IV	3後			2		○											1	
		現代と法律	2・3・4後			2		○											1	
		現代教育問題	2・3・4後			2		○											1	
		学習科学	2・3・4前			2		○				1								
小計(39科目)		—	—	0	73	0	—	—	—	5	0	1	0	0	0	9				
資格課程科目	司書教諭課程	学校経営と学校図書館	2前			2		○									1			
		読書と豊かな人間性	2・3・4後			2		○									1			
		学校図書館メディアの構成	2・3・4後			2		○					1							
		学習指導と学校図書館	2・3・4前			2		○									1			
		情報メディアの活用	3・4後			2		○					1							
小計(5科目)		—	—	0	10	0	—	—	—	1	0	1	0	0	2					
資格課程科目	司書課程	生涯学習概論1	2・3・4前			2		○									1			
		生涯学習概論2	2・3・4後			2		○									1			
		図書館情報学概論	2前			2		○					1					1		
		情報資源組織論	2前			2		○										1		
		情報資源組織演習 I	2後			2				○								1		
		情報資源組織演習 II	2・3後			2				○								1		
		図書館サービス概論	2・3・4前			2		○										1		
		児童サービス論	2・3・4前			2		○										1		
		図書館情報資源概論	2・3・4前			2		○										1		
		図書館制度・経営論	3・4後			2		○										1		
		情報サービス論	3・4前			2		○										1		
		情報サービス演習 I	3・4前			2				○			1							
		情報サービス演習 II	3・4後			2				○			1							
		図書館情報技術論	3・4前			2		○				1						1	オムニバス	
		図書館基礎特論	2・3・4後			1		○										1		
		図書・図書館史	2・3・4前			1		○										1		
		図書館サービス特論	2・3・4後			2		○										1		
図書館情報資源特論	3・4後			1		○										1				
図書館実習	3・4通			1								1					標準外			
小計(19科目)		—	—	0	34	0	—	—	—	1	0	1	0	0	12					

資格課程科目(続き)	書学	学校図書館概論	2前			2		○								1		
	課程	学校教育概論	2・3・4後			2		○					1					
	司	小計(2科目)	—	—	0	4	0	—				0	0	1	0	0	1	
	学芸員課程		博物館情報・メディア論	3休			2		○								1	
			博物館教育論	3後			2		○								1	
			博物館展示論	3後			2		○								1	
			博物館学	3休			4		○								1	
			博物館資料論	3休			2		○			1					1	
			博物館資料保存論	3前			2		○								1	
			博物館実習	4通			3				○	1					1	標準外 共同
		小計(7科目)	—	—	0	17	0	—			1	0	0	0	0	0	6	
	日本語教員課程		日本語教育概論	2前			2		○			1						
			日本語音声学	2・3後			2		○								1	
			日本語教授法Ⅰa	2・3前			2		○								1	
		日本語教授法Ⅰb	2・3後			2		○								1		
		日本語教授法Ⅱa	2・3前			2		○			1							
		日本語教授法Ⅱb	2・3後			2		○			1							
		日本語教育文法	2・3休			2		○								1		
		異文化理解とコミュニケーション	2・3・4後			2		○			1							
		日本語教授法演習1a	3・4前			2			○							1		
		日本語教授法演習1b	3・4後			2			○							1		
		日本語教授法演習2a	3・4前			2			○							1		
		日本語教授法演習2b	3・4後			2			○							1		
		日本語教育実習1	3・4休			2				○	1							
	日本語教育実習3	3・4後			1				○	1								
	小計(14科目)	—	—	0	27	0	—			1	0	0	0	0	0	5		
合計(360科目)			—	—	50	660	0	—		33	8	2	0	0	0	150		
学位又は称号		学士(日本語日本文学)			学位又は学科の分野			文学関係										
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等								
<p>・自学科専門科目:1年次必修科目10単位、2年次必修科目18単位、4年次必修科目8単位、2～4年次選択必修16単位、計52単位</p> <p>・共通科目:「建学の精神」科目(「人間論」2単位必修、「キリスト教学Ⅰ」2単位必修、「キリスト教学Ⅱ」2単位必修、計6単位)、初年次教育科目(「スタートアップ・ゼミナール」1単位必修、「初年次ゼミナール」2単位必修、「初年次スタディーズ」2単位選択必修、計5単位)、外国語科目(英語)(1年次8単位選択必修、2年次8単位選択必修、選択科目2単位選択必修、計18単位)、情報科学科目(「情報科学入門1a」1単位必修、「情報科学入門1b」1単位必修、「情報科学入門2」1単位必修、計3単位)、「心身の健康」科目(「健康・安全管理」2単位必修、「体育実技・理論」1単位選択必修、計3単位)、教養科目・「建学の精神」選択科目・キャリア教育科目から16単位以上選択必修。</p> <p>・自由選択:29単位以上</p> <p>合計132単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限:24単位(半期))</p>										1学年の学期区分				2学期				
										1学期の授業期間				13週				
										1時限の授業の標準時間				105分				

教 育 課 程 等 の 概 要

(文学部英語英文学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考				
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 (助 手 を 除 く) の 教 員			
自 学 科 専 門 科 目	専 門 基 礎 科 目	Listening & Speaking a	1前		2				○								3		
		Listening & Speaking b	1後		2				○									3	
		Performance Workshop a	1前		2					○								2	
		Performance Workshop b	1後		2					○								2	
		Presentation Workshop a	1前		2					○		1						2	
		Presentation Workshop b	1後		2					○		1						2	
		Academic Presentation a	2前		2					○		1						3	
		Academic Presentation b	2後		2					○		1						3	
		Communicative Grammar a	2前		2					○								2	
		Communicative Grammar b	2後		2					○								2	
		イギリス文学入門	1前		○		2			○		1							
		アメリカ文学入門	1前		○		2			○		1							
		英語学入門	1後		○		2			○		1							
		英語音声学入門	1後				2			○								1	
		児童文学入門	1前				2			○		1							
		異文化間コミュニケーション入門	1休				2			○								1	
		発音クリニック1a	1前				1				○							1	
		発音クリニック1b	1後				1				○							1	
		発音クリニック2b	1・2・3・4休				1				○	1							
		Academic Skills for Study Abroad	1後				2				○	1							
		Communication Skills I-1a	2前				2				○	1							
		Communication Skills I-1b	2後				2				○	1							
		Communication Skills I-2a	2前				2				○							1	
		Communication Skills I-2b	2後				2				○							1	
		Communication Skills I-3a	2前				2				○							1	
		Communication Skills I-3b	2後				2				○							1	
		Communication Skills I-4a	2前				2				○							1	
		Communication Skills I-4b	2後				2				○							1	
		Communication Skills I-5a	2前				2				○							1	
		Communication Skills I-5b	2後				2				○							1	
		英語特別演習 (短期語学研修) 1a	1・2・3・4休				3					○	1						
		英語特別演習 (短期語学研修) 1b	1・2・3・4休				3					○	1						
		英語特別演習 (英検対策講座) 4	1・2・3・4休				2				○							1	
		英語特別演習 (TOEFL対策講座) 5	1・2・3・4休				2				○							1	
		英語特別演習 (TOEIC対策講座) 6	1・2・3・4休				2				○							1	
		比較文学2	2・3・4後				2				○							1	
Academic Writing a	1・2・3・4前				2				○							1			
Academic Writing b	1・2・3・4後				2				○							1			
SAS a	1・2・3・4前				2				○	1							メディア		
SAS b	1・2・3・4後				2				○	1							メディア		
英米文学基礎演習1a	2前				2				○							1			
英米文学基礎演習1b	2後				2				○							1			
児童文学基礎演習a	2前				2				○							1			
児童文学基礎演習b	2後				2				○							1			
演劇基礎演習a	2前				2				○	1									
演劇基礎演習b	2後				2				○	1									
英語学基礎演習1a	2前				2				○	1									
英語学基礎演習1b	2後				2				○	1									

専門基礎科目 (続き)	英語学基礎演習2a	2前			2			○							1		
	英語学基礎演習2b	2後			2			○							1		
	英語教育学基礎演習a	2前			2			○		1							
	英語教育学基礎演習b	2後			2			○		1							
	翻訳基礎演習1a	2前			2			○							1		
	翻訳基礎演習1b	2後			2			○			1						
	翻訳基礎演習2a	2前			2			○							1		
	翻訳基礎演習2b	2後			2			○							1		
	英語史	2前			2			○							1		
	児童文学概論	2後			2			○		1						1	
	イギリスの歴史と文化	2後			2			○								1	
	アメリカの歴史と文化	2前			2			○		1							
	イギリス文学概論a	2前			2			○							1		
	イギリス文学概論b	2後			2			○							1		
	英語学概論a	2前			2			○							1		
	英語学概論b	2後			2			○							1		
	通訳a	2・3・4前			2			○							1		
	通訳b	2・3・4後			2			○							1		
	国際文化交流	1・2・3・4前			2			○							2	オムニバス	
	小計(67科目)		—	—	20	113	0	—	—	6	0	1	0	0	28		
自学科専門科目 (続き)	専門応用科目	翻訳演習1a	3前			2			○						1		
		翻訳演習1b	3後			2			○			1					
		翻訳演習2a	3前			2			○						1		
		翻訳演習2b	3後			2			○						1		
		Communication Skills II-1a	3前			2			○						1		
		Communication Skills II-1b	3後			2			○						1		
		Communication Skills II-2a	3前			2			○						1		
		Communication Skills II-2b	3後			2			○						1		
		Communication Skills II-3a	3前			2			○						1		
		Communication Skills II-3b	3後			2			○						1		
		Communication Skills II-4a	3前			2			○						1		
		Communication Skills II-4b	3後			2			○						1		
		Communication Skills II-5a	3前			2			○						1		
		Communication Skills II-5b	3後			2			○						1		
		Communication Skills II-6a	3前			2			○						1		
		Communication Skills II-6b	3後			2			○						1		
		イギリス文学演習1a	3・4前			2			○							1	
		イギリス文学演習1b	3・4後			2			○							1	
		アメリカ文学演習1a	3・4前			2			○		1						
		児童文学演習a	3・4前			2			○							1	
		児童文学演習b	3・4後			2			○							1	
		演劇演習a	3・4前			2			○		1						
		演劇演習b	3・4後			2			○		1						
		英語学演習2a	3・4前			2			○		1						
		英語学演習2b	3・4後			2			○		1						
		英語教育学演習a	3・4前			2			○		1						
		英語教育学演習b	3・4後			2			○		1						
		異文化間コミュニケーション1a	3・4前			2			○							1	
		異文化間コミュニケーション1b	3・4後			2			○							1	
		異文化間コミュニケーション2a	3・4前			2			○		1						
		異文化間コミュニケーション2b	3・4後			2			○		1						
		英語圏文化1	3・4後			2			○							1	
		英語圏文化2	3・4前			2			○							1	
		英語圏文学	3・4前			2			○							1	
		英語圏比較文化	3・4前			2			○		1						
		上級英語特別演習a	2・3・4前			2			○							1	
上級英語特別演習b	2・3・4後			2			○							1			
ゼミナールIa	3後			1			○		6					1			
ゼミナールIb	3前			1			○		6		1						
ゼミナールIIa	4後			1			○		6					3			
ゼミナールIIb	4前			1			○		6		1			2			
卒業論文	4	○		4			○		1								
小計(42科目)		—	—	8	74	0	—	—	6	0	1	0	0	15			

「建学の精神」科目	人間論	1前	○	2			○		3	1					オムニバス
	キリスト教学Ⅰ	2前		2			○		1	1				3	
	キリスト教学Ⅱ	2後		2			○		1	1				3	
	キリスト教と文化a	1・2・3・4前			2		○		1					5	オムニバス
	キリスト教と文化b	1・2・3・4後			2		○		1					5	オムニバス
	キリスト教概論a	1・2・3・4前			2		○							1	
	キリスト教概論b	1・2・3・4後			2		○							1	
	キリスト教思想a	2・3・4前			2		○		1						
	キリスト教思想b	2・3・4後			2		○		1						
	キリスト教文学a	2・3・4前			2		○							1	
	キリスト教文学b	2・3・4後			2		○							1	
小計(11科目)		—	—	6	16	0	—	—	3	1	0	0	0	12	
初年次教育科目	スタートアップ・ゼミナール	1前		1			○		7	1					
	初年次ゼミナール	1前	○	2			○		7	2	1				
	初年次ゼミナール	1後			2		○			2					
	初年次スタディーズ1	1後			2		○		6	3					
	初年次スタディーズ2	1後			2		○		7	1	1				
	初年次スタディーズ3	1後			2		○		6	2					
	初年次スタディーズ4	1後			2		○		5	2					
	初年次スタディーズ5	1後			2		○		4	4					
初年次スタディーズ6	1後			2		○			1						
小計(9科目)		—	—	3	14	0	—	—	27	8	2	0	0	0	
全学共通科目 外国語科目(必修・英語)	First-year English: Reading & Writing a	1前			2		○		1					10	
	First-year English: Advanced English I-1a	1前			2		○							1	
	First-year English: Advanced English I-2a	1前			2		○							1	
	First-year English: Advanced English II-1a	1前			2		○							1	
	First-year English: Advanced English II-2a	1前			2		○							1	
	First-year English: Basic English a	1前			4		○							1	
	First-year English: Reading & Writing b	1後			2		○		1					10	
	First-year English: Advanced English I-1 b	1後			2		○							1	
	First-year English: Advanced English I-2 b	1後			2		○							1	
	First-year English: Advanced English II-1 b	1後			2		○							1	
	First-year English: Advanced English II-2 b	1後			2		○							1	
	First-year English: Basic English b	1後			4		○							1	
	First-year English: Listening & Speaking	1前・後			2		○							7	
	First-year English: Seisen Studies in English	1前・後			2		○							7	
	Second-year English: Academic English a	2前			2		○							9	
	Second-year English: Advanced English I-1a	2前			2		○							1	
	Second-year English: Advanced English I-2a	2前			2		○							1	
	Second-year English: Advanced English II-1a	2前			2		○							1	
	Second-year English: Advanced English II-2a	2前			2		○							1	
	Second-year English: Academic English b	2後			2		○							9	
	Second-year English: Advanced English I-1b	2後			2		○							1	
	Second-year English: Advanced English I-2b	2後			2		○							1	

全学共通科目(続き)	外国語科目(必修・英語)	Second-year English: Advanced English II-1b	2後			2			○							1		
		Second-year English: Advanced English II-2b	2後			2			○								1	
		Second-year English: Writing	2前・後			2			○								6	
		Second-year English: English Seminar	2前・後			2		○			1						5	
		小計(26科目)	—	—	0	56	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0	30	
	外国語科目(選択・英語)	English Skills Workshop (Extensive Reading)a	1・2・3・4前			2			○								1	
		English Skills Workshop (Extensive Reading)b	1・2・3・4後			2			○								1	
		English Skills Workshop (Academic Listening)a	1・2・3・4前			2			○								1	
		English Skills Workshop (Academic Listening)b	1・2・3・4後			2			○								1	
		English Skills Workshop (Advanced Academic Listening)a	1・2・3・4前			2			○								1	
		English Skills Workshop (Advanced Academic Listening)b	1・2・3・4後			2			○								1	
		English Skills Workshop (Academic Writing)a	1・2・3・4前			2			○								1	
		English Skills Workshop (Academic Writing)b	1・2・3・4後			2			○								1	
		TOEIC対策講座Pre-intermediate a	1・2・3・4前			2			○								2	
		TOEIC対策講座Pre-intermediate b	1・2・3・4後			2			○								2	
		TOEIC対策講座Intermediate a	1・2・3・4前			2			○								2	
		TOEIC対策講座Intermediate b	1・2・3・4後			2			○								2	
		TOEIC対策講座Advanced a	1・2・3・4前			2			○								1	
		TOEIC対策講座Advanced b	1・2・3・4後			2			○								1	
		TOEFL-ITP対策講座 a	1・2・3・4前			2			○								1	
		TOEFL-ITP対策講座 b	1・2・3・4後			2			○								1	
		TOEFL S&W対策講座	1・2・3・4前			2			○								1	
		英検対策講座 a	1・2・3・4前			2			○								1	
		英検対策講座 b	1・2・3・4後			2			○								1	
		Theater Education a	1・2・3・4前			2			○								1	
	Theater Education b	1・2・3・4後			2			○								1		
Business Communication	1・2・3・4後			2			○								1			
Current Issues a	1・2・3・4前			2			○								1			
Current Issues b	1・2・3・4後			2			○								1			
小計(24科目)	—	—	0	48	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	13		
外国語科目(選択・英語以外)	スペイン語 I	1・2・3・4前			2			○								2		
	スペイン語 II	1・2・3・4後			2			○								2		
	フランス語 I	1・2・3・4前・後			2			○								2		
	フランス語 II	1・2・3・4後			2			○								2		
	ドイツ語 I	1・2・3・4前			2			○								1		
	ドイツ語 II	1・2・3・4後			2			○								1		
	中国語 I	1・2・3・4前・後			2			○								3		
	中国語 II	1・2・3・4後			2			○								3		
	日本語文法 I	1・2・3・4前			2			○		1						1		
	日本語文法 II	1・2・3・4後			2			○		1						1		
	日本語読解 I	1・2・3・4前			2			○								2		
	日本語読解 II	1・2・3・4後			2			○								1		
	日本語会話 I	1・2・3・4前			2			○		1						1		
	日本語会話 II	1・2・3・4後			2			○		1						1		
	総合日本語 I	1・2・3・4前			2			○								2		
	総合日本語 II	1・2・3・4後			2			○								1		
	朝鮮・韓国語 I	1・2・3・4前・後			2			○								2		
朝鮮・韓国語 II	1・2・3・4後			2			○								2			
朝鮮・韓国語 III	1・2・3・4前・後			2			○								1			
イタリア語 I	1・2・3・4前			2			○								1			
イタリア語 II	1・2・3・4後			2			○								1			

外国語科目 (選択・ 続き)	ギリシア語Ⅰ	1・2・3・4前		2			○		1							
	ギリシア語Ⅱ	1・2・3・4後		2			○		1							
	ラテン語Ⅰ	1・2・3・4前		2			○						1			
	ラテン語Ⅱ	1・2・3・4後		2			○								1	
	ロシア語Ⅰ	1・2・3・4前		2			○			1						
	ロシア語Ⅱ	1・2・3・4後		2			○			1						
	小計(27科目)	—	—	0	54	0	—	—	2	1	0	0	0	0	16	
情報科学科目	情報科学入門1 a	1前		1				○	1						2	メディア
	情報科学入門1 a	1休			1			○	1						1	共同
	情報科学入門1 b	1後		1				○	1						2	メディア
	情報科学入門2	1前		1				○	1							
	情報科学1 b	2・3・4後			2			○							1	
	情報科学1 c	2・3・4前			2			○							1	
	情報科学1 d	2・3・4後			2			○							1	
	情報科学2	2・3・4後			2			○							1	
	情報科学3a	2・3・4前			2			○							1	
	情報科学3b	2・3・4後			2			○							1	
	小計(10科目)	—	—	3	13	0	—	—	1	0	0	0	0	0	3	
「心身の健康」 科目	健康・安全管理	1後		2			○		1						1	オムニバス
	体育実技・理論	1・2・3・4前・後		1				○							1	
	体育実技・理論	1・2・3休		1				○							1	
	体育実技・理論	1・2・3・4休		1				○							1	
	体育実技・理論	1・2・3休		1				○	1	1					1	共同
	小計(5科目)	—	—	2	4	0	—	—	2	1	0	0	0	0	4	
全学共通科目 (続き)	知的探求の方法1	1・2・3前			2			○	1							
	名著・名作を読む1	1・2・3後			2			○	1						2	オムニバス
	名著・名作を読む2	1・2・3後			2			○		1						
	文章力養成	1・2・3前・後			2										2	
	文章力養成	1・2・3休			2					1						
	口頭表現力養成	1・2・3前・後			2										1	
	ボランティア	1・2・3・4前			2										1	
	地域協力演習	1・2・3・4休			2				1							
	言語学	1・2・3・4前			2			○							1	メディア
	応用言語学	1・2・3・4後			2			○							1	メディア
	社会言語学	1・2・3・4前			2			○							1	メディア
	認知言語学	1・2・3・4後			2			○							1	メディア
	表象文化論	1・2・3・4後			2			○							1	隔年
	表象文化とジェンダー	1・2・3・4後			2			○							1	隔年
	日本文化論	1・2・3・4後			2			○							1	
	西洋哲学1	1・2・3・4前			2			○							1	メディア
	東洋哲学	1・2・3・4後			2			○							1	隔年
	心理学1	1・2・3・4前			2			○							1	
	心理学2	1・2・3・4前			2			○							1	隔年
	心理学3	1・2・3・4後			2			○		1						
	心理学4	1・2・3・4後			2			○		1						隔年
	音楽1	1・2・3・4前			2			○							1	
	西洋美術1	1・2・3・4前			2			○		1						
	東洋・日本美術1	1・2・3・4後			2			○		1						
	倫理学	1・2・3・4後			2			○							1	
	現代社会と教育	1・2・3・4休			2			○			1					
	日本国憲法	1・2・3・4前・後			2			○							1	
	法学1	1・2・3・4後			2			○							1	
	暮らしの法律	1・2・3・4前			2			○							1	メディア
	労働と法律・会社と法律	1・2・3・4後			2			○							1	隔年
	経済学1	1・2・3・4前			2			○							1	
	暮らしの経済	1・2・3・4後			2			○							1	
	企業の経済活動	1・2・3・4前			2			○							1	隔年
	現代日本の経済	1・2・3・4前			2			○							1	
現代の国際経済	1・2・3・4前			2			○							1	隔年	
マーケティング	1・2・3・4前			2			○							1	隔年	
現代日本の政治	1・2・3・4後			2			○							1		
現代の国際政治	1・2・3・4後			2			○		1						隔年	
国際事情1	1・2・3・4後			2			○							1	隔年	
国際事情2	1・2・3・4前			2			○							1	隔年	

全学共通科目(続き)	共通(教養)(続き)	国際事情3	1・2・3・4後			2		○								1	隔年	
		社会学	1・2・3・4前			2		○									1	
		都市社会学	1・2・3・4後			2		○									1	
		ジェンダー学	1・2・3・4前			2		○									1	
		現代社会の諸相	1・2・3・4後			2		○				1						
		現代社会とメディア	1・2・3・4前			2		○									1	隔年
		現代社会とテクノロジー	1・2・3・4前			2		○									1	隔年
		現代社会とAI	1・2・3・4休			2		○				3	1					オムニバス メディア
		暮らしの科学(実験講座 キッチンサイエンス)	1・2・3・4前			2			○			1						
		暮らしの科学(実験講座 健康と環境)	1・2・3・4後			2			○			1						
		暮らしの科学(栄養学・基礎)	1・2・3・4前			2		○				1						
		暮らしの科学(栄養学・応用と実践)	1・2・3・4後			2		○				1						
		暮らしの科学(病気の予防)	1・2・3・4前			2		○				1						
		暮らしの科学(健康増進)	1・2・3・4後			2		○				1						
		暮らしの数理リテラシーⅠ	1・2・3・4前			2		○				1						
		暮らしの数理リテラシーⅡ	1・2・3・4後			2		○				1					1	共同
		数理リテラシー	1・2・3・4後			2		○				1						
		統計分析	1・2・3・4前			2		○									1	隔年
		心身の医学1	1・2・3・4前			2		○									1	
		文字フォントの作成と評価	1・2・3・4休			2		○				1						メディア
ホスピタリティ	2・3前			2		○									1			
小計(61科目)		—	—	0	122	0	—	—	—	10	2	0	0	0	0	34		
キャリア教育	キャリアプランニングⅠ	1・2・3前			2		○			1								
	キャリアプランニングⅡ	2・3前			2		○			1								
	キャリアプランニングⅢ	2・3後			2		○			1								
	インターンシップ	2・3通			2				○	1								
	小計(4科目)		—	—	0	8	0	—	—	4	0	0	0	0	0	0		
資格課程科目	教職課程	教職入門	1後			2		○			3						オムニバス	
		教育学概論	2前			2		○			1							
		教育心理学	2前			2		○			1							
		教育制度論	2後			2		○			1							
		教育方法論(ICT活用を含む)	2後			2		○			1							
		特別支援教育概論	2休			1		○								1		
		教育課程論	3前			1		○					1					
		特別活動の理論と方法	3前			1		○			1							
		生徒指導(進路指導を含む)	3前			2		○			1							
		教育相談	3後			2		○								1		
		道德教育の理論と方法	3前			2		○			1							
		教育実習指導	3後			1		○			1							
		総合的な学習の時間の指導法	3後			1		○					1					
		教育実践演習(中・高)	4後			2			○		3							オムニバス
		教育実習1	4通			2				○	1							標準外
		教育実習2	4通			2				○	1							標準外
		国語科教育法Ⅰ	2前			2		○								1		
		国語科教育法Ⅱ	2後			2		○								1		
		国語科教育法Ⅲ	3前			2		○								1		
		国語科教育法Ⅳ	3後			2		○								1		
		英語科教育法Ⅰ	2前			2		○			1							
		英語科教育法Ⅱ	2後			2		○			1							
		英語科教育法Ⅲ	3前			2		○			1							
		英語科教育法Ⅳ	3後			2		○			1							
		イスパニア語科教育法Ⅰ	2前			2		○								1		
		イスパニア語科教育法Ⅱ	2後			2		○								1		
		イスパニア語科教育法Ⅲ	3前			2		○								1		
		イスパニア語科教育法Ⅳ	3後			2		○								1		
		社会科・地歴科教育法Ⅰ	2前			2		○			1							
		社会科・地歴科教育法Ⅱ	2後			2		○			1							
		社会科・公民科教育法Ⅰ	3前			2		○			1							
		社会科・公民科教育法Ⅱ	3後			2		○			1							
		宗教科教育法Ⅰ	2前			2		○								1		
		宗教科教育法Ⅱ	2後			2		○								1		
		宗教科教育法Ⅲ	3前			2		○								1		
		宗教科教育法Ⅳ	3後			2		○								1		
		現代と法律	2・3・4後			2		○								1		
		現代教育問題	2・3・4後			2		○								1		
		学習科学	2・3・4前			2		○				1						
小計(39科目)		—	—	0	73	0	—	—	—	5	0	1	0	0	9			

資格課程科目(続き)	司書教諭課程	学校経営と学校図書館	2前			2		○								1		
		読書と豊かな人間性	2・3・4後			2		○									1	
		学校図書館メディアの構成	2・3・4後			2		○				1						
		学習指導と学校図書館	2・3・4前			2		○									1	
		情報メディアの活用	3・4後			2		○					1					
		小計(5科目)	—	—	0	10	0	—				1	0	1	0	0	2	
	司書課程	生涯学習概論1	2・3・4前			2		○									1	
		生涯学習概論2	2・3・4後			2		○									1	
		図書館情報学概論	2前			2		○					1					
		情報資源組織論	2前			2		○									1	
		情報資源組織演習Ⅰ	2後			2			○								1	
		情報資源組織演習Ⅱ	2・3後			2			○								1	
		図書館サービス概論	2・3・4前			2		○									1	
		児童サービス論	2・3・4前			2		○									1	
		図書館情報資源概論	2・3・4前			2		○									1	
		図書館制度・経営論	3・4後			2		○									1	
		情報サービス論	3・4前			2		○									1	
		情報サービス演習Ⅰ	3・4前			2			○				1					
		情報サービス演習Ⅱ	3・4後			2			○				1					
		図書館情報技術論	3・4前			2		○				1					1	オムニバス
図書館基礎特論	2・3・4後			1		○									1			
図書・図書館史	2・3・4前			1		○									1			
図書館サービス特論	2・3・4後			2		○									1			
図書館情報資源特論	3・4後			1		○									1			
図書館実習	3・4通			1								1				標準外		
	小計(19科目)	—	—	0	34	0	—				1	0	1	0	0	12		
学校司書課程	学校図書館概論	2前			2		○									1		
	学校教育概論	2・3・4後			2		○					1						
	小計(2科目)	—	—	0	4	0	—				0	0	1	0	0	1		
学芸員課程	博物館情報・メディア論	3休			2		○									1		
	博物館教育論	3後			2		○									1		
	博物館展示論	3後			2		○									1		
	博物館学	3休			4		○									1		
	博物館資料論	3休			2		○				1							
	博物館資料保存論	3前			2		○									1		
	博物館実習	4通			3						1					1	標準外 共同	
	小計(7科目)	—	—	0	17	0	—				1	0	0	0	0	6		
日本語教員課程	日本語教育概論	2前			2		○				1							
	日本語音声学	2・3後			2		○									1		
	日本語教授法Ⅰa	2・3前			2		○									1		
	日本語教授法Ⅰb	2・3後			2		○									1		
	日本語教授法Ⅱa	2・3前			2		○				1							
	日本語教授法Ⅱb	2・3後			2		○				1							
	日本語教育文法	2・3休			2		○									1		
	異文化理解とコミュニケーション	2・3・4後			2		○				1							
	日本語教授法演習1a	3・4前			2			○								1		
	日本語教授法演習1b	3・4後			2			○								1		
	日本語教授法演習2a	3・4前			2			○								1		
	日本語教授法演習2b	3・4後			2			○								1		
	日本語教育実習1	3・4休			2						1							
	日本語教育実習3	3・4後			1						1							
	小計(14科目)	—	—	0	27	0	—				1	0	0	0	0	5		
合計(372科目)		—	—	42	687	0	—				34	8	2	0	0	150		

学位又は称号	学士（英語英文学）	学位又は学科の分野	文学関係
卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等	
<p>・自学科専門科目:1年次必修科目12単位、2年次必修科目8単位、3年次必修科目2単位、4年次必修科目6単位、1～4年次選択必修30単位、計58単位</p> <p>・共通科目:「建学の精神」科目（「人間論」2単位必修、「キリスト教学Ⅰ」2単位必修、「キリスト教学Ⅱ」2単位必修、計6単位）、初年次教育科目（「スタートアップ・ゼミナール」1単位必修、「初年次ゼミナール」2単位必修、「初年次スタディーズ」2単位選択必修、計5単位）、外国語科目（英語）（1年次8単位選択必修、2年次8単位選択必修、選択科目2単位選択必修、計18単位）、情報科学科目（「情報科学入門1a」1単位必修、「情報科学入門1b」1単位必修、「情報科学入門2」1単位必修、計3単位）、「心身の健康」科目（「健康・安全管理」2単位必修、「体育実技・理論」1単位選択必修、計3単位）、教養科目・「建学の精神」選択科目・キャリア教育科目から16単位以上選択必修。</p> <p>・自由選択:23単位以上</p> <p>合計132単位以上修得すること。（履修科目の登録の上限：24単位（半期））</p>		1学年の学期区分	2学期
		1学期の授業期間	13週
		1時限の授業の標準時間	105分

教育課程等の概要

(文学部スペイン語スペイン文学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(助手を除く)の教員	
自学科専門科目	専門基礎科目	スペイン語I-1 (文法)	1前		2				○		1					1	オムニバス
		スペイン語I-2 (会話)	1前		2				○			1				5	
		スペイン語I-3 (読解)	1前		1				○			1				2	
		スペイン語I-4 (作文)	1前		1				○		1					1	
		スペイン語II-1 (文法)	1後		2				○		1					1	
		スペイン語II-2 (会話)	1後		2				○			1				5	
		スペイン語II-3 (読解)	1後		1				○		1					2	
		スペイン語II-4 (作文)	1後		1				○		1					2	
		スペイン語の世界	1前	○	1				○		5	2					
		外国語の学び方	1後	○	1				○		3						
		スペイン語III-1 (文法)	2前		1				○		1						
		スペイン語III-2 (会話)	2前		2				○			1				5	
		スペイン語III-3 (読解演習1)	2前		2				○		1	1					
		スペイン語III-4 (読解演習2)	2前		2				○							1	
		スペイン語III-5 (表現技法)	2前		2				○							2	
		スペイン語IV-1 (文法)	2後		1				○		1						
		スペイン語IV-2 (会話)	2後		2				○			1				5	
		スペイン語IV-3 (読解演習1)	2後		2				○		1	1					
		スペイン語IV-4 (読解演習2)	2後		2				○							1	
		スペイン語IV-5 (表現技法)	2後		2				○							2	
		スペイン語圏の文化と社会	2前	○	1				○		2	2					
		スペイン語圏の文学と芸術	2後	○	1				○		4	2					
		スペイン語V-1	3前		2				○							3	
		スペイン語V-2	3前		2				○		1					2	
		スペイン語VI-1	3後		2				○							3	
		スペイン語VI-2	3後		2				○		1					2	
		Gramatica y lectura I	1前			2			○			1					
		Comunicacion oral I	1前			1			○		1						
		Gramatica y lectura II	1後			2			○			1				1	
		Comunicacion oral II	1後			1			○		1						
		Gramatica y lectura III	2前			2			○		1					1	
		Comunicacion oral III	2前			1			○			1					
		チュートリアル	2前			2				○	1						
		スペイン史a	1・2・3・4前			2			○							1	
		スペイン史b	1・2・3・4後			2			○							1	
		ラテンアメリカ史a	1・2・3・4前			2			○		1						
		ラテンアメリカ史b	1・2・3・4後			2			○		1						
		スペイン美術	1・2・3・4前			2			○							1	
		スペイン語圏文化演習	1・2・3・4休			1				○		1					
		スペイン語特別演習1 (短期語学研修)	1・2・3・4休			4				○		1					
小計(40科目)		—	—	42	26	0	—	—	5	2	0	0	0	15			
専門応用科目	スペイン文学史	2・3・4前			2			○		1							
	ラテンアメリカ文学史	2・3・4後			2			○						1			
	スペイン語史	3・4後			2			○		1							
	スペイン語音声学	2・3・4前			2			○		1							
	日西対照言語学	3・4前			2			○		1							
	スペイン語学1	2・3・4前			2			○							1		
スペイン語学2	2・3・4後			2			○							1			

自学科専門科目(続き)	専門応用科目(続き)	スペイン語文学1	3・4後		2		○									1			
		スペイン語文学2	3・4前		2		○										1		
		スペイン語圏文化1	3・4後		2		○										1		
		スペイン語圏文化2	3・4前		2		○										1		
		スペイン語演劇演習I	2・3・4後		2				○			2							
		スペイン語演劇演習II	3・4前		2				○			2							
		スペイン語圏文学演習1	3・4前		2				○								1		
		スペイン語圏文学演習2	3・4後		2				○								1		
		スペイン語圏文学演習3	3・4前		2				○								1		
		スペイン語演習1	3・4前		2				○								1		
		スペイン語演習2	3・4後		2				○								1		
		異文化理解1	3・4前		2			○				1							
		異文化理解2	3・4後		2			○					1						
		スペイン語通訳演習	3・4前		2					○							1		
		ビジネススペイン語	3・4後		2					○							1		
		インターンシップI	3休		2						○			1					
		インターンシップII	3休		2						○			1					
		課題の探求I (PBL)	3休		2						○			1					
		課題の探求II (PBL)	3休		2						○			1					
		ゼミナール1a	3・4前	○	2					○				1					
		ゼミナール1b	3・4後	○	2					○				1					
		ゼミナール2a	3・4前	○	2					○				1					
		ゼミナール2b	3・4後	○	2					○				1					
		ゼミナール3a	3・4前	○	2					○				1					
		ゼミナール3b	3・4後	○	2					○				1					
		ゼミナール4a	3・4前	○	2					○				1					
		ゼミナール4b	3・4後	○	2					○				1					
		ゼミナール5a	3・4前	○	2					○				1					
		ゼミナール5b	3・4後	○	2					○				1					
		ゼミナール6a	3・4前	○	2					○				1					
		ゼミナール6b	3・4後	○	2					○				1					
		ゼミナール7a	3・4前	○	2					○				1					
		ゼミナール7b	3・4後	○	2					○				1					
		研究法演習a	4前	○	2					○			5	2					
		研究法演習b	4後	○	2					○			5	2					
		卒業研究	4通	○	4					○				1					
		小計(43科目)		—	—	4	84	0	—	—	—	—	5	2	0	0	0	8	
		全学共通科目	「建学の精神」科目	人間論	1前	○	2			○			3	1					オムニバス
				キリスト教学Ⅰ	2前		2			○			1	1				3	
				キリスト教学Ⅱ	2後		2				○		1	1				3	
				キリスト教と文化a	1・2・3・4前		2			○			1					5	オムニバス
				キリスト教と文化b	1・2・3・4後		2			○			1					5	オムニバス
				キリスト教概論a	1・2・3・4前		2			○								1	
キリスト教概論b	1・2・3・4後				2			○								1			
キリスト教思想a	2・3・4前				2			○			1								
キリスト教思想b	2・3・4後				2			○			1								
キリスト教文学a	2・3・4前				2			○								1			
キリスト教文学b	2・3・4後				2			○								1			
小計(11科目)			—	—	6	16	0	—	—	—	3	1	0	0	0	12			
初年次教育科目	スタートアップ・ゼミナール		1前		1				○		7	1							
	初年次ゼミナール	1前	○	2				○		7	2	1							
	初年次ゼミナール	1後		2				○			2					メディア			
	初年次スタディーズ1	1後		2			○		6	3						オムニバス・共同(一部)			
	初年次スタディーズ2	1後		2			○		7	1	1					オムニバス・共同(一部)			
	初年次スタディーズ3	1後		2			○		6	2						オムニバス・共同(一部)			
	初年次スタディーズ4	1後		2			○		5	2						オムニバス・共同(一部)			
初年次スタディーズ5	1後		2			○		4	4						オムニバス・共同(一部)				
初年次スタディーズ6	1後		2			○			1						メディア				
小計(9科目)		—	—	3	14	0	—	—	—	27	8	2	0	0	0				

全学共通科目(続き)	外国語科目(必修・英語)	First-year English: Reading & Writing a	1前			2			○		1					10		
		First-year English: Advanced English I-1a	1前			2			○								1	
		First-year English: Advanced English I-2a	1前			2			○								1	
		First-year English: Advanced English II-1a	1前			2			○								1	
		First-year English: Advanced English II-2a	1前			2			○								1	
		First-year English: Basic English a	1前			4			○								1	
		First-year English: Reading & Writing b	1後			2			○		1						10	
		First-year English: Advanced English I-1 b	1後			2			○								1	
		First-year English: Advanced English I-2 b	1後			2			○								1	
		First-year English: Advanced English II-1 b	1後			2			○								1	
		First-year English: Advanced English II-2 b	1後			2			○								1	
		First-year English: Basic English b	1後			4			○								1	
		First-year English: Listening & Speaking	1前・後			2			○								7	
		First-year English: Seisen Studies in English	1前・後			2			○								7	
		Second-year English: Academic English a	2前			2			○								9	
		Second-year English: Advanced English I-1a	2前			2			○								1	
		Second-year English: Advanced English I-2a	2前			2			○								1	
		Second-year English: Advanced English II-1a	2前			2			○								1	
		Second-year English: Advanced English II-2a	2前			2			○								1	
		Second-year English: Academic English b	2後			2			○								9	
		Second-year English: Advanced English I-1b	2後			2			○								1	
		Second-year English: Advanced English I-2b	2後			2			○								1	
		Second-year English: Advanced English II-1b	2後			2			○								1	
		Second-year English: Advanced English II-2b	2後			2			○								1	
		Second-year English: Writing	2前・後			2			○								6	
		Second-year English: English Seminar	2前・後			2			○		1						5	
小計(26科目)		—	—	0	56	0	—	—	1	0	0	0	0	0	30			
全学共通科目(続き)	外国語科目(選択・英語)	English Skills Workshop (Extensive Reading)a	1・2・3・4前			2			○							1		
		English Skills Workshop (Extensive Reading)b	1・2・3・4後			2			○							1		
		English Skills Workshop (Academic Listening)a	1・2・3・4前			2			○							1		
		English Skills Workshop (Academic Listening)b	1・2・3・4後			2			○							1		
		English Skills Workshop (Advanced Academic Listening)a	1・2・3・4前			2			○							1		
		English Skills Workshop (Advanced Academic Listening)b	1・2・3・4後			2			○							1		
		English Skills Workshop (Academic Writing)a	1・2・3・4前			2			○							1		
		English Skills Workshop (Academic Writing)b	1・2・3・4後			2			○							1		

外国語科目 (選択・英語) (続き)	TOEIC対策講座Pre-intermediate a	1・2・3・4前			2				○							2		
	TOEIC対策講座Pre-intermediate b	1・2・3・4後			2				○							2		
	TOEIC対策講座Intermediate a	1・2・3・4前			2				○							2		
	TOEIC対策講座Intermediate b	1・2・3・4後			2				○							2		
	TOEIC対策講座Advanced a	1・2・3・4前			2				○							1		
	TOEIC対策講座Advanced b	1・2・3・4後			2				○							1		
	TOEFL-ITP対策講座 a	1・2・3・4前			2				○							1		
	TOEFL-ITP対策講座 b	1・2・3・4後			2				○							1		
	TOEFL S&W対策講座	1・2・3・4前			2				○							1		
	英検対策講座 a	1・2・3・4前			2				○							1		
	英検対策講座 b	1・2・3・4後			2				○							1		
	Theater Education a	1・2・3・4前			2				○							1		
	Theater Education b	1・2・3・4後			2				○							1		
	Business Communication	1・2・3・4後			2				○							1		
	Current Issues a	1・2・3・4前			2				○							1		
	Current Issues b	1・2・3・4後			2				○							1		
	小計(24科目)		—	—	0	48	0		—		0	0	0	0	0	0	13	
	外国語科目 (選択・英語以外)	スペイン語 I	1・2・3・4前			2				○							2	
		スペイン語 II	1・2・3・4後			2				○							2	
		フランス語 I	1・2・3・4前・後			2				○							2	
フランス語 II		1・2・3・4後			2				○							2		
ドイツ語 I		1・2・3・4前			2				○							1		
ドイツ語 II		1・2・3・4後			2				○							1		
中国語 I		1・2・3・4前・後			2				○							3		
中国語 II		1・2・3・4後			2				○							3		
日本語文法 I		1・2・3・4前			2				○	1						1		
日本語文法 II		1・2・3・4後			2				○	1								
日本語読解 I		1・2・3・4前			2				○							2		
日本語読解 II		1・2・3・4後			2				○							1		
日本語会話 I		1・2・3・4前			2				○	1						1		
日本語会話 II		1・2・3・4後			2				○	1								
総合日本語 I		1・2・3・4前			2				○							2		
総合日本語 II		1・2・3・4後			2				○							1		
朝鮮・韓国語 I		1・2・3・4前・後			2				○							2		
朝鮮・韓国語 II		1・2・3・4後			2				○							2		
朝鮮・韓国語 III		1・2・3・4前・後			2				○							1		
イタリア語 I		1・2・3・4前			2				○							1		
イタリア語 II	1・2・3・4後			2				○							1			
ギリシア語 I	1・2・3・4前			2				○	1									
ギリシア語 II	1・2・3・4後			2				○	1									
ラテン語 I	1・2・3・4前			2				○							1			
ラテン語 II	1・2・3・4後			2				○							1			
ロシア語 I	1・2・3・4前			2				○		1								
ロシア語 II	1・2・3・4後			2				○		1								
小計(27科目)		—	—	0	54	0		—		2	1	0	0	0	0	16		
情報科学科目	情報科学入門1 a	1前		1					○	1						2	メディア	
	情報科学入門1 a	1休			1				○	1						1	共同 メディア	
	情報科学入門1 b	1後		1					○	1						2		
	情報科学入門2	1前		1					○	1								
	情報科学1 b	2・3・4後			2				○							1		
	情報科学1 c	2・3・4前			2				○							1		
	情報科学1 d	2・3・4後			2				○							1		
	情報科学2	2・3・4後			2				○							1		
	情報科学3a	2・3・4前			2				○							1		
	情報科学3b	2・3・4後			2				○							1		
小計(10科目)		—	—	3	13	0		—		1	0	0	0	0	3			
「心身の健康」科目	健康・安全管理	1後		2				○		1						1	オムニバス	
	体育実技・理論	1・2・3・4前・後			1				○							1		
	体育実技・理論	1・2・3休			1				○							1		
	体育実技・理論	1・2・3・4休			1				○							1		
	体育実技・理論	1・2・3休			1				○	1	1					1	共同	
小計(5科目)		—	—	2	4	0		—		2	1	0	0	0	4			

全学共通科目 (続き)	キャリア教育	キャリアプランニングⅠ	1・2・3前			2		○			1							
		キャリアプランニングⅡ	2・3前			2		○			1							
		キャリアプランニングⅢ	2・3後			2		○			1							
		インターンシップ	2・3通			2				○	1							
		小計(4科目)	—	—	0	8	0	—	—	4	0	0	0	0	0	0		
資格課程科目	教職課程	教職入門	1後			2		○			3						オムニバス	
		教育学概論	2前			2		○			1							
		教育心理学	2前			2		○			1							
		教育制度論	2後			2		○			1							
		教育方法論 (ICT活用を含む)	2後			2		○			1							
		特別支援教育概論	2休			1		○									1	
		教育課程論	3前			1		○					1					
		特別活動の理論と方法	3前			1		○			1							
		生徒指導 (進路指導を含む)	3前			2		○			1							
		教育相談	3後			2		○										1
		道徳教育の理論と方法	3前			2		○			1							
		教育実習指導	3後			1		○			1							
		総合的な学習の時間の指導法	3後			1		○					1					
		教育実践演習 (中・高)	4後			2				○		3						オムニバス
		教育実習1	4通			2						1						標準外
		教育実習2	4通			2						1						標準外
		国語科教育法Ⅰ	2前			2		○										1
		国語科教育法Ⅱ	2後			2		○										1
		国語科教育法Ⅲ	3前			2		○										1
		国語科教育法Ⅳ	3後			2		○										1
		英語科教育法Ⅰ	2前			2		○				1						
		英語科教育法Ⅱ	2後			2		○				1						
		英語科教育法Ⅲ	3前			2		○				1						
		英語科教育法Ⅳ	3後			2		○				1						
		イスパニア語科教育法Ⅰ	2前			2		○										1
		イスパニア語科教育法Ⅱ	2後			2		○										1
		イスパニア語科教育法Ⅲ	3前			2		○										1
		イスパニア語科教育法Ⅳ	3後			2		○										1
		社会科・地歴科教育法Ⅰ	2前			2		○				1						
		社会科・地歴科教育法Ⅱ	2後			2		○				1						
		社会科・公民科教育法Ⅰ	3前			2		○				1						
		社会科・公民科教育法Ⅱ	3後			2		○				1						
		宗教科教育法Ⅰ	2前			2		○										1
		宗教科教育法Ⅱ	2後			2		○										1
		宗教科教育法Ⅲ	3前			2		○										1
		宗教科教育法Ⅳ	3後			2		○										1
		現代と法律	2・3・4後			2		○										1
		現代教育問題	2・3・4後			2		○										1
		学習科学	2・3・4前			2		○				1						
		小計(39科目)	—	—	0	73	0	—	—	5	0	1	0	0	0	9		
司書教諭課程	司書教諭課程	学校経営と学校図書館	2前			2		○									1	
		読書と豊かな人間性	2・3・4後			2		○									1	
		学校図書館メディアの構成	2・3・4後			2		○					1					
		学習指導と学校図書館	2・3・4前			2		○									1	
		情報メディアの活用	3・4後			2		○						1				
		小計(5科目)	—	—	0	10	0	—	—	1	0	1	0	0	0	2		
司書課程	司書課程	生涯学習概論1	2・3・4前			2		○									1	
		生涯学習概論2	2・3・4後			2		○									1	
		図書館情報学概論	2前			2		○						1				
		情報資源組織論	2前			2		○						1				
		情報資源組織演習Ⅰ	2後			2				○							1	
		情報資源組織演習Ⅱ	2・3後			2				○							1	
		図書館サービス概論	2・3・4前			2		○									1	
		児童サービス論	2・3・4前			2		○									1	
		図書館情報資源概論	2・3・4前			2		○									1	
		図書館制度・経営論	3・4後			2		○									1	
情報サービス論	3・4前			2		○									1			

教育課程等の概要

(文学部文化史学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員(助手を除く)以外の教員	
自 学 科 専 門 科 目	専 門 基 礎 科 目	文化史学序説	○	2			○			6	4					オムニバス	
		文化史学基礎演習a	○	2				○		4	2					オムニバス	
		文化史学基礎演習b	○	2					○	4	2					オムニバス	
		西洋史概説a			2			○			1						
		西洋史概説b			2			○			1						
		東洋史概説a			2			○				1					
		東洋史概説b			2			○				1					
		日本史概説a			2			○				1					
		日本史概説b			2			○				1					
		史学概論		2後		2		○			2	2					オムニバス
		美術概論		2前		2		○			2						オムニバス
		哲学概論		2前		2		○							1		
		宗教学概論		2前		2		○					1				
		聖書学概論		2後		2		○					1				
		文化史入門演習(歴史:日本史1)		2後	○	2				○	1						
		文化史入門演習(歴史:日本史2)		2前	○	2				○			1				
		文化史入門演習(歴史:西洋史1)		2前	○	2				○	1						
		文化史入門演習(歴史:西洋史2)		2後	○	2				○	1						
		文化史入門演習(歴史:東洋史)		2後	○	2				○			1				
		文化史入門演習(美術:西洋美術史2)		2前	○	2				○	1						
		文化史入門演習(美術:日本美術史)		2後	○	2				○	1						
		文化史入門演習(思想:哲学)		2前	○	2				○	1						
		文化史入門演習(宗教:宗教史)		2前	○	2				○			1				
		文化史入門演習(宗教:聖書学)		2後	○	2				○			1				
		文化史学特別演習		1・2・3・4休		2				○	1	1					共同
		西洋思想史1		1・2・3前		2			○							1	
		西洋思想史2		1・2・3後		2			○							1	
		日本思想史1		1・2・3前		2			○							1	
		日本思想史2		1・2・3後		2			○							1	
		西洋キリスト教史1		1・2・3前		2			○							1	
		西洋キリスト教史2		1・2・3後		2			○							1	
		日本キリスト教史1		1・2・3前		2			○							1	
		日本キリスト教史2		1・2・3後		2			○							1	
		日本文化史1		1・2・3前		2			○							1	
		日本文化史2		1・2・3後		2			○							1	
		イスラーム史		1・2・3前		2			○							1	
		日本宗教史1		1・2・3前		2			○							1	
		日本宗教史2		1・2・3後		2			○							1	
		仏教史		1・2・3後		2			○							1	
		イスラーム思想		1・2・3後		2			○							1	
		キリスト教音楽		1・2・3後		2			○							1	
キリスト教美術		1・2・3後		2			○							1			
美学		1・2・3前		2			○				1						
死生学		1・2・3後		2			○		3	1					オムニバス		
女性史		1・2・3後		2			○							1			
平和学		1・2・3後		2			○		1								

専門基礎科目 (続き)	考古学1	1・2・3前			2		○								1	
	考古学2	1・2・3後			2		○								1	
	民俗学1	1・2・3前			2		○								1	
	民俗学2	1・2・3後			2		○								1	
	政治学原論1	1・2・3前			2		○								1	
	政治学原論2	1・2・3後			2		○								1	
	社会学原論1	1・2・3前			2		○								1	
	社会学原論2	1・2・3後			2		○								1	
	古文書学1	1・2・3前			2		○								1	
	古文書学2	1・2・3後			2		○								1	
	人文・自然地理学	1・2・3前			2		○								1	
	地誌	1・2・3後			2		○								1	
	小計(58科目)		—	—	6	110	0	—		6	4	0	0	0	18	
自学科専門科目 (続き)	専門応用科目	西洋文化史講義1	2・3・4前		2		○								1	
		西洋文化史講義2	2・3・4後		2		○								1	
		西洋文化史講義3	2・3・4前		2		○								1	
		西洋文化史講義4	2・3・4後		2		○			1						
		西洋文化史講義5	2・3・4後		2		○			1						
		東洋文化史講義1	2・3・4後		2		○								1	
		東洋文化史講義2	2・3・4前		2		○								1	
		東洋文化史講義3	2・3・4前		2		○				1					
		東洋文化史講義4	2・3・4後		2		○				1					
		日本文化史講義1	2・3・4前		2		○								1	
		日本文化史講義2	2・3・4後		2		○								1	
		日本文化史講義3	2・3・4前		2		○					1				
		日本文化史講義4	2・3・4後		2		○					1				
		日本文化史講義5	2・3・4前		2		○								1	
		西洋美術史講義1	2・3・4前		2		○								1	
		西洋美術史講義2	2・3・4後		2		○				1					
		西洋美術史講義3	2・3・4前		2		○								1	
		西洋美術史講義4	2・3・4後		2		○								1	
		西洋美術史講義5	2・3・4前		2		○								1	
		東洋美術史講義1	2・3・4前		2		○								1	
		東洋美術史講義2	2・3・4前		2		○								1	
		東洋美術史講義3	2・3・4後		2		○								1	
		日本美術史講義1	2・3・4前		2		○				1					
		日本美術史講義2	2・3・4後		2		○				1					
		日本美術史講義3	2・3・4前		2		○								1	
		日本美術史講義4	2・3・4後		2		○								1	
		西洋思想史講義1	2・3・4前		2		○								1	
		西洋思想史講義2	2・3・4後		2		○								1	
		西洋思想史講義3	2・3・4前		2		○				1					
		西洋思想史講義4	2・3・4後		2		○				1					
		宗教史講義1	2・3・4前		2		○					1				
		宗教史講義2	2・3・4後		2		○					1				
		宗教史講義3	2・3・4休		2		○								1	
		宗教史講義4	2・3・4休		2		○								1	
		聖書学講義1	2・3・4前		2		○								1	
		聖書学講義2	2・3・4後		2		○					1				
		聖書学講義3	2・3・4前		2		○				1					
		聖書学講義4	2・3・4後		2		○								1	
		西洋文化史演習1a	3前		2				○		1					
		西洋文化史演習1b	3後		2				○		1					
		西洋文化史演習2a	3前		2				○		1					
		西洋文化史演習2b	3後		2				○		1					
東洋文化史演習a	3前		2				○			1						
東洋文化史演習b	3後		2				○			1						
日本文化史演習1a	3前		2				○		1							
日本文化史演習1b	3後		2				○		1							
日本文化史演習2a	3前		2				○			1						
日本文化史演習2b	3後		2				○			1						
日本文化史演習3a	3前		2				○						1			
日本文化史演習3b	3後		2				○						1			
西洋美術史演習2a	3前		2				○		1							
西洋美術史演習2b	3後		2				○		1							

自 学 科 専 門 科 目 (続 き)	専 門 応 用 科 目 (続 き)	日本美術史演習a	3前		2			○		1								
		日本美術史演習b	3後		2			○		1								
		西洋思想史演習1a	3前		2			○								1		
		西洋思想史演習1b	3後		2			○								1		
		西洋思想史演習2a	3前		2			○		1								
		西洋思想史演習2b	3後		2			○		1								
		宗教史演習a	3前		2			○				1						
		宗教史演習b	3後		2			○				1						
		聖書学演習a	3前		2			○				1						
		聖書学演習b	3後		2			○				1						
		発展講義1	3・4前		2			○								1		
		発展講義2	3・4後		2			○			6	4						
		発展講義3	3・4休		2			○				2						
		発展講義4	3・4後		2			○								1		
		工芸史1	3・4前		2			○								1		
		工芸史2	3・4後		2			○								1		
		古典文献講読(漢文)	2・3前		2			○								1		
		古典文献講読(ラテン語)	2・3後		2			○								1		
		研究法演習a	4前	○	2					○	6	4						
		研究法演習b	4後	○	2					○	6	4						
卒業論文	4通	○	4					○	1									
小計(73科目)		—	—	8	140	0		—	7	4	0	0	0	28				
全 学 共 通 科 目	「 建 学 の 精 神 」 科 目	人間論	1前	○	2			○		3	1							
		キリスト教学Ⅰ	2前		2			○		1	1				3			
		キリスト教学Ⅱ	2後		2			○		1	1				3			
		キリスト教と文化a	1・2・3・4前		2			○		1					5		オムニバス	
		キリスト教と文化b	1・2・3・4後		2			○		1					5		オムニバス	
		キリスト教概論a	1・2・3・4前		2			○							1			
		キリスト教概論b	1・2・3・4後		2			○							1			
		キリスト教思想a	2・3・4前		2			○		1								
		キリスト教思想b	2・3・4後		2			○		1								
		キリスト教文学a	2・3・4前		2			○							1			
	キリスト教文学b	2・3・4後		2			○							1				
	小計(11科目)		—	—	6	16	0		—	3	1	0	0	0	12			
	初 年 次 教 育 科 目	スタートアップ・ゼミナール	1前		1				○	7	1							
		初年次ゼミナール	1前	○	2				○	7	2	1						
初年次ゼミナール		1後		2				○		2							メディア	
初年次スタディーズ1		1後		2			○		6	3							オムニバス・共同(一部)	
初年次スタディーズ2		1後		2			○		7	1	1						オムニバス・共同(一部)	
初年次スタディーズ3		1後		2			○		6	2							オムニバス・共同(一部)	
初年次スタディーズ4		1後		2			○		5	2							オムニバス・共同(一部)	
初年次スタディーズ5		1後		2			○		4	4							オムニバス・共同(一部)	
初年次スタディーズ6	1後		2			○			1							メディア		
小計(9科目)		—	—	3	14	0		—	27	8	2	0	0	0				
外 国 語 科 目 (必 修 ・ 英 語)	First-year English: Reading & Writing a	1前		2				○	1						10			
	First-year English: Advanced English I-1a	1前		2				○							1			
	First-year English: Advanced English I-2a	1前		2				○							1			
	First-year English: Advanced English II-1a	1前		2				○							1			
	First-year English: Advanced English II-2a	1前		2				○							1			
	First-year English: Basic English a	1前		4				○							1			
	First-year English: Reading & Writing b	1後		2				○	1						10			
	First-year English: Advanced English I-1 b	1後		2				○							1			
	First-year English: Advanced English I-2 b	1後		2				○							1			
	First-year English: Advanced English II-1 b	1後		2				○							1			

全学共通科目 (続き)	外国語科目 (必修・英語) (続き)	First-year English: Advanced English II-2 b	1後			2			○							1			
		First-year English: Basic English b	1後			4			○								1		
		First-year English: Listening & Speaking	1前・後			2			○								7		
		First-year English: Seisen Studies in English	1前・後			2			○								7		
		Second-year English: Academic English a	2前			2			○								9		
		Second-year English: Advanced English I-1a	2前			2			○								1		
		Second-year English: Advanced English I-2a	2前			2			○								1		
		Second-year English: Advanced English II-1a	2前			2			○								1		
		Second-year English: Advanced English II-2a	2前			2			○								1		
		Second-year English: Academic English b	2後			2			○								9		
		Second-year English: Advanced English I-1b	2後			2			○								1		
		Second-year English: Advanced English I-2b	2後			2			○								1		
		Second-year English: Advanced English II-1b	2後			2			○								1		
		Second-year English: Advanced English II-2b	2後			2			○								1		
		Second-year English: Writing	2前・後			2			○								6		
		Second-year English: English Seminar	2前・後			2			○			1					5		
		小計(26科目)		—	—	0	56	0	—	—	—	1	0	0	0	0	30		
		全学共通科目 (続き)	外国語科目 (選択・英語)	English Skills Workshop (Extensive Reading)a	1・2・3・4前			2			○							1	
				English Skills Workshop (Extensive Reading)b	1・2・3・4後			2			○							1	
				English Skills Workshop (Academic Listening)a	1・2・3・4前			2			○							1	
				English Skills Workshop (Academic Listening)b	1・2・3・4後			2			○							1	
				English Skills Workshop (Advanced Academic Listening)a	1・2・3・4前			2			○							1	
				English Skills Workshop (Advanced Academic Listening)b	1・2・3・4後			2			○							1	
				English Skills Workshop (Academic Writing)a	1・2・3・4前			2			○							1	
				English Skills Workshop (Academic Writing)b	1・2・3・4後			2			○							1	
				TOEIC対策講座Pre-intermediate a	1・2・3・4前			2			○							2	
TOEIC対策講座Pre-intermediate b	1・2・3・4後					2			○							2			
TOEIC対策講座Intermediate a	1・2・3・4前					2			○							2			
TOEIC対策講座Intermediate b	1・2・3・4後					2			○							2			
TOEIC対策講座Advanced a	1・2・3・4前					2			○							1			
TOEIC対策講座Advanced b	1・2・3・4後					2			○							1			
TOEFL-ITP対策講座 a	1・2・3・4前					2			○							1			
TOEFL-ITP対策講座 b	1・2・3・4後					2			○							1			
TOEFL S&W対策講座	1・2・3・4前					2			○							1			
英検対策講座 a	1・2・3・4前					2			○							1			
英検対策講座 b	1・2・3・4後					2			○							1			
Theater Education a	1・2・3・4前					2			○							1			
Theater Education b	1・2・3・4後					2			○							1			
Business Communication	1・2・3・4後					2			○							1			
Current Issues a	1・2・3・4前					2			○							1			
Current Issues b	1・2・3・4後					2			○							1			
小計(24科目)		—	—	0	48	0	—	—	—	0	0	0	0	0	13				

全学 共通科目 (続き)	外国語科目 (選択・英語以外)	スペイン語Ⅰ	1・2・3・4前		2			○							2	
		スペイン語Ⅱ	1・2・3・4後		2			○							2	
		フランス語Ⅰ	1・2・3・4前・後		2			○							2	
		フランス語Ⅱ	1・2・3・4後		2			○							2	
		ドイツ語Ⅰ	1・2・3・4前		2			○							1	
		ドイツ語Ⅱ	1・2・3・4後		2			○							1	
		中国語Ⅰ	1・2・3・4前・後		2			○							3	
		中国語Ⅱ	1・2・3・4後		2			○							3	
		日本語文法Ⅰ	1・2・3・4前		2			○			1				1	
		日本語文法Ⅱ	1・2・3・4後		2			○			1					
		日本語読解Ⅰ	1・2・3・4前		2			○							2	
		日本語読解Ⅱ	1・2・3・4後		2			○							1	
		日本語会話Ⅰ	1・2・3・4前		2			○			1				1	
		日本語会話Ⅱ	1・2・3・4後		2			○			1					
		総合日本語Ⅰ	1・2・3・4前		2			○							2	
		総合日本語Ⅱ	1・2・3・4後		2			○							1	
		朝鮮・韓国語Ⅰ	1・2・3・4前・後		2			○							2	
		朝鮮・韓国語Ⅱ	1・2・3・4後		2			○							2	
		朝鮮・韓国語Ⅲ	1・2・3・4前・後		2			○							1	
		イタリア語Ⅰ	1・2・3・4前		2			○							1	
		イタリア語Ⅱ	1・2・3・4後		2			○							1	
		ギリシア語Ⅰ	1・2・3・4前		2			○			1					
		ギリシア語Ⅱ	1・2・3・4後		2			○			1					
		ラテン語Ⅰ	1・2・3・4前		2			○							1	
		ラテン語Ⅱ	1・2・3・4後		2			○							1	
		ロシア語Ⅰ	1・2・3・4前		2			○					1			
		ロシア語Ⅱ	1・2・3・4後		2			○					1			
小計(27科目)		—	—	0	54	0	—	—	2	1	0	0	0	16		
情報科学科目	情報科学入門1 a	1前		1				○	1					2	メディア	
	情報科学入門1 a	1休			1			○	1					1	共同	
	情報科学入門1 b	1後		1				○	1					2	メディア	
	情報科学入門2	1前		1				○	1							
	情報科学1 b	2・3・4後			2			○						1		
	情報科学1 c	2・3・4前			2			○						1		
	情報科学1 d	2・3・4後			2			○						1		
	情報科学2	2・3・4後			2			○						1		
	情報科学3a	2・3・4前			2			○						1		
	情報科学3b	2・3・4後			2			○						1		
小計(10科目)		—	—	3	13	0	—	—	1	0	0	0	0	3		
「心身の健康」科目	健康・安全管理	1後		2			○		1					1	オムニバス	
	体育実技・理論	1・2・3・4前・後			1			○						1		
	体育実技・理論	1・2・3休			1			○						1		
	体育実技・理論	1・2・3・4休			1			○						1		
	体育実技・理論	1・2・3休			1			○	1	1				1	共同	
小計(5科目)		—	—	2	4	0	—	—	2	1	0	0	0	4		
共通(教養)	知的探求の方法1	1・2・3前			2			○	1							
	名著・名作を読む1	1・2・3後			2			○	1					2	オムニバス	
	名著・名作を読む2	1・2・3後			2			○		1						
	文章力養成	1・2・3前・後			2			○						2		
	文章力養成	1・2・3休			2			○		1						
	口頭表現力養成	1・2・3前・後			2			○						1		
	ボランティア	1・2・3・4前			2			○						1		
	地域協力演習	1・2・3・4休			2			○	1							
	言語学	1・2・3・4前			2			○						1	メディア	
	応用言語学	1・2・3・4後			2			○						1	メディア	
	社会言語学	1・2・3・4前			2			○						1	メディア	
	認知言語学	1・2・3・4後			2			○						1	メディア	
	表象文化論	1・2・3・4後			2			○						1	隔年	
	表象文化とジェンダー	1・2・3・4後			2			○						1	隔年	
	日本文化論	1・2・3・4後			2			○						1		
西洋哲学1	1・2・3・4前			2			○						1	メディア		
西洋哲学	1・2・3・4後			2			○						1	隔年		

全学共通科目(続き)	共通(教養)(続き)	心理学1	1・2・3・4前			2		○									1					
		心理学2	1・2・3・4前			2		○										1	隔年			
		心理学3	1・2・3・4後			2		○				1										
		心理学4	1・2・3・4後			2		○				1							隔年			
		音楽1	1・2・3・4前			2		○										1				
		西洋美術1	1・2・3・4前			2		○				1										
		東洋・日本美術1	1・2・3・4後			2		○				1										
		倫理学	1・2・3・4後			2		○											1			
		現代社会と教育	1・2・3・4休			2		○					1									
		日本国憲法	1・2・3・4前・後			2		○												1		
		法学1	1・2・3・4後			2		○												1		
		暮らしの法律	1・2・3・4前			2		○												1	メディア	
		労働と法律・会社と法律	1・2・3・4後			2		○												1	隔年	
		経済学1	1・2・3・4前			2		○												1		
		暮らしの経済	1・2・3・4後			2		○												1		
		企業の経済活動	1・2・3・4前			2		○												1	隔年	
		現代日本の経済	1・2・3・4前			2		○												1		
		現代の国際経済	1・2・3・4前			2		○												1	隔年	
		マーケティング	1・2・3・4前			2		○												1	隔年	
		現代日本の政治	1・2・3・4後			2		○												1		
		現代の国際政治	1・2・3・4後			2		○					1							1	隔年	
		国際事情1	1・2・3・4後			2		○												1	隔年	
		国際事情2	1・2・3・4前			2		○												1	隔年	
		国際事情3	1・2・3・4後			2		○												1	隔年	
		社会学	1・2・3・4前			2		○												1		
		都市社会学	1・2・3・4後			2		○												1		
		ジェンダー学	1・2・3・4前			2		○												1		
		現代社会の諸相	1・2・3・4後			2		○						1								
		現代社会とメディア	1・2・3・4前			2		○												1	隔年	
		現代社会とテクノロジー	1・2・3・4前			2		○												1	隔年	
		現代社会とAI	1・2・3・4休			2		○					3	1							オムニバス メディア	
		暮らしの科学(実験講座 キッチンサイエンス)	1・2・3・4前			2			○				1									
		暮らしの科学(実験講座 健康と環境)	1・2・3・4後			2			○				1									
		暮らしの科学(栄養学・基礎)	1・2・3・4前			2		○					1									
		暮らしの科学(栄養学・応用と実践)	1・2・3・4後			2		○					1									
		暮らしの科学(病気の予防)	1・2・3・4前			2		○					1									
		暮らしの科学(健康増進)	1・2・3・4後			2		○					1									
		暮らしの数理リテラシーⅠ	1・2・3・4前			2		○					1									
		暮らしの数理リテラシーⅡ	1・2・3・4後			2		○					1							1	共同	
		数理リテラシー	1・2・3・4後			2		○					1									
		統計分析	1・2・3・4前			2		○												1	隔年	
		心身の医学1	1・2・3・4前			2		○												1		
		文字フォントの作成と評価	1・2・3・4休			2		○					1								メディア	
		ホスピタリティ	2・3前			2		○												1		
		小計(61科目)		—	—	0	122	0	—	—	—	10	2	0	0	0	0	0	34			
		資格課程科目	キャリア教育	キャリアプランニングⅠ	1・2・3前			2		○			1									
				キャリアプランニングⅡ	2・3前			2		○			1									
				キャリアプランニングⅢ	2・3後			2		○			1									
				インターンシップ	2・3通			2				○	1									
				小計(4科目)		—	—	0	8	0	—	—	—	4	0	0	0	0	0	0	0	
		資格課程科目	教職課程	教職入門	1後			2		○			3								オムニバス	
				教育学概論	2前			2		○			1									
				教育心理学	2前			2		○			1									
				教育制度論	2後			2		○			1									
				教育方法論(ICT活用を含む)	2後			2		○			1									
				特別支援教育概論	2休			1		○										1		
				教育課程論	3前			1		○						1						
				特別活動の理論と方法	3前			1		○				1								
				生徒指導(進路指導を含む)	3前			2		○				1								
				教育相談	3後			2		○											1	
				道徳教育の理論と方法	3前			2		○				1								
教育実習指導	3後					1		○				1										
総合的な学習の時間の指導法	3後					1		○						1								
教育実践演習(中・高)	4後			2			○			3								オムニバス				

資格課程科目(続き)	教職課程(続き)	教育実習1	4通			2				○	1							標準外	
		教育実習2	4通			2				○	1								標準外
		国語科教育法Ⅰ	2前			2			○										1
		国語科教育法Ⅱ	2後			2			○										1
		国語科教育法Ⅲ	3前			2			○										1
		国語科教育法Ⅳ	3後			2			○										1
		英語科教育法Ⅰ	2前			2			○			1							
		英語科教育法Ⅱ	2後			2			○			1							
		英語科教育法Ⅲ	3前			2			○			1							
		英語科教育法Ⅳ	3後			2			○			1							
		イスパニア語科教育法Ⅰ	2前			2			○										1
		イスパニア語科教育法Ⅱ	2後			2			○										1
		イスパニア語科教育法Ⅲ	3前			2			○										1
		イスパニア語科教育法Ⅳ	3後			2			○										1
		社会科・地歴科教育法Ⅰ	2前			2			○			1							
		社会科・地歴科教育法Ⅱ	2後			2			○			1							
		社会科・公民科教育法Ⅰ	3前			2			○			1							
		社会科・公民科教育法Ⅱ	3後			2			○			1							
		宗教科教育法Ⅰ	2前			2			○										1
		宗教科教育法Ⅱ	2後			2			○										1
		宗教科教育法Ⅲ	3前			2			○										1
		宗教科教育法Ⅳ	3後			2			○										1
		現代と法律	2・3・4後			2			○										1
	現代教育問題	2・3・4後			2			○										1	
	学習科学	2・3・4前			2			○			1								
	小計(39科目)	—	—	0	73	0	—	—	—	—	5	0	1	0	0	0	9		
	司書教諭課程	学校経営と学校図書館	2前			2			○									1	
		読書と豊かな人間性	2・3・4後			2			○									1	
		学校図書館メディアの構成	2・3・4後			2			○				1						
		学習指導と学校図書館	2・3・4前			2			○									1	
		情報メディアの活用	3・4後			2			○					1					
	小計(5科目)	—	—	0	10	0	—	—	—	1	0	1	0	0	0	2			
	司書課程	生涯学習概論1	2・3・4前			2			○									1	
		生涯学習概論2	2・3・4後			2			○									1	
		図書館情報学概論	2前			2			○				1						
		情報資源組織論	2前			2			○									1	
		情報資源組織演習Ⅰ	2後			2				○								1	
情報資源組織演習Ⅱ		2・3後			2					○							1		
図書館サービス概論		2・3・4前			2			○									1		
児童サービス論		2・3・4前			2			○									1		
図書館情報資源概論		2・3・4前			2			○									1		
図書館制度・経営論		3・4後			2			○									1		
情報サービス論		3・4前			2			○									1		
情報サービス演習Ⅰ		3・4前			2					○		1							
情報サービス演習Ⅱ		3・4後			2					○		1							
図書館情報技術論		3・4前			2			○			1						1		
図書館基礎特論		2・3・4後			1			○									1		
図書・図書館史		2・3・4前			1			○									1		
図書館サービス特論	2・3・4後			2			○									1			
図書館情報資源特論	3・4後			1			○									1			
図書館実習	3・4通			1								1					標準外		
小計(19科目)	—	—	0	34	0	—	—	—	—	1	0	1	0	0	12				
書学課程	学校図書館概論	2前			2			○									1		
	学校教育概論	2・3・4後			2			○				1							
小計(2科目)	—	—	0	4	0	—	—	—	—	0	0	1	0	0	1				
学芸員課程	博物館情報・メディア論	3休			2			○									1		
	博物館教育論	3後			2			○									1		
	博物館展示論	3後			2			○									1		
	博物館学	3休			4			○									1		
	博物館資料論	3休			2			○			1								
	博物館資料保存論	3前			2			○									1		
博物館実習	4通			3						1						1			
小計(7科目)	—	—	0	17	0	—	—	—	—	1	0	0	0	0	6		標準外 共同		

資格課程科目(続き)	日本語教員課程	日本語教育概論	2前		2		○			1								
		日本語音声学	2・3後		2		○										1	
		日本語教授法Ⅰa	2・3前		2		○										1	
		日本語教授法Ⅰb	2・3後		2		○										1	
		日本語教授法Ⅱa	2・3前		2		○			1								
		日本語教授法Ⅱb	2・3後		2		○			1								
		日本語教育文法	2・3休		2		○										1	
		異文化理解とコミュニケーション	2・3・4後		2		○			1								
		日本語教授法演習1a	3・4前		2			○									1	
		日本語教授法演習1b	3・4後		2			○									1	
		日本語教授法演習2a	3・4前		2			○									1	
		日本語教授法演習2b	3・4後		2			○									1	
		日本語教育実習1	3・4休		2				○		1							
		日本語教育実習3	3・4後		1					○	1							
		小計(14科目)		—	—	0	27	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0	5
合計(322科目)		—	—	28	702	0	—	—	—	33	8	2	0	0	0	167		
学位又は称号	学士(文化史学)			学位又は学科の分野				文学関係										
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等								
・自学科専門科目 :1年次必修科目6単位、4年次必修科目8単位、1~4年次選択必修28単位、その他選択科目20単位、計62単位 ・共通科目 :「建学の精神」科目(「人間論」2単位必修、「キリスト教学Ⅰ」2単位必修、「キリスト教学Ⅱ」2単位必修、計6単位)、初年次教育科目(「スタートアップ・ゼミナール」1単位必修、「初年次ゼミナール」2単位必修、「初年次スタディーズ」2単位選択必修、計5単位)、外国語科目(英語)(1年次8単位選択必修、2年次8単位選択必修、計16単位)、外国語科目(英語以外)2単位選択必修、情報科学科目(「情報科学入門1a」1単位必修、「情報科学入門1b」1単位必修、「情報科学入門2」1単位必修、計3単位)、「心身の健康」科目(「健康・安全管理」2単位必修、「体育実技・理論」1単位選択必修、計3単位)、教養科目・「建学の精神」選択科目・キャリア教育科目から16単位以上選択必修。 ・自由選択 :19単位以上 合計132単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限:24単位(半期))										1学年の学期区分				2学期				
										1学期の授業期間				13週				
										1時限の授業の標準時間				105分				

授業科目の概要

(総合文化学部総合文化学科)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門 コア 科目	総合文化スタディーズ1		<p>(概要)総合文化学部にはどのような学問分野があるのかを紹介する。一つのテーマを領域横断的に学ぶことのおもしろさを知り、自分の興味関心のありかを探ることを目的とする。特にこの授業では、日本の「戦国時代」について多角的に学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全13回) (13 藤井由紀子/1回) サブカルチャーとしての戦国時代を考える。 (12 中野渡俊治/1回) 戦国時代について、基礎的な事柄を学ぶ。 (17 井上まどか/1回) 戦国時代の女性の生き方を考える。 (19 坂田奈々絵/1回) 当時の日本とキリスト教、ヨーロッパ社会について学ぶ。 (15 桃井治郎/1回) 宗教改革や大航海時代を迎えた16世紀の世界史を学ぶ。 (10 田和真紀子/1回) 戦国時代の日本語について学ぶ。 (24 佐伯孝弘/1回) 江戸時代における戦国武将のキャラクター化について学ぶ。 (21 福留真紀/1回) 戦国時代との歴史的つながりを踏まえて、幕末から明治時代について学ぶ。 (13 藤井由紀子、12 中野渡俊治/5回)(共同) 授業内講演による講義(1回)、ディスカッション授業(4回)を実施する。</p>	オムニバス・共同 (一部)
	総合文化スタディーズ2		<p>(概要)総合文化学部にはどのような学問分野があるのかを紹介する。一つのテーマを領域横断的に学ぶことのおもしろさを知り、自分の興味関心のありかを探ることを目的とする。特にこの授業では、「ファッション」について多角的に学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全13回) (29 斎藤悦子/1回) 現代のサブカルチャーとしての刺青を学ぶ。 (2 木川弘美/2回) ①裸体という視座からファッションの意味を考える。②美術作品においてファッションがどのように表象されるのかを学ぶ。 (4 今野真二/1回) 「ことば」という視座からファッションについて学ぶ。 (17 井上まどか/1回) 文化、宗教の視座からファッションを考える。 (16 石野一晴/1回) 文化、歴史の視座からファッションを考える。 (16 石野一晴、2 木川弘美/7回)(共同) ガイダンス(1回)、授業内講演による講義(1回)、ディスカッション授業(5回)を実施する。</p>	オムニバス・共同 (一部)
	総合文化スタディーズ3		<p>(概要)総合文化学部にはどのような学問分野があるのかを紹介する。一つのテーマを領域横断的に学ぶことのおもしろさを知り、自分の興味関心のありかを探ることを目的とする。特にこの授業では、「プリンセス」について多角的に学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全13回) (20 姫野敦子/1回) 日本のシンデレラ・ストーリーについて学ぶ。 (7 笹田裕子/1回) 原作「シンデレラ」の世界について学ぶ。 (1 大井知範/1回) ヨーロッパにおける「プリンセス」の実像を学ぶ。 (16 石野一晴/1回) 東アジアにおける「プリンセス」の実像を学ぶ。 (18 駒井睦子/2回) ①ラテン・アメリカにおける「プリンセス」の実像を学ぶ、②現代スペインのプリンセスについて学ぶ。 (9 鈴木直子/1回) 「プリンセス」作品において描かれるジェンダーの問題について学ぶ。 (4 今野真二/1回) 「ことば」を切り口にプリンセスについて学ぶ。 (18 駒井睦子、9 鈴木直子/5回)(共同) ガイダンス(1回)、授業内講演による講義(1回)、ディスカッション授業(3回)を実施する。</p>	オムニバス・共同 (一部)

専門 コア 科目 (続 き)	日本文化入門演習	○	<p>(概要) 日本文化領域にはどのような学問分野があるのかを紹介し、日本文化を学ぶことの意義や面白さ、方法などを伝え、多様なものの見方を学んでもらうことを目的とする。 (オムニバス形式／全13回) (13 藤井由紀子・9 鈴木直子・10 田和真紀子・21 福留真紀／2回) (共同) 導入とまとめを行う。 (13 藤井由紀子／3回) 日本古典文学の観点から日本文化を考察する具体的なトピックを紹介し、大学で日本文化を学ぶ面白さを味わってもらおう。 (9 鈴木直子／3回) 日本近代文学の観点から日本文化を考察する具体的なトピックを紹介し、大学で日本文化を学ぶ面白さを味わってもらおう。 (10 田和真紀子／3回) 日本語学の観点から日本文化を考察する具体的なトピックを紹介し、大学で日本文化を学ぶ面白さを味わってもらおう。 (21 福留真紀／2回) 日本史学の観点から日本文化を考察する具体的なトピックを紹介し、大学で日本文化を学ぶ面白さを味わってもらおう。”</p>	オムニバス・共同 (一部)
	国際文化入門演習	○	<p>(概要) 国際文化領域にはどのような学問分野があるのかを紹介し、国際文化を学ぶことの意義や面白さ、方法などを伝え、多様なものの見方を学んでもらうことを目的とする。 (オムニバス形式／全13回) (7 笹田裕子／2回) 英語圏文学の観点から国際文化を考察する具体的なトピックを紹介する。 (8 鈴木卓／2回) 英語学と日本語学の観点から国際文化を考察する具体的なトピックを紹介する。 (23 Anna Sasaki／2回) 翻訳(日英)の観点から国際文化を考察する具体的なトピックを紹介する。 (18 駒井睦子／2回) スペイン語圏文化及びスペイン語圏文学の観点から国際文化を考察する具体的なトピックを紹介する。 (5 齋藤華子／2回) 外国語教育学及びスペイン語学の観点から国際文化を考察する具体的なトピックを紹介する。 (11 Paloma Trenado／1回) スペイン語圏地域文化の観点から国際文化を考察する具体的なトピックを紹介する。 (15 桃井治郎／1回) 西洋史学の観点から国際文化を考察する具体的なトピックを紹介する。 (8 鈴木卓、18 駒井睦子、5 齋藤華子／1回) (共同) まとめを行う。</p>	オムニバス・共同 (一部)
	文化史入門演習	○	<p>(概要) 文化史領域にはどのような学問分野があるのかを紹介し、各分野を学ぶ意義を体感してもらおうことを目的とする。本演習では史資料の読解、研究発表、討議を行いながら文化史研究に対する理解を深め、レポートの作成を通じて受講者の主体的な思考力の養成を図る。 (オムニバス方式／全13回) (1 大井知範／3回) 世界史の分野で扱われる学問内容に触れ、この分野の特徴と魅力を紹介する。 (6 佐々木守俊／3回) 美術史学の分野で扱われる学問内容に触れ、この分野の特徴と魅力を紹介する。 (12 中野渡俊治／3回) 日本史の分野で扱われる学問内容に触れ、この分野の特徴と魅力を紹介する。 (19 坂田奈々絵／3回) 宗教史学の分野で扱われる学問内容に触れ、この分野の特徴と魅力を紹介する。 (1 大井知範・6 佐々木守俊・12 中野渡俊治・19 坂田奈々絵／1回) (共同) 全教員による対談と質疑応答を通じて、文化史領域の学びの楽しさと意義を体感してもらおう。</p>	オムニバス・共同 (一部)
	総合文化データサイエンス	○	<p>(概要) 社会で実際に採集したデータの分析を交えながら、総合文化の専門分野でどのようにデータサイエンスが活用できるのかを概括する。 (オムニバス方式／全13回) (2 木川弘美・8 鈴木卓・20 姫野敦子・3 木村琢也／1回) (共同) 授業の導入として現代社会におけるデータサイエンスの活用や、AIの現状などを概説的に講義する。 (2 木川弘美／3回) 文化史におけるデータサイエンス・AIの活用についての講義。歴史学の中で「データ」がどのように定義されているかや、芸術作品とAIの関わりなどについて学ぶ。 (8 鈴木卓／3回) 言語をデータとするデータサイエンスや言語に関わるAIの活用について。「ことば」をどのようにデータとして扱い解析するか、またAIにおけることばの利用などを学ぶ。 (20 姫野敦子／3回) 日本文学、特に韻文に関してのデータサイエンス、AIの活用方法について講義し、合わせて、新聞などのメディアが報道するAIの現状について探索方法などを合わせて講義する。 (3 木村琢也／3回) 統計の基本を身につける。大学入試でよく話題になる「偏差値」はどのように計算されているのかという話から始め、私たちのまわりにあふれている数表やグラフの正しい読み方およびそれらの作成法について学ぶ。</p>	オムニバス・共同 (一部)

専門 コア 科目 (続 き)	基礎演習1a(日本文化)	○	2年生を対象とし、専門的な知識を修得し、研究方法の基礎を学ぶことを目的とする科目である。演習形式で行い、自ら課題を見つけ、それを解決していくための基礎的なトレーニングを重ねることによって、主体的に学修に取り組む姿勢を身につけさせる。また、プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、他者に伝わる適切な表現方法について考え、他者と協働する力を育成する。本科目で扱う分野は、日本古典文学である。
	基礎演習2a(日本文化)	○	2年生を対象とし、専門的な知識を修得し、研究方法の基礎を学ぶことを目的とする科目である。演習形式で行い、自ら課題を見つけ、それを解決していくための基礎的なトレーニングを重ねることによって、主体的に学修に取り組む姿勢を身につけさせる。また、プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、他者に伝わる適切な表現方法について考え、他者と協働する力を育成する。本科目で扱う分野は、日本古典文学である。
	基礎演習3a(日本文化)	○	2年生を対象とし、専門的な知識を修得し、研究方法の基礎を学ぶことを目的とする科目である。演習形式で行い、自ら課題を見つけ、それを解決していくための基礎的なトレーニングを重ねることによって、主体的に学修に取り組む姿勢を身につけさせる。また、プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、他者に伝わる適切な表現方法について考え、他者と協働する力を育成する。本科目で扱う分野は、日本近代文学である。
	基礎演習4a(日本文化)	○	2年生を対象とし、専門的な知識を修得し、研究方法の基礎を学ぶことを目的とする科目である。演習形式で行い、自ら課題を見つけ、それを解決していくための基礎的なトレーニングを重ねることによって、主体的に学修に取り組む姿勢を身につけさせる。また、プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、他者に伝わる適切な表現方法について考え、他者と協働する力を育成する。本科目で扱う分野は、日本語学である。
	基礎演習5a(日本文化)	○	2年生を対象とし、専門的な知識を修得し、研究方法の基礎を学ぶことを目的とする科目である。演習形式で行い、自ら課題を見つけ、それを解決していくための基礎的なトレーニングを重ねることによって、主体的に学修に取り組む姿勢を身につけさせる。また、プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、他者に伝わる適切な表現方法について考え、他者と協働する力を育成する。本科目で扱う分野は、日本語学である。
	基礎演習6a(国際文化・英)	○	2年生を対象とし、専門的な知識を修得し、研究方法の基礎を学ぶことを目的とする科目である。演習形式で行い、自ら課題を見つけ、それを解決していくための基礎的なトレーニングを重ねることによって、主体的に学修に取り組む姿勢を身につけさせる。また、プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、他者に伝わる適切な表現方法について考え、他者と協働する力を育成する。本科目で扱う分野は、翻訳(英日・日英)である。
	基礎演習7a(国際文化・英)	○	2年生を対象とし、専門的な知識を修得し、研究方法の基礎を学ぶことを目的とする科目である。演習形式で行い、自ら課題を見つけ、それを解決していくための基礎的なトレーニングを重ねることによって、主体的に学修に取り組む姿勢を身につけさせる。また、プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、他者に伝わる適切な表現方法について考え、他者と協働する力を育成する。本科目で扱う分野は、英語圏児童文学である。
	基礎演習8a(国際文化・英)	○	2年生を対象とし、専門的な知識を修得し、研究方法の基礎を学ぶことを目的とする科目である。演習形式で行い、自ら課題を見つけ、それを解決していくための基礎的なトレーニングを重ねることによって、主体的に学修に取り組む姿勢を身につけさせる。また、プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、他者に伝わる適切な表現方法について考え、他者と協働する力を育成する。本科目で扱う分野は、異文化間コミュニケーションである。
	基礎演習9a(国際文化・英)	○	2年生を対象とし、専門的な知識を修得し、研究方法の基礎を学ぶことを目的とする科目である。演習形式で行い、自ら課題を見つけ、それを解決していくための基礎的なトレーニングを重ねることによって、主体的に学修に取り組む姿勢を身につけさせる。また、プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、他者に伝わる適切な表現方法について考え、他者と協働する力を育成する。本科目で扱う分野は、談話分析(英語・日本語)である。
	基礎演習10a(国際文化・西)	○	2年生を対象とし、専門的な知識を修得し、研究方法の基礎を学ぶことを目的とする科目である。演習形式で行い、自ら課題を見つけ、それを解決していくための基礎的なトレーニングを重ねることによって、主体的に学修に取り組む姿勢を身につけさせる。また、プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、他者に伝わる適切な表現方法について考え、他者と協働する力を育成する。本科目で扱う分野は、スペイン語圏文化学である。
	基礎演習11a(国際文化・西)	○	2年生を対象とし、専門的な知識を修得し、研究方法の基礎を学ぶことを目的とする科目である。演習形式で行い、自ら課題を見つけ、それを解決していくための基礎的なトレーニングを重ねることによって、主体的に学修に取り組む姿勢を身につけさせる。また、プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、他者に伝わる適切な表現方法について考え、他者と協働する力を育成する。本科目で扱う分野は、外国語教育学である。

専門 コア 科目 (続 き)	基礎演習1b(日本文化)	○	2年生を対象とし、専門的な知識を修得し、研究方法の基礎を学ぶことを目的とする科目である。演習形式で行い、自ら課題を見つけ、それを解決していくための基礎的なトレーニングを重ねることによって、主体的に学修に取り組む姿勢を身につけさせる。また、プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、他者に伝わる適切な表現方法について考え、他者と協働する力を育成する。「基礎演習a」の学修成果を踏まえ、やや応用的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、日本古典文学である。
	基礎演習2b(日本文化)	○	2年生を対象とし、専門的な知識を修得し、研究方法の基礎を学ぶことを目的とする科目である。演習形式で行い、自ら課題を見つけ、それを解決していくための基礎的なトレーニングを重ねることによって、主体的に学修に取り組む姿勢を身につけさせる。また、プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、他者に伝わる適切な表現方法について考え、他者と協働する力を育成する。「基礎演習a」の学修成果を踏まえ、やや応用的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、日本古典文学である。
	基礎演習3b(日本文化)	○	2年生を対象とし、専門的な知識を修得し、研究方法の基礎を学ぶことを目的とする科目である。演習形式で行い、自ら課題を見つけ、それを解決していくための基礎的なトレーニングを重ねることによって、主体的に学修に取り組む姿勢を身につけさせる。また、プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、他者に伝わる適切な表現方法について考え、他者と協働する力を育成する。「基礎演習a」の学修成果を踏まえ、やや応用的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、日本近代文学である。
	基礎演習4b(日本文化)	○	2年生を対象とし、専門的な知識を修得し、研究方法の基礎を学ぶことを目的とする科目である。演習形式で行い、自ら課題を見つけ、それを解決していくための基礎的なトレーニングを重ねることによって、主体的に学修に取り組む姿勢を身につけさせる。また、プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、他者に伝わる適切な表現方法について考え、他者と協働する力を育成する。「基礎演習a」の学修成果を踏まえ、やや応用的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、日本語学である。
	基礎演習5b(日本文化)	○	2年生を対象とし、専門的な知識を修得し、研究方法の基礎を学ぶことを目的とする科目である。演習形式で行い、自ら課題を見つけ、それを解決していくための基礎的なトレーニングを重ねることによって、主体的に学修に取り組む姿勢を身につけさせる。また、プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、他者に伝わる適切な表現方法について考え、他者と協働する力を育成する。「基礎演習a」の学修成果を踏まえ、やや応用的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、日本語学である。
	基礎演習6b(国際文化・英)	○	2年生を対象とし、専門的な知識を修得し、研究方法の基礎を学ぶことを目的とする科目である。演習形式で行い、自ら課題を見つけ、それを解決していくための基礎的なトレーニングを重ねることによって、主体的に学修に取り組む姿勢を身につけさせる。また、プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、他者に伝わる適切な表現方法について考え、他者と協働する力を育成する。「基礎演習a」の学修成果を踏まえ、やや応用的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、翻訳(英日・日英)である。
	基礎演習7b(国際文化・英)	○	2年生を対象とし、専門的な知識を修得し、研究方法の基礎を学ぶことを目的とする科目である。演習形式で行い、自ら課題を見つけ、それを解決していくための基礎的なトレーニングを重ねることによって、主体的に学修に取り組む姿勢を身につけさせる。また、プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、他者に伝わる適切な表現方法について考え、他者と協働する力を育成する。「基礎演習a」の学修成果を踏まえ、やや応用的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、英語圏児童文学である。
	基礎演習8b(国際文化・英)	○	2年生を対象とし、専門的な知識を修得し、研究方法の基礎を学ぶことを目的とする科目である。演習形式で行い、自ら課題を見つけ、それを解決していくための基礎的なトレーニングを重ねることによって、主体的に学修に取り組む姿勢を身につけさせる。また、プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、他者に伝わる適切な表現方法について考え、他者と協働する力を育成する。「基礎演習a」の学修成果を踏まえ、やや応用的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、異文化間コミュニケーションである。
	基礎演習9b(国際文化・英)	○	2年生を対象とし、専門的な知識を修得し、研究方法の基礎を学ぶことを目的とする科目である。演習形式で行い、自ら課題を見つけ、それを解決していくための基礎的なトレーニングを重ねることによって、主体的に学修に取り組む姿勢を身につけさせる。また、プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、他者に伝わる適切な表現方法について考え、他者と協働する力を育成する。「基礎演習a」の学修成果を踏まえ、やや応用的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、談話分析(英語・日本語)である。
	基礎演習10b(国際文化・西)	○	2年生を対象とし、専門的な知識を修得し、研究方法の基礎を学ぶことを目的とする科目である。演習形式で行い、自ら課題を見つけ、それを解決していくための基礎的なトレーニングを重ねることによって、主体的に学修に取り組む姿勢を身につけさせる。また、プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、他者に伝わる適切な表現方法について考え、他者と協働する力を育成する。「基礎演習a」の学修成果を踏まえ、やや応用的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、スペイン語圏文化学である。

専門コア科目 (続き)	基礎演習21b(文化史)	○	2年生を対象とし、専門的な知識を修得し、研究方法の基礎を学ぶことを目的とする科目である。演習形式で行い、自ら課題を見つけ、それを解決していくための基礎的なトレーニングを重ねることによって、主体的に学修に取り組む姿勢を身につけさせる。また、プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、他者に伝わる適切な表現方法について考え、他者と協働する力を育成する。「基礎演習a」の学修成果を踏まえ、やや応用的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、宗教史学である。	
	基礎演習22b(文化史)	○	2年生を対象とし、専門的な知識を修得し、研究方法の基礎を学ぶことを目的とする科目である。演習形式で行い、自ら課題を見つけ、それを解決していくための基礎的なトレーニングを重ねることによって、主体的に学修に取り組む姿勢を身につけさせる。また、プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、他者に伝わる適切な表現方法について考え、他者と協働する力を育成する。「基礎演習a」の学修成果を踏まえ、やや応用的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、聖書学である。	
	演習1a(日本文化)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、ゼミ生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。本科目で扱う分野は、日本古典文学である。	
	演習2a(日本文化)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、ゼミ生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。本科目で扱う分野は、日本古典文学である。	
	演習3a(日本文化)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、ゼミ生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。本科目で扱う分野は、日本近代文学である。	
	演習4a(日本文化)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、ゼミ生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。本科目で扱う分野は、日本語学である。	
	演習5a(日本文化)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、ゼミ生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。本科目で扱う分野は、日本語学である。	
	演習6a(国際文化・英)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、ゼミ生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。本科目で扱う分野は、翻訳(英日・日英)である。	
	演習7a(国際文化・英)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、ゼミ生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。本科目で扱う分野は、英語圏児童文学である。	
演習8a(国際文化・英)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、ゼミ生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。本科目で扱う分野は、異文化間コミュニケーションである。		

専門 コア 科目 (続 き)	演習9a(国際文化・英)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、ゼミ生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。本科目で扱う分野は、談話分析(英語・日本語)である。
	演習10a(国際文化・西)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、ゼミ生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。本科目で扱う分野は、スペイン語圏文化学である。
	演習11a(国際文化・西)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、ゼミ生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。本科目で扱う分野は、外国語教育学である。
	演習12a(国際文化・西)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、ゼミ生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。本科目で扱う分野は、スペイン語教育学である。
	演習13a(国際文化・西)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、ゼミ生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。本科目で扱う分野は、スペイン語圏地域文化学である。
	演習14a(文化史)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、ゼミ生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。本科目で扱う分野は、日本史学である。
	演習15a(文化史)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、ゼミ生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。本科目で扱う分野は、日本史学である。
	演習16a(文化史)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、ゼミ生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。本科目で扱う分野は、日本美術史学である。
	演習17a(文化史)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、ゼミ生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。本科目で扱う分野は、東洋史学である。
演習18a(文化史)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、ゼミ生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。本科目で扱う分野は、西洋史学である。	

専門 コア 科目 (続 き)	演習19a(文化史)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、ゼミ生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。本科目で扱う分野は、西洋史学である。	
	演習20a(文化史)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、ゼミ生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。本科目で扱う分野は、西洋美術史学である。	
	演習21a(文化史)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、ゼミ生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。本科目で扱う分野は、宗教史学である。	
	演習22a(文化史)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、ゼミ生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。本科目で扱う分野は、聖書学である。	
	演習1b(日本文化)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、学生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。「演習a」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、日本古典文学である。	
	演習2b(日本文化)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、学生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。「演習a」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、日本古典文学である。	
	演習3b(日本文化)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、学生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。「演習a」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、日本近代文学である。	
	演習4b(日本文化)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、学生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。「演習a」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、日本語学である。	
	演習5b(日本文化)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、学生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。「演習a」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、日本語学である。	
	演習6b(国際文化・英)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、学生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。「演習a」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、翻訳(英日・日英)である。	

専門 コア 科目 (続 き)	演習7b(国際文化・英)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、学生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。「演習a」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、英語圏児童文学である。	
	演習8b(国際文化・英)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、学生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。「演習a」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、異文化間コミュニケーションである。	
	演習9b(国際文化・英)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、学生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。「演習a」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、談話分析(英語・日本語)である。	
	演習10b(国際文化・西)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、学生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。「演習a」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、スペイン語圏文化学である。	
	演習11b(国際文化・西)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、学生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。「演習a」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、外国語教育学である。	
	演習12b(国際文化・西)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、学生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。「演習a」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、スペイン語教育学である。	
	演習13b(国際文化・西)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、学生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。「演習a」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、スペイン語圏地域文化学である。	
	演習14b(文化史)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、学生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。「演習a」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、日本史学である。	
	演習15b(文化史)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、学生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。「演習a」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、日本史学である。	
	演習16b(文化史)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、学生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。「演習a」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、日本美術史学である。	

専門 コア科目 (続き)		演習17b(文化史)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、学生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。「演習a」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、東洋史学である。	
		演習18b(文化史)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、学生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。「演習a」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、西洋史学である。	
		演習19b(文化史)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、学生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。「演習a」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、西洋史学である。	
		演習20b(文化史)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、学生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。「演習a」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、西洋美術史学である。	
		演習21b(文化史)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、学生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。「演習a」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、宗教史学である。	
		演習22b(文化史)	○	3年生を対象とし、専門的な知識を深め、卒業論文・卒業プレゼンテーションに繋げるための研究方法を学ぶことを目的とする科目である。ゼミナール形式で行い、指導教員による指導の下、問題解決力、論理的思考力、他者に対して説得性のある表現力等を身につけさせる。プレゼンテーションやグループディスカッション等を通して、学生相互の意見交換を行い、討議の中で思考能力を育成しつつ、他者と協働する力を修得させる。「演習a」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。本科目で扱う分野は、聖書学である。	
		研究法演習a	○	4年生を対象とし、卒業論文・卒業プレゼンテーションに向けての実践的な指導を行う科目である。ゼミナール形式で行う。4年間の学修の総まとめとして、卒業論文・卒業プレゼンテーションに向き合い、実際に作成するにあたっての具体的な問題点を把握し、それを主体的に解決していく姿勢を身につけさせる。担当教員による個別指導と、学生同士による意見交換を通して、自己の主張を的確に他者に伝える力を修得させる。	
		研究法演習b	○	4年生を対象とし、卒業論文・卒業プレゼンテーションに向けての実践的な指導を行う科目である。ゼミナール形式で行う。4年間の学修の総まとめとして、卒業論文・卒業プレゼンテーションに向き合い、実際に作成するにあたっての具体的な問題点を把握し、それを主体的に解決していく姿勢を身につけさせる。担当教員による個別指導と、学生同士による意見交換を通して、自己の主張を的確に他者に伝える力を修得させる。卒業論文・卒業プレゼンテーションを完成させることを目的とする。	
		卒業論文・卒業プレゼンテーション	○	4年間の学修成果としてまとめ上げた卒業論文・卒業プレゼンテーションを評価する科目である。「研究法演習」での指導を下に、各自で設定したテーマに基づき、定められた条件に従って完成させる。評価は、複数教員による審査によって行う。専門的な知識に基づいた明確な課題設定と筋道だった論証、客観性のある主張がなされているのかを求める。卒業論文・卒業プレゼンテーションに向き合うことを通して、持続的に努力する姿勢を涵養し、学びにつける意義を認識させる。	
専門 基礎科目	日本 文化 領域	初級くずし字ワークショップ		室町時代まで、日本語はほとんど手書きされてきた。その手書きされた漢字と仮名のうち、仮名を対象として解読するスキルを修得することを目的とする。テキストを定め、履修者は毎回それを一定量解読して授業にのぞみ、自分の解読を修正しながら、解読スキルをアップさせていく。最短で解読を修得できるような「メソッド」が準備されているので、それにしたがって予習復習をきちんと行えば、驚くほど解読スキルを身につけることができ、学習が実感できる科目でもある。	

日本文化領域 (続き)	漢字文化論		日本語はずっと漢字を使って文字化を行なってきたので、日本語の歴史は漢字の歴史といってもよい。中国における漢字の歴史にも目を向けながら、日本語の中で漢字がどのような位置をしめてきたか、また漢字が日本文学、日本文化とどのようにかかわってきたかなどについてひろく話題にしていく。中国や日本の石碑で使われた漢字の書体・字体などについても注目していきたい。現代において漢字がどのような場面で使われているのか、世界における漢字などについても話題にしていく。		
	日本語データ分析入門		現在の日本語学・日本文学分野においてパソコンを使用することは必須である。日本語学・日本文学分野におけるパソコンの活用方法として、各種日本語学・日本文学分野に関連したデータベースの使用方法ならびに、レポート・論文作成に使用するエクセル・ワードの使い方を中心に学ぶ。日本語学・日本文学分野でのレポート・論文作成に関わるパソコンの基礎的な活用方法について、演習形式で身につけ、調査や収集したデータの分析と成形に活用できるようにすることを目的とする。		
	日本文学読解トレーニング		(概要)大学で日本古典文学・日本近代文学を学ぶために必要な知識、資料へのアクセス方法、実際に読解する手順や手法を実践的に学んでもらうことを目的とする。 (オムニバス形式／全13回) (13 藤井由紀子・9 鈴木直子／1回)(共同)導入とまとめを行う。 (13 藤井由紀子／6回) 日本古典文学を学ぶ意義、必要最低限の知識、資料へのアクセス方法などを伝える。また具体的に中古文学作品を取り上げ、読解する手法を演習形式で指導する。 (9 鈴木直子／6回) 日本近代文学を学ぶ意義、必要最低限の知識、資料へのアクセス方法などを伝える。また具体的に近代文学作品を取り上げ、読解する手法を演習形式で指導する。	オムニバス・共同 (一部)	
専門基礎科目 (続き)	国際文化領域・英	パフォーマンスa		オリジナルな寸劇を英語で作るクリエイティブ・ライティングを主眼としつつ、アクティブラーニングや問題解決型プロジェクトを組み合わせて上演実践を行いながら、語学力と想像力・創造力や批判的リテラシー向上を同時にめざす。言葉や身体感覚を活性化させ、他者との協働を通じた成果発表をめざすための、舞台芸術をベースにした多角的な教育を行う。	
		パフォーマンスb		オリジナルな寸劇を英語で作るクリエイティブ・ライティングを主眼としつつ、アクティブラーニングや問題解決型プロジェクトを組み合わせて上演実践を行いながら、語学力と想像力・創造力や批判的リテラシー向上を同時にめざす。言葉や身体感覚を活性化させ、他者との協働を通じた成果発表をめざすための、舞台芸術をベースにした多角的な教育を行う。「パフォーマンスa」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。	
	英語アカデミック・ベーシックsa		EFLとしてのライティング・リーディング・リスニング・スピーキングの英語4技能をバランスよく鍛えながら、各種資格試験受験に対応し得る総合的な英語力の底上げを目指す。アクティブラーニングや問題解決型プロジェクトと結びつきやすい実践的な英語力を鍛えるため、各授業でディスカッションやプレゼンテーションの技法を毎回導入する。		
	英語アカデミック・ベーシックsb		EFLとしてのライティング・リーディング・リスニング・スピーキングの英語4技能をバランスよく鍛えながら、各種資格試験受験に対応し得る総合的な英語力の底上げを目指す。アクティブラーニングや問題解決型プロジェクトと結びつきやすい実践的な英語力を鍛えるため、各授業でディスカッションやプレゼンテーションの技法を毎回導入する。「英語アカデミック・ベーシックsa」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。		
	国際文化領域・西	スペイン語 I -1(文法)		文字と発音から始め、スペイン語の初級文法の最も基礎的な部分を学ぶ。スペイン語を正しく発音できるようになる。スペイン語の文の作り方、名詞、形容詞の性と数、動詞の直説法現在形および人称代名詞の使い方などに習熟する。新しい文法事項が出てくるたびに例文と練習問題によって受講生の理解と定着を図る。随時、学習者の母語である日本語、既習外国語である英語との共通点、相違点に注意を促す。基礎語彙約500語を覚える。	
スペイン語 I -2(文法)			文字と発音から始め、スペイン語の初級文法の最も基礎的な部分を学ぶ。スペイン語を正しく発音できるようになる。スペイン語の文の作り方、名詞、形容詞の性と数、動詞の直説法現在形および人称代名詞の使い方などに習熟する。新しい文法事項が出てくるたびに例文と練習問題によって受講生の理解と定着を図る。随時、学習者の母語である日本語、既習外国語である英語との共通点、相違点に注意を促す。基礎語彙約500語を覚える。		
スペイン語 I -1(会話)			スペイン語の文法演習および会話練習の科目。「スペイン語 I -1(文法)」、「スペイン語 I -2(文法)」の授業で学習した内容を、さまざまなアクティビティを通して実際に使いながら学んでいく。同時に、日常生活に必要な会話表現を練習する。スペインやスペイン語圏諸国の文化、習慣、スポーツ、映画、文学、食べ物等のテーマについて、実際にスペイン語で話し、聞き、読み、書くことによって、スペイン語でコミュニケーションができるようになることを目指す。		

専門基礎科目（続き） 国際文化領域・西（続き）	スペイン語Ⅰ-2(会話)	スペイン語の文法演習および会話練習の科目。「スペイン語Ⅰ-1(文法)」、「スペイン語Ⅰ-2(文法)」の授業で学習した内容を、さまざまなアクティビティーを通して実際に使いながら学んでいく。同時に、日常生活に必要な会話表現を練習する。スペインやスペイン語圏諸国の文化、習慣、スポーツ、映画、文学、食べ物等のテーマについて、実際にスペイン語で話し、聞き、読み、書くことによって、スペイン語でコミュニケーションができるようになることを目指す。
	スペイン語Ⅱ-1(文法)	「スペイン語Ⅰ-1(文法)」、「スペイン語Ⅰ-2(文法)」の続きとして、スペイン語の初級文法の学習を続ける。スペイン語の文の作り方、動詞の直説法のすべての時制を学び、それらの活用と使い方に習熟する。現代スペイン語で用いられる直説法の9時制がそれぞれバラバラに存在するのではなく、相互に関連し合っひとつの体系を成していることを理解する。発音も重視する。「スペイン語Ⅰ-1(文法)」、「スペイン語Ⅰ-2(文法)」と合わせて、基礎語彙約1000語を覚える。
	スペイン語Ⅱ-2(文法)	「スペイン語Ⅰ-1(文法)」、「スペイン語Ⅰ-2(文法)」の続きとして、スペイン語の初級文法の学習を続ける。スペイン語の文の作り方、動詞の直説法のすべての時制を学び、それらの活用と使い方に習熟する。現代スペイン語で用いられる直説法の9時制がそれぞれバラバラに存在するのではなく、相互に関連し合っひとつの体系を成していることを理解する。発音も重視する。「スペイン語Ⅰ-1(文法)」、「スペイン語Ⅰ-2(文法)」と合わせて、基礎語彙約1000語を覚える。
	スペイン語Ⅱ-1(会話)	スペイン語の文法演習および会話練習。様々なアクティビティーを通して、「文法」の授業で学習した内容を、実際に使いながら学んでいく。同時に、日常生活に必要な会話表現を練習する。スペインやスペイン語圏諸国の文化、習慣、スポーツ、映画、文学、食べ物等のテーマについて、実際にスペイン語で話し、聞き、読み、書くことによって、スペイン語でコミュニケーションができるようになることを目指す。
	スペイン語Ⅱ-2(会話)	スペイン語の文法演習および会話練習。様々なアクティビティーを通して、「文法」の授業で学習した内容を、実際に使いながら学んでいく。同時に、日常生活に必要な会話表現を練習する。スペインやスペイン語圏諸国の文化、習慣、スポーツ、映画、文学、食べ物等のテーマについて、実際にスペイン語で話し、聞き、読み、書くことによって、スペイン語でコミュニケーションができるようになることを目指す。
	Gramática y lectura I-1	入学時にすでに一定以上のスペイン語の運用力を持っている学生のためのクラス。個々の受講者のレベルに合わせ、その受講者がすでに持っているスペイン語の知識を利用しながら、スペイン語の初級文法を速習し、文法の理解を確かなものとする。文法事項としては動詞の直説法の現在、点過去、線過去、現在完了、および人称代名詞の使い方などが中心になる。同時にスペイン語を正しい日本語に訳す力も重視し、日本語とスペイン語の発想の違いにも注意を向ける。
	Gramática y lectura I-2	入学時にすでに一定以上のスペイン語の運用力を持っている学生のためのクラス。個々の受講者のレベルに合わせ、その受講者がすでに持っているスペイン語の知識を利用しながら、スペイン語の初級文法を速習し、文法の理解を確かなものとする。文法事項としては動詞の直説法の現在、点過去、線過去、現在完了、および人称代名詞の使い方などが中心になる。同時にスペイン語を正しい日本語に訳す力も重視し、日本語とスペイン語の発想の違いにも注意を向ける。
	Comunicación oral I-1	入学時にすでに一定以上のスペイン語の運用力を持っている学生のためのクラス。スペイン語圏諸国で頻繁に出会う場面を想定した会話と聴解練習を通して、スペイン語の口頭表現力を高めるための科目である。さらに、各受講生のレベルに合わせてDELE試験(インスティトゥト・セルバンテスのスペイン語技能試験)の対策もおこなう。科目の目標は(1)スペイン語のコミュニケーション能力を高めること、(2)語彙を増やすこと、(3)受講生がより高いレベルに進むため、DELEの問題を知り、それを練習すること、の3点である。
	Comunicación oral I-2	入学時にすでに一定以上のスペイン語の運用力を持っている学生のためのクラス。スペイン語圏諸国で頻繁に出会う場面を想定した会話と聴解練習を通して、スペイン語の口頭表現力を高めるための科目である。さらに、各受講生のレベルに合わせてDELE試験(インスティトゥト・セルバンテスのスペイン語技能試験)の対策もおこなう。科目の目標は(1)スペイン語のコミュニケーション能力を高めること、(2)語彙を増やすこと、(3)受講生がより高いレベルに進むため、DELEの問題を知り、それを練習すること、の3点である。
	Gramática y lectura II-1	入学時にすでに一定以上のスペイン語の運用力を持っている学生のためのクラス。個々の受講者のレベルに合わせ、その受講者がすでに持っているスペイン語の知識を利用しながら、スペイン語の初級文法を速習し、文法の理解を確かなものとする。文法事項としては動詞の直説法の全時制が中心となるが、受講者の理解度によっては命令法・接続法の用法も扱うことがあり得る。同時にスペイン語を正しい日本語に訳す力も重視し、日本語とスペイン語の発想の違いにも注意を向ける。

国際文化領域・西(続き)	Gramática y lectura II-2	入学時にすでに一定以上のスペイン語の運用力を持っている学生のためのクラス。個々の受講者のレベルに合わせ、その受講者がすでに持っているスペイン語の知識を利用しながら、スペイン語の初級文法を速習し、文法の理解を確かなものとする。文法事項としては動詞の直説法の全時制が中心となるが、受講者の理解度によっては命令法・接続法の用法も扱うことがあり得る。同時にスペイン語を正しい日本語に訳す力も重視し、日本語とスペイン語の発想の違いにも注意を向ける。		
	Comunicación oral II-1	入学時にすでに一定以上のスペイン語の運用力を持っている学生のためのクラス。中級レベルのコミュニケーション4技能の統合的科目。聴解・読解、および口頭表現を通してスペイン語の学習と練習をおこなう。受講者がB1レベルに達するように、さまざまなタイプの文章や多様な練習問題を用いる。特に重視するのは読解と口頭表現、対話である。DELEの試験で使われる形式のタスクを多くおこなう。受講生がすでに持っているコミュニケーション能力をさらに発展させ、理解力を高めて、B1レベルの言語能力に近づくことを目標とする。		
	Comunicación oral II-2	入学時にすでに一定以上のスペイン語の運用力を持っている学生のためのクラス。中級レベルのコミュニケーション4技能の統合的科目。聴解・読解、および口頭表現を通してスペイン語の学習と練習をおこなう。受講者がB1レベルに達するように、さまざまなタイプの文章や多様な練習問題を用いる。特に重視するのは読解と口頭表現、対話である。DELEの試験で使われる形式のタスクを多くおこなう。受講生がすでに持っているコミュニケーション能力をさらに発展させ、理解力を高めて、B1レベルの言語能力に近づくことを目標とする。		
専門基礎科目(続き)	文化史領域	文化史学序説	<p>(概要)本講義は、1年次生を主な対象に、文化史領域で学ぶことのできる学問分野についてその内容と特徴を把握することを目指す。共通テーマについての各教員による専門の立場からの講義とともに、教員による座談会や学生のグループワークを通して学びを深める。 (オムニバス形式 全13回) (16 石野一晴・17 井上まどか・1 大井知範・2 木川弘美・19 坂田奈々絵・6 佐々木守俊・12 中野渡俊治・21 福留真紀・15 桃井治郎/1回)(共同) 文化史領域の学びの特徴や各教員の専門について説明する。 (15 桃井治郎/2回) 西洋史の分野から共通テーマについて講義を行う。また、第13回において、文化史領域の学びの特徴や意義を考えるため、学生間でグループワークを行う。 (12 中野渡俊治/1回) 日本史の分野から共通テーマについて講義を行う。 (21 福留真紀/1回) 日本史の分野から共通テーマについて講義を行う。 (16 石野一晴/1回) 東洋史の分野から共通テーマについて講義を行う。 (1 大井知範/1回) 西洋史の分野から共通テーマについて講義を行う。</p> <p>(6 佐々木守俊/1回) 日本美術史の分野から共通テーマについて講義を行う。 (2 木川弘美/1回) 西洋美術史の分野から共通テーマについて講義を行う。 (17 井上まどか/1回) 宗教史の分野から共通テーマについて講義を行う。 (19 坂田奈々絵/1回) 聖書学の分野から共通テーマについて講義を行う。 (16 石野一晴・1 大井知範・12 中野渡俊治・21 福留真紀・15 桃井治郎/1回)(共同) 文化史領域の学びの特徴や意義について教員間の対談および学生との質疑応答を行う。 (17 井上まどか・2 木川弘美・19 坂田奈々絵・6 佐々木守俊・15 桃井治郎/1回)(共同) 文化史領域の学びの特徴や意義について教員間の対談および学生との質疑応答を行う。</p>	オムニバス・共同(一部)
		日本史概説a	(概要)日本史の入門者を対象に、古代から中世までの日本の歴史を概観する。時代の流れを理解しつつ、政治・経済・社会・文化・国際関係など様々な切り口から多角的に考察する。基本的な知識を身に付けると同時に、文献史料だけでなく、絵画史料など多彩な史料の読み解き方を会得する。また、現代社会に起きている様々な問題には、歴史的背景があり、歴史を理解することにより、現代をより複眼的に見ることができる。歴史的思考力を身に付ける。	
		日本史概説b	(概要)日本史の入門者を対象に、近世から近現代までの日本の歴史を概観する。時代の流れを理解しつつ、政治・経済・社会・文化・国際関係など様々な切り口から多角的に考察する。基本的な知識を身に付けると同時に、文献史料だけでなく、絵画史料など多彩な史料の読み解き方を会得する。また、現代社会に起きている様々な問題には、歴史的背景があり、歴史を理解することにより、現代をより複眼的に見ることができる。歴史的思考力を身に付ける。	

専門基礎科目（続き） 文化史領域（続き）	東洋史概説a	<p>初学者を対象に、東洋史を「中国」を中心に先史時代から唐宋変革の時代まで学ぶ。現在の「中国」には広大な領域の中に14億人を超える人々が暮らし、見た目も文化的背景も異なる実に多様な人々が暮らしている。この多様性に満ちた「中国」はどのようにして生まれたのか。そして「中国」は周辺地域と相互にどのような影響を与え合ったのか。本講義ではこのような問題について、初学者を対象にできる限り平易に解説する。東洋史概説aでは、はじめは首都周辺の狭い地域を示すだけであった「中国」の概念がどのようにして支配領域全体を示す言葉として変化していったのかを論じるとともに、歴代の王朝が北方の遊牧民とどのような関係を取り結び、どのように融合していったのかについて重点的に論じていきたい。</p>	
	東洋史概説b	<p>初学者を対象に、東洋史を「中国」を中心にモンゴル帝国の時代から現代までを学ぶ。現在の「中国」には広大な領域の中に14億人を超える人々が暮らし、見た目も文化的背景も異なる実に多様な人々が暮らしている。この多様性に満ちた「中国」はどのようにして生まれたのか。そして「中国」は周辺地域と相互にどのような影響を与え合ったのか。本講義ではこのような問題について、初学者を対象にできる限り平易に解説する。東洋史概説bでは、モンゴル帝国がユーラシア大陸全域に及ぶ大帝国を作り上げた後に、それを継承した国家がどのような歴史的過程を歩んだのかを論じるとともに、近代国家としての「中国」がどのように成立したのかについて詳細に論じてゆきたい。</p>	
	西洋史概説a	<p>(概要)西洋史学の入門者を対象に、古代から中世の西洋の歴史、特に地中海世界の歴史を学ぶ。具体的なトピックとしては、ギリシア神話、ペルシア戦争、ヘレニズム時代、ポエニ戦争、共和政ローマと帝政ローマ、西ローマ帝国の終焉などである。本授業では、特にそれぞれの時代における「海賊」という存在に注目しながら、歴史や地域により価値観は多様であること、また、そうした価値観の背景にある社会状況についても理解を深める。加えて、従来の西洋史とは異なる視点から歴史を再読することで、歴史研究の多様なアプローチを習得する。</p>	
	西洋史概説b	<p>(概要)西洋史学の入門者を対象に、中世から近代までの西洋の歴史を学ぶ。具体的なトピックとしては、イスラームの誕生、フランク王国、レコンキスタ、オスマン帝国、大航海時代、アメリカ合衆国の建国、ウィーン体制の成立などである。本授業では、特にそれぞれの時代における「海賊」という存在に注目しながら、歴史や地域により価値観は多様であること、また、そうした価値観の背景にある社会状況についても理解を深める。加えて、従来の西洋史とは異なる視点から歴史を再読することで、歴史研究の多様なアプローチを習得する。</p>	
	史学概論	<p>(概要)歴史学の入門者を対象に、歴史研究の基本的な手法や考え方を学ぶ。授業はオムニバス形式で実施し、西洋史・東洋史・日本史における歴史学の流れを概観するとともに、それぞれの分野における代表的な歴史研究を紹介する。「歴史」というものが、各時代にどのように認識され、歴史学がどのように展開してきたのか理解を深める。授業内では具体的な文献や史料を読み解きながら、歴史学の基本的な方法論を理解・習得するとともに、歴史研究の多様なアプローチについて学ぶ。同時に、歴史研究の文献や史料を読み解く力やリテラシーを身につける。</p> <p>(オムニバス形式 全13回) (15 桃井治郎/6回) 西洋史の分野から歴史学の方法論について講義を行う。 (16 石野一晴/3回) 東洋史の分野から歴史学の方法論について講義を行う。 (12 中野渡俊治/2回) 日本史の分野から歴史学の方法論について講義を行う。 (21 福留真紀/2回) 日本史の分野から歴史学の方法論について講義を行う。</p>	オムニバス
	美術史概論	<p>(概要)美術史の入門者を対象に、美術史研究の基本的な手法や考え方を学ぶ。西洋の美術および日本の美術作品について、基本的な視点を提示しつつ多彩な見方を概観する。美術作品は洋の東西を問わず形と色からなるが、各時代の思想、宗教、さらに製作者の個性によってさまざまな問題がある。この授業では西洋美術・日本美術のそれぞれについて、具体的な作品を例に挙げながらその成り立ちを説明する。特に美術作品を見る際の重要な視点として「様式論」の立場から学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全13回) (2 木川弘美/6回) 西洋美術史の視点から美術史研究の基礎を学ぶ。 (6 佐々木守俊/6回) 日本美術史の視点から美術史研究の基礎を学ぶ。 (2 木川弘美・6 佐々木守俊/1回) 西洋・日本の美術史研究について、横断的な視点から考察する。ミニシンポジウム的に授業を行い、教員と学生との意見交換をはかる。</p>	オムニバス・共同(一部)
	哲学概論	<p>初学者を対象に、哲学とは何かという問いを起点として、哲学の方法と主要なテーマについて理解してもらう。哲学の主要なテーマとは、たとえば『哲学の問題群——もう一度考えてみる——』(麻生・城戸編)を教科書にした場合には、次のようなものとなる——(1)人間とその生、(2)私と他者、(3)自由と行為、(4)知識と言語、(5)存在と世界、(6)善悪と価値、(7)社会と人間、(8)苦悩と幸福。こうしたテーマのもとに哲学的な観点と方法によってどのような問題をどのように思考していけるのか、について学生が自ら洞察を深めていけるような授業を心がける。</p>	

専門基礎科目（続き）	文化史領域（続き）	宗教学概論	本講義は、宗教学という学問の基礎を学ぶこと、諸宗教の歴史とその地域的展開を学ぶことの2つを目的とする。講義では、様々な宗教現象をとりあげ、それらに対する宗教学のアプローチを学ぶとともに、世界五大宗教を中心に、その歴史と地域的展開について学ぶ。到達目標は①様々な宗教現象について宗教学のアプローチを簡潔に説明できること、②世界五大宗教の歴史と概要を説明できること、③宗教をめぐる自分の関心とアプローチについて、宗教学における研究蓄積をふまえて、自分の言葉で表現できることである。	
		聖書学概論	本講義は、聖書学およびキリスト教の学問的研究を行うための、基礎的な知識とアプローチの修得を目的とする。まず聖書の基礎的な構成や諸書の内容、宗教文書としての性質、言語、写本、成立史について学ぶことで、書物としての聖書に関する知識を身につける。同時に、キリスト教という宗教と聖書の関係や、聖書の様々な記述がどのように解釈され、実践されてきたかを具体的に見ていくことで、宗教文書としての聖書について学ぶ。そしてこれらを統合していくことで、如上の学問的研究を行うための素地や、各自が聖書にアプローチする際の視点について整理してゆく。	
専門探究科目		文理融合特論	(概要)PCやスマホといった身近な情報機器の日本語入力システムについて、人文科学系学習者が興味を持って理解できるように物理インタフェース、辞書、構文解析、学習など様々な側面からひも解いていく。また、日本語入力システムに意味論、統語論などの言語学の諸理論がどのように関わっているか、実際のプログラムを操作しながら検討する。これらの学びを通して、日本語を扱う情報処理に求められる条件を理解し、また、日本語を多角的に考察する視点を養うものとする。 (オムニバス形式／全13回) (10 田和真紀子／4回) 主に、日本語学の観点からの授業を行う。 (26 福田健／7回) 主に、情報処理の観点からの授業を行う。 (10 田和真紀子、26 福田健／2回) (共同) ガイダンスとまとめを行う。	オムニバス・共同 (一部)
		死生学	(概要) 本講義では、宗教学・美術史・文学・医学・生命倫理・社会学・環境学にまたがる死生学について、各々の専門領域のアプローチについて学ぶ。講義では、(1)他界をめぐるイメージおよび死生観について宗教学・美術史・文学の視点から、(2)現代医療および生命倫理について医学・生命倫理学の視点から、(3)生と死に向きあう社会について社会学・環境倫理という視点から学ぶ (オムニバス方式／全13回) (17 井上まどか／8回) 宗教学の視点から諸宗教の他界イメージ、環境倫理、現代医療の緩和ケアの実践、現代医療の生殖技術の展開をふまえて、死生観の変容について学ぶ。生命倫理の視点から、緩和ケアの展開と死生観の関係、生殖技術と死生観の関係、現代社会の自死をめぐる問題について学ぶ。 (19 坂田奈々絵／1回) キリスト教思想の視点から他界イメージおよび死生観について学ぶ。 (2 木川弘美／1回) 美術史の視点から西欧における他界イメージおよび死生観について学ぶ。 (6 佐々木守俊／1回) 美術史の視点から日本における他界イメージおよび死生観について学ぶ。 (13 藤井由紀子／1回) 文学研究の視点から日本における他界イメージおよび死生観について学ぶ。 (18 駒井睦子／1回) 文学研究の視点から西欧における他界イメージおよび死生観について学ぶ。	オムニバス
		怪異学1	人間は人智を超えた不思議な出来事を、彼岸の世界や怪物の存在と結びつけるなど、様々な方法で解釈してきた。怪異学1では、怪異学とはなにかを主体的に考えるために、日本古典文学に描かれた、怪異が描かれた作品をとりあげ、怪異に関する通史的概説を行うと共に、その背景となる日本人の死生観や宗教について講じる。具体的文献の精読を通じて、怪異について学術的・学際的に考えること、およびその意義についても講じ、諸文献についても紹介する。	
		怪異学2	(概要)人間は人智を超えた不思議な出来事を、彼岸の世界や怪物の存在と結びつけるなど、様々な方法で解釈してきた。怪異学2では、こうした怪異が日本や西洋の文化のなかで図像表現としてどのように表現されてきたか、具体的な作例をみながら、未知なるものに対する人間の思想的な歴史観を学ぶ。 (オムニバス方式／全13回) (6 佐々木守俊／3回) 日本美術における怪異表現について学ぶ。絵巻や仏画における地獄の図像や、江戸時代の幽霊画・妖怪画を中心に、怪異の表現の展開を眺めてゆく (2 木川弘美／9回) 西洋美術における怪異表現について学ぶ。キリスト教における天国と地獄といった死後の世界や、悪魔・怪物の図像を取りあげて、ヨーロッパにおける怪異の表象の特徴を捉える。 (2 木川弘美・6 佐々木守俊／1回) (共同) 授業のまとめとして、東西の怪異に関する図像表現を比較し、異文化間の共通点や相違点について理解を深める。	オムニバス・共同 (一部)
		ファンタジー学1	日本語圏のファンタジーに興味関心を持つ学生に対して、その関心をさらに深めるために必要な学問的トピックスを紹介する。本科目では、近代日本および欧米の児童文学に描かれた、架空の世界を舞台とするファンタジーに焦点を当て、その作品世界の構造や意義、現実社会との関連などを考察しつつ、その魅力を掘り下げる。	

専門探究科目（続き）	ファンタジー学2	英語圏のファンタジーについて、「ファンタジー」の語源や定義をふまえて考察する。学生が各自の興味関心の対象を追究すると同時にその範囲をさらに広げること、社会文化的・歴史的背景を含め多様なジャンルのファンタジーに関する知識を深めることを目的とする。口承文学から始まり3つの「ファンタジー黄金期」を経て現代に至る迄、代表的なファンタジー作品を毎回1作品ずつ取り上げ、原書からの抜粋を読み解きながら変遷を追う。
	異文化コミュニケーション1	異文化コミュニケーション論の理論と具体的な事象・実践・形態との結節点に立ち、英語の多様性、文化の多層性を学ぶ。各国の標識案内やノン・バーバル・コミュニケーションといったシンプルなお事象から、宗教・歴史・文化の違いを踏まえ認め合い折り合った先にある異文化間対話の可能性に関する発展学修までを網羅する。
	異文化コミュニケーション2	この科目では、スペイン語圏の豊かで多様な文化を、様々なスペイン語テキストの読解、インタラクティブなアクティビティ、視聴覚教材の視聴、デジタルコンテンツのリサーチなどからインプットし、そこで得た情報をグループ・ワーク、プレゼンテーションなどを通してアウトプットする。文化的背景の中で語彙を増やし、より実践的な言語を身に付け、スペイン語でのコミュニケーション能力を向上させる。スペイン語圏の文化をより深く探求し、異なる文化背景を持つ人々をより理解し、開かれた心を持つ人材の育成に努めたい。
	源氏物語の世界1	日本文化の源泉である『源氏物語』を学ぶ。なぜ『源氏物語』が一千年にわたって読み継がれてきたのかを、さまざまな角度から考察することによって、『源氏物語』の魅力を理解すると同時に、日本文化の本質について考察を及ぼす。本科目では、『源氏物語』の本文を精読する。いくつかの場面を取り上げながら、表現の秀逸さを理解し、登場人物の心情を把握し、物語世界を楽しむことを通して、古典の持つ「普遍性」とは何かを考えていく。
	源氏物語の世界2	日本文化の源泉である『源氏物語』を学ぶ。なぜ『源氏物語』が一千年にわたって読み継がれてきたのかを、さまざまな角度から考察することによって、『源氏物語』の魅力を理解すると同時に、日本文化の本質について考察を及ぼす。本科目では、『源氏物語』の世界や表現をもとに、つくられた後代の作品を見ていく。後代の文学は『源氏物語』の何を重視していたのかを考えることを通して、古典の持つ「普遍性」とは何かを考えていく。
	日本語学の世界1	日本語学とはどのような学問であるのかを、学生各自の興味関心に結びつくような形で紹介する。当該分野の入門科目として、教養的な知識を身につけさせると同時に、学ぶことの楽しさを体感することで、主体的に学修に向かう意欲を持たせることを目的とする。本科目では、日本語学分野として取り上げられるトピックスを、共通語から方言、現代語から古語と幅広く取り上げ、日本語学という分野でどんなことが研究できるのかを知る学問的入り口としたい。
	日本語学の世界2	日本語学とはどのような学問であるのかを、学生各自の興味関心に結びつくような形で紹介する。当該分野の入門科目として、教養的な知識を身につけさせると同時に、学ぶことの楽しさを体感することで、主体的に学修に向かう意欲を持たせることを目的とする。本科目では、時期としては現代の日本語、過去の日本語などをひろくとりあげることとする。また、文献として文字化されている日本語、「はなしことば」「打ち言葉」としてアウトプットされている日本語など、いろいろな日本語を対象として、日本語について総合的に話題を提供したい。
	日本語学の世界3	日本語学に興味関心を持つ学生に対して、その関心をさらに深めるために必要な学問的トピックスを紹介する。当該分野の基礎科目として、専門的な知識を身につけさせると同時に、学びを追究することのおもしろさを知り、自ら考えることへの意欲を持たせることを目的とする。本科目では、現代日本語における変種のなかでも「地理的変種」、すなわち「方言」について扱う。方言は身近な存在であり、意識している言葉、意識せずに使っている言葉もある。「方言」というものを言語研究としてはどのように扱い、どのような研究されているのかを知り理解する。
	日本古典文学の世界1	日本古典文学とはどのような学問であるのかを、学生各自の興味関心に結びつくような形で紹介する。当該分野の入門科目として、教養的な知識を身につけさせると同時に、学ぶことの楽しさを体感することで、主体的に学修に向かう意欲を持たせることを目的とする。本科目では、平安文学を中心として、古典の有名作品を紹介する。テーマによって作品を読みとくことにより、個々の作品の概要を理解させ、文学史の流れをつかませる。
	日本古典文学の世界2	日本古典文学とはどのような学問であるのかを、学生各自の興味関心に結びつくような形で紹介する。当該分野の入門科目として、教養的な知識を身につけさせると同時に、学ぶことの楽しさを体感することで、主体的に学修に向かう意欲を持たせることを目的とする。本科目では、日本の幽霊・妖怪についての通史的概説を行うと共に、その背景となる日本人の死生観や支配的宗教等につき講ずる。また、怪異研究を具体的に行うための諸文献についても紹介する。怪異について学術的に考えることと、及びその意義につき講ずる。

専門探究科目 (続き)	日本古典文学の世界3	日本古典文学に興味関心を持つ学生に対して、その関心をさらに深めるために必要な学問的トピックスを紹介する。当該分野の基礎科目として、専門的な知識を身につけさせると同時に、学びを追究することのおもしろさを知り、自ら考えることへの意欲を持たせることを目的とする。本科目では、江戸時代の俳人たちの俳文や俳句(発句)から、文章への創作意欲を見ていく。また、作品にふまえられている和漢の多くの先行文学について知り、それによってもたらされる表現の奥ゆきを味わいながら、作者の心情をひもとく。
	日本近代文学の世界1	日本近代文学とはどのような学問であるのかを、学生各自の興味関心に結びつくような形で紹介する。当該分野の入門科目として、教養的な知識を身につけさせると同時に、学ぶことの楽しさを体感することで、主体的に学修に向かう意欲を持たせることを目的とする。本科目では、明治・大正・昭和期にかかれた、幻想的傾向をもつ作品をとりあげる。近代日本を代表する幻想文学者である泉鏡花のほか、谷崎潤一郎、江戸川乱歩、尾崎翠など、幻想文学の豊かな世界を紹介する。
	日本近代文学の世界2	日本近代文学とはどのような学問であるのかを、学生各自の興味関心に結びつくような形で紹介する。当該分野の入門科目として、教養的な知識を身につけさせると同時に、学ぶことの楽しさを体感することで、主体的に学修に向かう意欲を持たせることを目的とする。本科目では、大正～昭和前期の文学に焦点を当て、勃興しつつあったツurisズムと植民地主義のなかで作家たちが中国という他者とのどのように向き合ったか、という観点から、芥川龍之介の文学を掘り下げる。
	日本近代文学の世界3	日本近代文学に興味関心を持つ学生に対して、その関心をさらに深めるために必要な学問的トピックスを紹介する。当該分野の基礎科目として、専門的な知識を身につけさせると同時に、学びを追究することのおもしろさを知り、自ら考えることへの意欲を持たせることを目的とする。本科目では、第二次世界大戦／後の文学に焦点を当て、作家たちが戦争と戦後にどのように対し、表現したかを掘り下げる。
	漢文学の世界	漢文学とはどのような学問であるのかを、学生各自の興味関心に結びつくような形で紹介する。当該分野の入門科目として、教養的な知識を身につけさせると同時に、学ぶことの楽しさを体感することで、主体的に学修に向かう意欲を持たせることを目的とする。本科目では、平安時代から江戸時代、明治時代にかけてつくられた漢文を採りあげてよむことで、漢文学がどのような「世界」を文学としてとりあげているのかについても学びたい。
	英語文学の世界1	アメリカの代表的な文学を、また「英語文学の世界2」ではイギリスの代表的な文学を、それぞれ通時的に概観し、時代ごとの文化背景を学びながら、それぞれの作家の文体や作品の表現の特徴などを、学習する。作品の特徴は、その場面を見ただけで、文体や内容、表現の特徴などからどの時代のどの作家の文章であるかが的確に判別できるレベルまで学習する。
	英語文学の世界2	イギリス文学の代表的な作品を学び、その背景となる文化や使用されている英語表現についての理解を深める。講義によって全般的な知識を得た上で、原作の一部のプリントや映像等を通して該当箇所を鑑賞し、多様なイギリス文学作品の英語表現に注目したレポートを作成する。
	英語学の世界	英語学とはどのような学問であるのかを、学生各自の興味関心に結びつくような形で紹介する。当該分野の入門科目として、教養的な知識を身につけさせると同時に、学ぶことの楽しさを体感することで、主体的に学修に向かう意欲を持たせることを目的とする。このため、英語学の概念や考え方をただ知識として学ぶだけではなく、身近な英語や日本語等の事例にあてはめ、応用する経験を積んでいく。このようなプロセスを通じて国際共通語としての英語に対する理解を深めると共に、他の外国語との比較もしながら世界の諸言語に位置づけて捉えられるようにする。
	英語音声学の世界	英語音声学とはどのような学問であるのかを、学生各自の興味関心に結びつくような形で紹介する。入門科目として教養的な知識を身につけさせると同時に、学ぶ楽しさを体感することで、主体的に学修に向かう意欲を持たせることを目的とする。英語音声の分節的特徴、超分節的特徴を理解し、標準的な英語音声の正しい発音・聴取を目指す。
	異文化コミュニケーションの世界	異文化コミュニケーション論の基本的な理論を、講義ばかりでなくグループワーク等の参加型活動を通じて、自分やクラスメートの体験や考えと照らし合わせながら理解を深めていく。文化とは何かを考えるところから始め、どのようなところに文化の違いが現れるのか、文化の違いがどのような誤解や問題を起こし得るのか、どうすればスムーズなコミュニケーションがはかれるのかといった問いについて共に考え、答えを探していく。

専門探究科目（続き）	児童文学の世界	児童文学とはどのような学問であるのかを、学生各自の興味関心に結びつくような形で紹介する。当該分野の入門科目として、教養的な知識を身につけさせると同時に、学ぶことの楽しさを体感することで、主体的に学修に向かう意欲を持たせることを目的とする。イギリスとアメリカを中心とした英語圏の児童文学について、社会文化的背景をふまえ「児童文学黄金期」として知られる19世紀後半から現代まで約150年間の歴史の変遷を追う。	
	メディアスペイン語の世界	私たちの周りには実に沢山のメディアが存在し、誰もが日々、メディアが提供するコンテンツに触れ続けている。スペインやラテンアメリカの報道メディアが提供するニュースサイト、ソーシャルネットワークサービス、メールなど、さまざまなコンテンツで使われているスペイン語を読み、スペイン語のスキルを高めるだけでなく、グローバルコミュニケーションや異文化に対する理解を促したい。また、自分の意見や主張をスペイン語で発信する力も身に付ける。	
	西洋美術史の世界	西洋美術史の世界とはどのような学問であるのかを、学生各自の興味関心に結びつくような形で紹介する。当該分野の入門科目として、教養的な知識を身につけさせると同時に、学ぶことの楽しさを体感することで、主体的に学修に向かう意欲を持たせることを目的とする。原始時代の彫刻・壁画から現代アートまでの西洋美術の基本的な流れを概観しつつ、それぞれの時代で展開した芸術動向のなかから毎回代表的な作品1～2点に注目し、それらを通じて時代の特徴・特色や、作品と歴史的事象との関わりなどを理解する。	
	日本美術史の世界	日本美術史とはどのような学問であるのかを、学生各自の興味関心に結びつくような形で紹介する。当該分野の入門科目として、教養的な知識を身につけさせると同時に、学ぶことの楽しさを体感することで、主体的に学修に向かう意欲を持たせることを目的とする。飛鳥時代から江戸時代までの絵画史および彫刻史の流れを通観しながら、美術史学の基礎的な研究法を紹介する。時代ごとの基本的な作品の特徴、代表的な作家、作品が生み出された社会環境や人間関係を学ぶことで、日本美術史の大きな流れ、さらに歴史の中で美術が果たした意味を理解する基礎的な理解力を養う。	
	東洋美術史の世界	東洋美術史とはどのような学問であるのかを、学生各自の興味関心に結びつくような形で紹介する。当該分野の入門科目として、教養的な知識を身につけさせると同時に、学ぶことの楽しさを体感することで、主体的に学修に向かう意欲を持たせることを目的とする。東洋文化の中核であり、日本の文化の源流でもある中国の古代・中世の美術を扱う。前半は墓葬美術の作品をスクリーンで鑑賞し、中国古来の伝統文化・思想を踏まえながら、各作品の造形に込められた意味を考察する。後半は仏教美術を鑑賞し、南北朝時代から唐時代の仏像様式を把握するとともに、インド由来の外来宗教である仏教を、中国古来の伝統文化のなかでどのように受容し展開していったかについて、造形の面から考察する。	
	歴史ミュージカルの世界	歴史ミュージカル論とはどのような学問であるのかを、学生各自の興味関心に結びつくような形で紹介する。当該分野の入門科目として、教養的な知識を身につけさせると同時に、学ぶことの楽しさを体感することで、主体的に学修に向かう意欲を持たせることを目的とする。本科目では、歴史を題材としたミュージカル作品のいくつかを取り上げ、歴史に対する興味関心を高めつつ、各作品の背後にある実際の史実を深く学ぶ。舞台上で展開されるストーリーが史実とどのように関係しているかを考えながら、歴史学的な思考力と芸術的な感性を相補的に磨くことを目的とする。	
	日本語の歴史と文化	(概要)『古事記』『日本書紀』『万葉集』が成った8世紀頃から平安時代までの「古代日本語」、鎌倉時代・室町時代の「中世語」、江戸時代から現代までの「近代日本語」という3区分にしたがって、それぞれの時期の日本語がどのようなものであったかについて、できるだけ具体的な文献に基づいて講義する。時間の経過とともに、日本語がどのような変化をして現代日本語に至っているかをつかんでほしい。より具体的には、音声・音韻面での変化、語彙面での変化、文法面での変化、文字・表記面での変化について、どの時期に変化が急速であったかを理解してほしい。 (オムニバス形式／13回) (4 今野真二／7回)：文字・表記・語彙面での変化を中心に、日本語の歴史的变化を講義する。 (68 小野春菜／6回)：音声・音韻・文法面での変化を中心に、日本語の歴史的变化を講義する。	オムニバス
	イギリスの歴史と文化	イギリスの歴史に大きな影響を与えたエリザベス1世、ヴィクトリア女王、エリザベス2世の生涯と当時の歴史的背景を、関連する映画や映像を用いながら解説することで、言語、政治、社会、君主制、衣服、暦と風俗習慣、地域差等の文化的事象を学ぶ。	
	アメリカの歴史と文化	アメリカ合衆国の建国期からベトナム戦争に至る歴史、社会、文化を各回のテーマに沿って概観し、学生自身の思考や視点からの討論、調査と発表を行う授業である。アメリカという国の特殊な建国のあり方と、そこから生じた独特の思想のパターンや、近代における戦争を通してこの資本主義の超大国がどのように発展し、同時に深い矛盾を抱えて来たか、ということ、ディスカッションや資料分析を通して主体的に学び、自分の視点、表現方法によって、記事やエッセイが書けるようになることを目標とする。	

専門探究科目（続き）	スペインの歴史と文化	イベリア半島の歴史と文化を概観する。前半は先史時代から始め、イスラムの侵入、レコンキスタ(国土回復戦争)期イベリア半島の諸王国の歴史を扱う。後半は、レコンキスタ後のスペインの歴史を中心に、西欧諸国や日本との関係を含め現代まで講義する。単に年号や人名を追うのではなく、歴史的イベントの背景にある宗教や文化背景にも目配りをする。自分が最も興味を持った時代やトピックに関して、さまざまな文献を各自が探し、自発的に調査研究することも必要である。	
	ラテンアメリカの歴史と文化	世界史上ユニークな位置を占めるラテンアメリカ地域の多様性に富んだ文化的実態の理解を目指す。人類史上最後のフロンティアであり、独自の文明と社会を育んだアメリカ大陸は、15世紀末の大航海時代以降、西洋の周縁として取り込まれた。とくに、先住民人口の多かった今日のラテンアメリカ地域は、現地社会の急激な変化を強いられる一方で、西洋近代の発展の基盤となる富を産出する地域となった。授業では、アメリカ大陸への人類居住の開始から始まり、19世紀初頭の植民地独立運動にいたるまでの通史をたどりながら、ある程度まで共通したラテンアメリカ基層文化の成立プロセスの理解に努める。	
	日本の歴史と文化1	日本の文化を、美術作品、歴史史料、文学作品から読み解く。日本の歴史を語る際には、様々な資料が用いられる。一般的には、文字で書かれた文献資料(歴史史料)に基づいて、歴史的流れが叙述され、いわゆる教科書的通史が出来上がっている。一方、文化史を語る場合には、作品・モノで語られることが多く、いわゆる、美術(絵画、彫刻)、考古、民俗の作品は、それぞれが有力な物証である。この講義では、文献資料とモノ資料を、時には文学作品も交えて関連付け、日本の歴史として立体的に理解できるように示す。扱う時代範囲は、主に13世紀から14世紀の日本中前前期となる。	
	日本の歴史と文化2	日本の文化を、美術作品、歴史史料、文学作品から読み解く。日本の歴史を語る際には、様々な資料が用いられる。一般的には、文字で書かれた文献資料(歴史史料)に基づいて、歴史的流れが叙述され、いわゆる教科書的通史が出来上がっている。一方、文化史を語る場合には、作品・モノで語られることが多く、いわゆる、美術(絵画、彫刻)、考古、民俗の作品は、それぞれが有力な物証である。この講義では、文献資料とモノ資料を、時には文学作品も交えて関連付け、日本の歴史として立体的に理解できるように示す。扱う時代範囲は、主に14世紀から16世紀の日本中世後期となる。	
	中国の歴史と文化	東洋史に関わる基本事項を学んだ学生を対象に、東洋史の中核となる中国史および中国文化に関わる諸問題を紹介する。歴史的に漢文で書かれた書物を読むことに習熟していた日本人は、明治時代以降、近代的な学問としての歴史学を学ぶことで、世界的に見ても極めて高い水準で東洋史学を発展させた。本授業では中国史に関わる基本文献を取り上げ、先行研究がいかなる問題意識のもとで行われたのかを理解するとともに、漢文を始めとする史料からどのように歴史的事実を復元することができるのかを学ぶ。また、出土資料や石刻史料などを用いた最新の研究動向も紹介する。	
	イスラームの歴史と文化	イスラームという宗教・文化およびイスラーム教徒たちが構成してきた諸社会の歴史的展開を概観し、六信五行をはじめとする基本教義、イスラーム法、聖典クルアーン等イスラームに関する基礎知識について学習する。また、イスラームの伝統的諸学問(イスラーム神学、哲学、神秘主義)を中心にイスラーム思想についても学ぶ。	
	朝鮮・韓国の歴史と文化	本科目は、朝鮮半島の歴史と文化を取り上げ、朝鮮・韓国がいかなる地域であるかを主に文化的な側面から紹介する。授業では、朝鮮・韓国の文化とその歴史的な変遷を追いながら、隣国の文化や歴史に対する知識の蓄積と他者理解を深める。また、日本と韓国の交流の歴史、およびその現状と諸課題を取り上げ、日韓関係において文化が持つ意味を主体的に考える。本科目では、単に知識の吸収にとどまらず、自らが文化交流の主体であるという意識を持ち、文化が持つ力や二国間関係における文化交流の意味を考えることも目的とする。	
	中欧・東欧の歴史と文化	本科目は、ヨーロッパの中心部に位置する中欧・東欧に光を当て、この一帯がいかなる地域であるのか、過去から現在に至るまでの変遷を追いながら理解を深める。特にこの地域でこれまで展開されてきた人々の営みと文化に注目し、国ごと都市ごとの文化と現在の街並みの様子にも目を向ける。本科目では、講義とプレゼンテーションを通じて、中欧の全体像、国ごとの歴史、絵画や音楽などの芸術文化、食や生活といった日常文化に触れ、西欧や地中海諸国とは異なる中欧・東欧固有の特質と文化を学ぶ。これにより、異文化に対する関心と想像力を深め、他者理解に対する基本的な姿勢を養う。	
	パフォーミング・アーツa(英語)	各時代の文化的・社会的背景、および舞台芸術史上、それぞれに重要な意味を持つ戯曲を選び、上演実践に向けて英語で読み英語力の向上を図りながら、映像資料等も活用して具体的に作品を知る。同時に、舞台芸術を考える上で重要な諸要素(言葉、身体、空間、時間、演出等)をめぐる基礎的な考え方についての講義を挟みつつ、舞台芸術が現代に生きる私たち自身に持つ意味について考える。	
	パフォーミング・アーツb(英語)	各時代の文化的・社会的背景、および舞台芸術史上、それぞれに重要な意味を持つ戯曲を選び、英語で読み英語力の向上を図りながら、実際の上演に向けた実践練習を行う。同時に、舞台芸術を考える上で重要な諸要素(言葉、身体、空間、時間、演出等)について自ら主体的に試行錯誤を重ねつつ、他者との対話やコラボレーションを通じて具現化する上演へのプロセスを全員で体験する。	

専門探究科目（続き）	パフォーミング・アーツ(スペイン語)	特に演劇を中心とするパフォーミング・アーツを身体に注目しながら実践する。スペイン語戯曲の台詞を記憶し、パフォーマンスの一環として身体で表現することにも取り組む。台詞の発話だけでなく、表情、声の調子、身振りなどを通して、スペイン語圏の文化を身体で感じ、全身で表現する。舞台芸術の表現手段を様々な角度から身に付けることで、高度なコミュニケーションができるようになるだけでなく、戯曲のテキストを読み込み、登場人物の深い感情をどのように身体によるパフォーマンスで表現できるかということにも取り組む。	
	対照言語学1(日英)	本科目は、日本語と英語の対照研究を扱う。両言語の音声・音韻、語彙や文法等を比較しながら、日本語と英語の類似点や相違点を考え、見つけ、理解する機会を提供する。諸言語の中の一つとしての日本語の特徴を確認するとともに、英語の理解も深めていく。日本語母語話者にとっては英語の語順や発音が、英語母語話者にとっては日本語のひらがな・カタカナ・漢字が組み合わされた表記が、難しい点としてよく挙げられる。日英両言語のどのような点が異なり、なぜ難しいと感じるのか、同異点を探っていく。	隔年
	対照言語学2(日西)	本科目は、日本語とスペイン語の対照研究を扱う。両言語の音声・音韻、語彙や文法等を比較しながら、日本語とスペイン語の類似点や相違点を考え、見つけ、理解する機会を提供する。諸言語の中の一つとしての日本語の特徴を確認するとともに、スペイン語の理解も深めていく。スペイン語は日本語母語話者にとって学びやすい言語であると言われることがあるが、どのような面がそのような印象を与えるのかを考える。スペイン語を学ぶ日本語話者にとって、また日本語を学ぶスペイン語話者にとって、学習のしやすい点、困難な点を探る。	隔年
	対照言語学3(日中)	本科目は、日本語と中国語の対照研究を扱う。両言語の音声・音韻、語彙や文法等を比較しながら、日本語と中国語の類似点や相違点を考え、見つけ、理解する機会を提供する。諸言語の中の一つとしての日本語の特徴を確認するとともに、中国語の理解も深めていく。日本語と中国語は、漢字を多く使用しているために、お互いになじみやすい言語だと思われる。確かに、漢字を通じてコミュニケーションがある程度取れるが、しかし、全く違う意味になってしまうこともある。日中両言語を比較しながら、相違に焦点を当て、同異点を探っていく。	隔年
	対照言語学4(日韓)	本科目は、日本語と韓国朝鮮語の対照研究を扱う。両言語の音声・音韻、語彙や文法等を比較しながら、日本語と韓国朝鮮語の類似点や相違点を考え、見つけ、理解する機会を提供する。諸言語の中の一つとしての日本語の特徴を確認するとともに、韓国朝鮮語の理解も深めていく。韓国人にとって日本語は比較的「易しい外国語」であると同様に、日本語母語話者にとって韓国朝鮮語は学習(習得)が比較的容易な外国語であると考えられている。それは日本語と韓国朝鮮語が「似ている」からである。どのように似ていて、どのように異なるのか、日韓両言語の同異点を探っていく。	隔年
	短期研修1(英語圏)	英語圏の協定校で行う海外語学研修とその事前研修の授業である。現地での国際交流を通して、視野を広げ、異文化への理解を深めることを目標にする。日本での事前研修の後、研修先で現地教員による授業に参加し、アジア・南米・ヨーロッパ等の学生たちと共に英語運用能力を磨き、さらにクラス行事や課外活動としてその地の文化の諸相に触れることによって、これまで学んできた知識を実践的に深める。帰国後は学生自身の体験を元に振り返りを行い、レポートを提出する。	
	短期研修2(スペイン語圏)	スペイン語圏の大学や語学学校等で短期の語学研修に参加する。スペイン語圏でのスペイン語学習及び生活体験を通じて、スペイン語力の向上と異文化理解の促進を目的としている。現地到着後、学校主催のレベルチェック試験を受け、レベル別にクラス分けが行われる。スペイン語学習が中心となり、積極的なコミュニケーションを取ることが求められる。さまざまな国や地域の学生との交流を通じて、異文化理解のみならず、日本の文化についても見つめなおす機会が得られる。修了試験を受け、講座の修了証を受け取ることが必須。	
	短期研修3(文化史・国外)	短期研修3は原則として国外で宿泊を伴う研修旅行を催行し、他国との文化的な相違点などを理解する。科目担当者が決めたテーマに沿って研修先を選び、事前に講義や課題に取り組んで知識を得た上で、歴史・美術史・思想・宗教と関わる史跡や博物館・美術館などを訪問し、一次史料や、その地域独自の文化に直接触れるなど、座学だけでは得られない体験を通じて文化史への理解を深めることを目的とする。研修後に冊子や動画などを作成することにより、旅行の成果を発信する能力を身につける。	共同
	短期研修4(文化史・国内)	短期研修4は原則として国内で宿泊を伴う研修旅行を催行し、日本の文化をより深く理解することを目的とする。科目担当者が決めたテーマに沿って研修先を選び、事前に講義や課題に取り組んで知識を得た上で、歴史・美術史・思想・宗教と関わる史跡や博物館・美術館などを訪問し、一次史料や、その地域独自の文化に直接触れるなど、座学だけでは得られない体験を通じて文化史への理解を深める。研修後に冊子や動画などを作成することにより、旅行の成果を発信する能力を身につける。	共同
	短期研修5(韓国)	韓国の協定校で行う海外文化・語学研修とその事前研修の授業である。現地での国際交流を通して、視野を広げ、異文化への理解を深めることを目標にする。日本での事前研修の後、研修先で現地教員による授業に参加し、英語や韓国語で行われる韓国文化や比較文化、韓国語の授業を通して、国際感覚を磨き、さらにクラス行事などを通してその地の文化の諸相に触れることによって、これまで学んできた知識を実践的に深める。帰国後は学生自身の体験を元に振り返りを行い、レポートを提出する。	共同

専門探究科目（続き）	日本語学概論1	(概要)日本語学がどのような学であるかを概説する。概論1では、おもに音声・音韻、文字・表記の分野について採りあげる。日本語学は日本語を対象とした言語学であるので、言語(日本語)に対し興味をもち、それを言語として客観的に分析することのおもしろさを実感してほしい。授業での課題を通して、身のまわりの日本語をさまざまな観点から実際に観察し、分析するスキルの修得をうながしたい。必要に応じて日本語の歴史的な展開についても話題にしていく。 (オムニバス形式/13回) (4 今野真二/7回) 文字・表記について取り上げ、日本語の歴史的な展開について講義する。 (68 小野春菜/6回) 音声・音韻について取り上げ、言語を客観的に分析することの面白さを伝える。	オムニバス
	日本語学概論2	日本語学がどのような学であるかを概説する。概論2では、おもに語彙・文法の分野について採りあげる。日本語学は日本語を対象とした言語学であるので、言語(日本語)に対し興味をもち、それを言語として客観的に分析することのおもしろさを実感してほしい。授業と課題を通して、身のまわりの日本語を観察し分析するスキルを修得し、分析の際に必要な用語を理解し使用できるようになることを目的とする。	
	日本古典文学概論1	日本古典文学とは、江戸時代の終わりまでの作品を指す。1300年以上の範囲を一括りにすることは不可能であるため、大きく4つの時代に分けた上で、それぞれの時代における文学史の流れを把握することを目的とする。この科目では、『古事記』や『万葉集』に代表される上代文学、『古今集』や『源氏物語』に代表される中古文学を概観する。多種多様な作者や作品を学ぶことを通して、古典文学の奥深さを知り、古典文学に対する興味を喚起することを目的とする。	
	日本古典文学概論2	(概要)日本古典文学とは、江戸時代の終わりまでの作品を指す。1300年以上の範囲を一括りにすることは不可能であるため、大きく4つの時代に分けた上で、それぞれの時代における文学史の流れを把握することを目的とする。この科目では、『平家物語』や『新古今集』に代表される中世文学、『好色一代男』や『曾根崎心中』に代表される近世文学を概観する。多種多様な作者や作品を学ぶことを通して、古典文学の奥深さを知り、古典文学に対する興味を喚起することを目的とする。 (オムニバス形式/13回) (20 姫野敦子/6回) 中世文学について講義する。 (24 佐伯孝弘/7回) 近世文学について講義する。	オムニバス
	日本近代文学概論1	日本近代文学(明治維新以降の言文一致体で書かれた文学作品)のうち、主に明治文学と大正文学の重要な文学史用語・作家・文学作品、文学史の流れを学ぶ。明治初期の戯作文学や翻訳小説・政治小説、浪漫主義と自然主義の展開、漱石・鴎外、耽美派・白樺派へと至る流れ、および俳句・短歌・近代詩の動向などを紹介する。	
	日本近代文学概論2	日本近代文学(明治維新以降の言文一致体で書かれた文学作品)のうち、主に昭和文学と平成文学の重要な文学史用語・作家・文学作品、文学史の流れを学ぶ。プロレタリア文学とモダニズム、第二次大戦時の文学状況、戦後文学、第三の新人・内向の世代へと至る流れ、および平成文学・女性文学の動向などを紹介する。	
	現代の日本語	新聞、雑誌、コミックなど、紙に印刷された日本語、SNSなどで使われている「打ちことば」としての日本語、テレビなどで使われている「はなしことば」など、ひろく「現代の日本語」を採りあげて、今、どのような日本語が使われているのかを多角的に分析、考察する。履修者には課題を通して、実際に今使われている日本語の観察、分析を行なってもらう。「かきことば」は思考や感情の「器」でもあるので、「かきことば」にどのように情報がもりこまれているかということについてもあわせて考えてみたい。	
	日本近代文学とジェンダー	日本近代文学(明治維新以降の言文一致体で書かれた文学作品)を、ジェンダーの視点から掘り下げる授業である。女性によって書かれた作品に焦点を当て、女子教育や女性役割の変化、LGBTをめぐる言説の変化など、ジェンダー・セクシュアリティに関する概念や歴史、理論の知見とともに、明治以降の女性による文学の流れや、主要作品などを紹介する。それらを読むことを通じて他者の思考に触れ、学生達の女性としての自己理解をも深めて、新たな思考の地平を開く。	
	日本近代文学と社会	日本近代文学(明治維新以降の言文一致体で書かれた文学作品)を、歴史・社会の流れとの関連で掘り下げる授業である。主に大正期から昭和期の作品を取り上げ、身体と病、食と健康、社会格差と貧困、植民地と差別、ナショナリズムと戦争など、歴史的・社会的状況に呼応して書かれた作品を紹介し、読み解く。それらを読むことを通じて他者の思考に触れ、学生達の自己理解をも深めて、新たな思考の地平を開く。	
日本語学探究	日本語学の学びを深めるために、さまざまな学問的トピックスを扱い、資料の分析方法や多角的な思考方法を紹介する。当該分野の応用科目として、卒業論文に直接結びつく専門的な知識を身につけさせると同時に、問題点を理解・整理し、自分で解決するための手段を取得させることを目的とする。本科目では、主に辞書、語彙を素材として観察、分析を行なうスキルを修得することをめざす。具体的な文献からどうやって、日本語にかかわる知見を得るかという、観察・分析・考察の「手法」を身につけてほしい。		

専門探究科目(続き)	日本古典文学探究	日本古典文学の学びを深めるために、さまざまな学問的トピックスを扱い、資料の分析方法や多角的な思考方法を紹介する。当該分野の応用科目として、卒業論文に直接結びつく専門的な知識を身につけさせると同時に、問題点を理解・整理し、自分で解決するための手段を取得させることを目的とする。本科目では、平安時代の日記文学をとりあげ、当時の結婚制度、和歌が果たしていた役割など、文化的背景について考察し、作品の読みの多様性について考えていく。	
	日本近代文学探究	日本近代文学の学びを深めるために、さまざまな学問的トピックスを扱い、資料の分析方法や多角的な思考方法を紹介する。当該分野の応用科目として、卒業論文に直接結びつく専門的な知識を身につけさせると同時に、問題点を理解・整理し、自分で解決するための手段を取得させることを目的とする。本科目では、関東大震災後のモダニズム文学に焦点を当て、関東大震災が文学にもたらしたもの、そして新しく生まれた文学思潮と方法を掘り下げる。	
	比較文学研究	日本近代文学に興味関心を持つ学生に対して、その関心をさらに深めるために必要な学問的トピックスを紹介する。当該分野の基礎科目として、専門的な知識を身につけさせると同時に、学びを追究することのおもしろさを知り、自ら考えることへの意欲を持たせることを目的とする。本科目では、日本文学と英米文学との関係に焦点を当て、その影響関係について掘り下げる。	
	日本芸能文化1	日本の伝統芸能を紹介し、自国の文化に対する理解を深めさせることを目的とする。本科目では、和楽器を扱う。日本の音楽史を解説するとともに、実際の演奏や動画を鑑賞することを通して、知識を身につけさせる。さらに、実際に楽器を演奏する体験をしてもらうことで、実践的に理解を深めさせる。また、日本の現代文化との関わり方を紹介し、日本人の新しいものを取り入れる力や伝統を守る力、折衷して新しいものを生み出す力に考察を及ぼす。	
	日本芸能文化2	日本の伝統芸能を紹介し、自国の文化に対する理解を深めさせることを目的とする。本科目では、舞台芸術に関する芸能を扱う。江戸時代に成立した歌舞伎・文楽、室町時代に成立した能・狂言を中心とし、その成り立ちや歴史を解説するとともに、動画などを鑑賞することを通して、知識を身につけさせる。また、日本の現代文化との関わり方を紹介し、日本人の新しいものを取り入れる力や伝統を守る力、折衷して新しいものを生み出す力に考察を及ぼす。	
	現代日本サブカルチャー分析	(概要)現代日本のサブカルチャー作品を、日本語学・日本文学の観点から読み解く。 (オムニバス形式/13回) (13 藤井由紀子・20 姫野敦子・9 鈴木直子・10 田和真紀子・4 今野真二/3回)(共同)導入とまとめを行う。 (13 藤井由紀子/2回) 現代日本のサブカルチャー作品を、日本古典文学の観点から読み解く。 (20 姫野敦子/2回) 現代日本のサブカルチャー作品を、日本古典文学の観点から読み解く。 (9 鈴木直子/2回) 現代日本のサブカルチャー作品を、日本近代文学の観点から読み解く。 (10 田和真紀子/2回) 現代日本のサブカルチャー作品を、日本語学の観点から読み解く。 (4 今野真二/2回) 現代日本のサブカルチャー作品を、日本語学の観点から読み解く。	オムニバス・共同(一部)
	中級くずし字ワークショップ	初級くずし字ワークショップの履修者がさらにスキルアップするための科目として設定する。初級では室町時代に手書きされた文献を使って解読スキルを修得したので、中級では江戸時代に出版された版本や写本など、幅広い文献を素材として解読スキルを修得する。場合によっては、かるたや絵入り本など、通常の文献以外の素材を使うこともある。正確にはやく解読できるようにトレーニングする。グループワークなども適宜行なうことがある。	
	上級くずし字ワークショップ	中級くずし字ワークショップの履修者がさらにスキルアップするための科目として設定する。中級では江戸時代に出版された版本や写本など、幅広い文献を素材として解読スキルを修得しているが、さらに解読の精度、スピードをあげるために、中級よりも幅広く解読対象をひろげる。また、漢字の行書体、可能であれば草書体の読解も視野に入れ、漢字が多く使用されている文献の読解も行なう。かるた、屏風など通常の文献以外の素材もひろく採りあげることにはしたい。	
	創作ワークショップ1(俳句)	俳句の基本(音数、季語、切れ字など)を学び、実際に俳句を創作する。同じ季語(席題)での句会や大学構内での吟行を実施し、同じ場や空間をともにしながら、俳句を作り鑑賞しあいつつ、実践的に俳句を学ぶ。こうした実践的な学びを重ねるなかで俳句の理解を深めるとともに、各自の作品の推敲や名句鑑賞に取り組み、俳句の鑑賞力も高め、実作と鑑賞両面から俳句を学ぶ。	

専門探究科目（続き）	創作ワークショップ2(短歌)	短歌の基本を学び、実際に短歌を創作する。大学構内での吟行など歌会形式の授業を実施し、履修者が同じ場や空間をともにしながら、短歌を作り鑑賞しあいつつ、実践的に短歌を学び、実践的な学びを重ねるなかで短歌の理解を深めるとともに、各自の作品の推敲や名作鑑賞に取り組み、短歌の鑑賞力も高め、実作と鑑賞両面から短歌を総合的に学ぶ。可能な範囲で短歌の歴史についても学ぶ。履修者がお互いに批評しあうかたちのグループワークを行なうこともある。	
	創作ワークショップ3(小説)	小説の基本を学び、実際に小説を創作する。作品の主題、キャラクターの作り方、作品の時間的・空間的な構造と展開のさせ方、言葉のリズムとバランス、情景描写と心理描写の仕方などを、古典的な作品から学びつつ、実際に創作ノートを作って実作し、推敲を重ねる。履修者がお互いに批評しあうかたちのグループワークを行ない、創作し鑑賞し合う楽しみを味わう。	
	創作ワークショップ4(朗読)	朗読の基本を学び、実際に文学作品を朗読する。声で表現するための技術を学ぶだけでなく、朗読する対象作品の主題、内容や構造、作中人物の性格や場面の性格を分析し、どのような朗読が相応しいかプランを考えて練習する。履修者は単独で、あるいは協力して朗読を行い、お互いに発表・鑑賞し合う楽しみを味わう。	
	日本文学踏査	日本文学に描かれた場所を実際に訪れて、その作品世界を再発見することを目的とする。本科目では、鎌倉、江戸、東京などを舞台とする中世文学、近世文学、近代文学、あるいは、和歌にとっての歌枕をとりあげ、その作品の具体的表現を精読し、作品の時代背景を講じたうえで、当地を実際に踏査する。作品に描かれた風景がどのように変化しているか、あるいは変化していないかを実際に見ることによって、現代と作品との関わりに考察を及ぼす。	共同
	書道1	中学校学習指導要領国語科の「我が国の言語文化に関する事項」に示された「書写」の内容、指導の在り方、評価について、理論と実技の両面から理解を深めさせる。情報化時代における手で文字を書くことの意義を考えながら、実技を通して技能の向上を図る。また、指導法についての知識を広げさせ、国語科教員として授業を計画、実施、評価、改善が行うことができる力を身につけさせる。	
	書道2	中学校学習指導要領国語科の「我が国の言語文化に関する事項」に示された「書写」の内容、指導の在り方、評価について理論と実技(行書を中心とする)の両面から理解を深めさせる。実用的な書式を扱うとともに、生活や社会における手書きの価値について理解を深めさせる。また、国語科教員として授業を計画、実施、評価、改善が行うことができる力を身につけさせる。	
	日本語表現法1	社会人として通用する日本語表現、人前で話す力を身につけるための授業。アナウンサーが実際にテレビ局内で行なっている日本語表現のトレーニングや理論を使用し授業を進めていく。 コミュニケーション能力は社会人になる上で必須スキルであることは間違いない。普段無意識で言葉にしている日本語を「的確に」「論理的に」「豊かに」使いこなすことで日本人が見落としがちな「対面コミュニケーション」の重要性を再認する。さらに日本語表現の向上を通じて学生生活、そして就職活動において必要とされる「自己表現」のスキルアップを目的とする。実際に声に出し、言葉を考え、「公の場で喋る」ことに理解をさらに深めて経験値を重ねていく。	
	日本語表現法2	書きことばの日本語表現法を学ぶ。本科目では文章を書く／書かせるために必要な知識として、大学生としての学術的文章の書き方、ビジネスメールの書き方や中学校・高等学校での文章作成の指導方法など、「書く／書かせる」ことについての知識を身に付け、実践する。授業では、大学生としての学術的文章の書き方の習得を基盤にしつつ、中学・高校の国語科教員として、さまざまなメディアで「書く／書かせる」ことについて考える。	
	漢文学1	漢文作品を題材として、文法や語彙などを学ぶ。漢文作品を読解するための基礎的な技術を修得することを目的とする。また、これらの漢文作品に対して、江戸・明治時代の日本人が記した注釈を読解し、漢文が、今日にいたる日本社会において、どのように受容されたかについて考えてゆく。中国古典文学の歴史、及び日本人による中国古典の受容について基礎的な知識を身につけさせる。	
	漢文学2	漢詩作品を題材として、文法や語彙などを学ぶ。漢詩作品を読解するための基礎的な技術を修得することを目的とする。また、これらの漢詩作品に対して、江戸・明治時代の日本人が記した注釈を読解し、漢詩が、今日にいたる日本社会において、どのように受容されたかについて考えてゆく。中国古典文学の歴史、及び日本人による中国古典の受容について基礎的な知識を身につけさせる。	
プレゼンテーションa	声と身体、メディアを通じて英語を操り、現代社会の中に問いを見出して他人に伝える方法を学ぶ。同時に、他者の英語に触れることによって、他者理解する態度も身につける。半期に4回のプレゼン発表機会を設け、プレゼン後にクラスメートがコメントをする時間を設け、発表成果をクラス全体の議論のなかで確認する。		

専門探究科目（続き）	プレゼンテーションb	声と身体、メディアを通じて英語を操り、現代社会の中に関心を見出し、他人に伝える方法を学ぶ。同時に、他者の英語に触れることによって、他者理解する態度も身につける。半期に4回のプレゼン発表機会を設け、プレゼン後にクラスメートがコメントをする時間を設け、発表成果をクラス全体の議論のなかで確認する。「プレゼンテーションa」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。
	対話表現文法a	様々な文法形式の形態・意味・機能を理解・特定できるようにし、それを筆記および口頭の練習において適切に使用できるよう学ぶ。学習活動としては、講義の他に個人・ペア・グループ活動を行う。原則として二回の授業で一つの文法項目を扱い、また小テストに加え中間・期末試験を行うことで知識やスキルの習得を促す。
	対話表現文法b	様々な文法形式の形態・意味・機能を理解・特定できるようにし、それを筆記および口頭の練習において適切に使用できるよう学ぶ。学習活動としては、講義の他に個人・ペア・グループ活動を行う。原則として二回の授業で一つの文法項目を扱い、また小テストに加え中間・期末試験を行うことで知識やスキルの習得を促す。「対話表現文法a」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。
	英語アカデミック・アドバンスト	毎回設定されたトピックに関連する英文を読んだ上で、そこから問いを見出し、グループディスカッションおよびプレゼンテーションを通じて英語による理解力を発展させる。英字新聞記事のみならず、短編小説や著名人のインタビュー、評論文にいたるまで、多様なスタイルの英文をトピックとして設定する。
	コミュニケーション・スキルズ I a	CEFR B1～B2レベルで、科学技術・社会科学・文化研究の3つのテーマをそれぞれクラス別に割り当て、教員一学生、および学生間でリーディングと質疑応答を経たライティングを重ねることで、英語力の向上を図る。興味のある分野のクラスを組み合わせることで、多様な英文を読みこなすことができるようにする。
	コミュニケーション・スキルズ I b	CEFR B1～B2レベルで、科学技術・社会科学・文化研究の3つのテーマをそれぞれクラス別に割り当て、教員一学生、および学生間でリーディングと質疑応答を経たライティングを重ねることで、英語力の向上を図る。興味のある分野のクラスを組み合わせることで、多様な英文を読みこなすことができるようにする。「コミュニケーション・スキルズIa」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。
	コミュニケーション・スキルズ II a	CEFR B2～C1レベルの英文教材を使い、科学技術・社会科学・文化研究の3つのテーマをそれぞれクラス別に割り当て、教員一学生、および学生間でリーディングと質疑応答を経たライティングを重ねることで、さらに英語力の向上を図る。Cambridge English Test 受験を目標とし、社会で活かせる英語力を鍛える資格試験対策なども視野に入れる。
	コミュニケーション・スキルズ II b	CEFR B2～C1レベルの英文教材を使い、科学技術・社会科学・文化研究の3つのテーマをそれぞれクラス別に割り当て、教員一学生、および学生間でリーディングと質疑応答を経たライティングを重ねることで、さらに英語力の向上を図る。Cambridge English Test 受験を目標とし、社会で活かせる英語力を鍛える資格試験対策なども視野に入れる。「コミュニケーション・スキルズIIa」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。
	時事英語自主学修	オンラインの英語学修動画の視聴を通じて、リーディング能力の向上、リスニング能力の向上、ライティング能力の向上、ボキャブラリーの増強をめざす。映画の予告編やテレビ・ラジオ番組など多様なメディア英語に触れる。自分の英語力やニーズに応じて学習計画を立て、各自が学習を進めていく。
	発音クリニック	日本語と英語の音素表記の差によって生じる音の聞こえ方、発話の仕方の混乱を、原理について学習することで整理し、英語の発話における音の認識と再現が正確にできるようにすることを目標とする。ローマ字の感覚や、強形の発音学習に慣れた状況から脱し、早い対話やまとまった英文の中での弱形の使われ方や、単語間の連結や同化に慣れ、実践的トレーニングを通して、自然で聴きやすい英語の発話ができるようにする。受講者は自己分析シートを書きながら、各自の課題を発見し、伸びを記録していく。
留学準備スタートアップ講座	英語で行う授業である。国際的な大学で学ぶ際に必要となる「恐れずに発言する」態度を、心理的な緊張を取り除いた教室環境をつくることで涵養し、誰もが積極的に手を上げて英語でまとまったエピソードを語れることを目標にする。また、語彙力を伸ばす学習活動と、アカデミックな話題でのテーマトークでスピーキングの力を伸ばし、個別の英作文指導で、自学しにくいライティングの力を伸ばす。資格試験対策など、留学準備のための自学についても助言をし、サポートする。	
英語通訳演習	日英両語での聞き取り・理解、語彙、表現力、日英・英日転換と訳出能力等、逐次通訳に必要とされるあらゆる要素技術を体系的・段階的に鍛える。また、身の回りの問題や社会課題について日英両語で語彙と知識の蓄積を行う。通訳という職業および通訳に必要とされる文化的背景にや情報の収集・理解方法についても学ぶ。	

専門探究科目（続き）	英語翻訳演習1a	日本語から英語への翻訳の初歩を学ぶ。映画字幕、企業の発表するサイト上の説明文などの商業翻訳、新聞のエッセイ記事、説明書など、さまざまなスタイルの英文の特徴を理解し、それを自らの書く英文にも適用・応用しながら、英文を書く力および英文で表現する力を身につけていく。
	英語翻訳演習1b	日本語から英語への翻訳の初歩を学ぶ。映画字幕、企業の発表するサイト上の説明文などの商業翻訳、新聞のエッセイ記事、説明書など、さまざまなスタイルの英文の特徴を理解し、それを自らの書く英文にも適用・応用しながら、英文を書く力および英文で表現する力を身につけていく。「英語翻訳演習1a」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。
	英語翻訳演習2a	英語で書かれた小説(主にヤング・アダルト・ノベルズ、児童書、絵本)を用い、実践を通して翻訳の力を養う。翻訳する際、物語世界・登場人物像の理解から、作品の舞台となった国や地域の歴史・風俗、作家の生い立ち等を調べることで、さらに(受け手である)現代の日本の読者についての理解も深める。「英語翻訳演習2a」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。
	英語翻訳演習2b	英語で書かれた小説(主にヤング・アダルト・ノベルズ、児童書、絵本)を用い、実践を通して翻訳の力を養う。翻訳する際、物語世界・登場人物像の理解から、作品の舞台となった国や地域の歴史・風俗、作家の生い立ち等を調べることで、さらに(受け手である)現代の日本の読者についての理解も深める。「英語翻訳演習2a」の学修成果を踏まえ、発展的な内容を扱う。
	児童文学演習	英語圏の児童文学作品を1冊取り上げ、英語で主要箇所を読み解き、関連映像も適宜鑑賞して原作と比較考察する。学生が代表的な児童文学作品について背景となった歴史、社会、文化などについて知識を深めると同時に、英語で読み解く力も身につけることを目的とする。学生は毎回事前に配布される教材をもとに各自で作品を英語で読んで準備をしておき、授業時には自分が読解してきた箇所について発表したり、他の学生達と意見を交換したりする。
	談話分析演習	談話・テキスト研究の実践として、自ら選んだトピックについてリサーチをおこなう。談話・テキスト研究の代表的な手法・方法論を確認しながら、英語または英語と日本語の談話を分析する。リサーチクエスチョンの設定や、データ収集、先行研究の比較対照などの準備プロセスを経て、実際の量的・質的分析がおこなえるようにする。グループワークや発表をおこないながら自らの問いかけや研究を振り返り改善していきながら、リサーチペーパーとしてまとめられるようにする。
	談話分析	私たちが日頃実際に使っていることばを、断片的にはなく、まとまりと目的を持った談話・テキストとしてとらえ分析できるようにする。同時にことばを抽象的な言語記号としてではなく、特定の場面・状況や参与者に関わる言語使用として考えていく。このため、談話・テキスト研究の代表的な方法論やその背景にある考え方を、教科書や研究の実例を通して学び、自らのリサーチに利用できるようにする。また学んだ研究方法や手順を用い、実際に英語や日本語の談話を分析するタスクをおこなう。
	英語史	英語は1500年の歴史の中で、他民族の侵略によって、驚くほど多くの変化を余儀なくされてきた言語で、現在多様な種類の英語が世界に溢れている。「なぜislandのsは発音しないのか」「なぜfootの複数形はfeetなのか？」などの不可解さは、歴史を学ぶとその理由がわかる。本講義では英語という言語が辿ってきた1500年の歴史を詳しく学ぶ。現代英語とのリンクを重視しながら、英語に起きた様々な言語変化と歴史的背景を学び、英語という言語への知識と感性を深める。
	英語圏文学	イギリス文学やアメリカ文学ばかりが英語で書かれた文学ではない。インド、オーストラリア、南アフリカや西インド諸島で書かれた英語文学など、英語が日常的に使われている国や地域には英語による文学が存在する。こうした多様な英語文学の諸相について、具体的な作品を通じて考察しながら、文化の多様性や歴史の重みにふれる。
	英語圏比較文化	英語圏の歴史、社会、文化について、基本的内容を学ぶとともに、世界の文化の多様性に目を向け、異文化コミュニケーションの現状と課題を考察する。多様な文化的背景を持った人々(主として留学生)との交流を通して、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する。
国際文化交流	日本文化の紹介を海外の人々に向かって英語で効果的に行えるようになることをめざす。具体的には、例えば歌舞伎などの伝統芸能文化や、アニメ等の現代文化における表現形式を取り上げ、それらの表現形式のさまざまな特徴や、背景にある考え方・感性や生活様式等について、英語でどのように表現したらよく理解されるかを検討する。同時に、自文化やそこにおける表現形式について、英語のような外国語で伝えることの可能性や課題についても考える。	

専門探究科目（続き）	国際文化交流演習	日本の伝統文化や現代文化について、英語で説明文や簡単な評論文を書いたり、プレゼンテーションをしたりできるようになることをめざす。具体的には、例えば歌舞伎などの伝統文化やアニメなどの現代文化における表現形式を取り上げ、それについて説明や評論をすることを通じて、その特徴に自覚的になるとともに、それを外から眺めることで自文化に対する客観的・反省的な態度も養う。また視覚・聴覚芸術や総合芸術について、言語としてテキストに表現するための言葉の技法についても考える。
	スペイン語Ⅲ(文法)	1年次に学んだ文法事項を復習した後、接続法の学習の前提となる複文、名詞節、形容詞節、副詞節の概念を学び、接続法の学習を始める。動詞の直説法の使い方をさらに定着させ、命令法・接続法の語形および最も基本的な用法を学ぶ。あわせて直説法の時制と接続法の時制の対応関係についても理解する。新しい文法事項が出てくると例文と練習問題によって受講生の理解と定着を図る。随時、学習者の母語である日本語、既習外国語である英語との共通点、相違点に注意を促す。発音も重視する。1年次と合わせて基礎語彙約1,600語を覚える。
	スペイン語Ⅲ(会話)	中級レベルのスペイン語会話。1年次で習得した言語的、語彙的、文化的要素をさらに強化し、スペイン語でのコミュニケーション能力を向上させるために様々なアクティビティを用いた訓練をおこなう。コミュニケーション能力向上の目的を達成するために、スペインやラテンアメリカ諸国の文化、習慣、スポーツ、映画、文学、食べ物などを題材として練習する。会話を中心としながらも、読解、聴解、作文、口頭表現の4技能に取り組む。
	スペイン語Ⅲ(作文)	スペイン語の文章表現を練習する科目。1年次の作文科目の続きとしてスペイン語の文章表現力を引き続き向上させることを目的とする。その目的のため、多様なタイプの文章の特徴を学ぶ。その他、語彙の強化、他の科目で学んだ文法構造の定着のための練習にも重点が置かれる。原則としてネイティブスピーカーの教員が担当し、学生が提出した作文課題にコメントをつけて返却することで、個々の受講生が自分の犯しやすい誤りに気づき、より正確で達意のスペイン語の文章が書けるようになることを目指す。
	Gramática y lectura Ⅲ-1	入学時にすでに一定以上のスペイン語の運用力を持っている学生のためのクラス。個々の受講者のレベルに合わせ、その受講者がすでに持っているスペイン語の知識を利用しながら、接続法の用法も含めてスペイン語の初級文法のすべての事項の学習を完成させ、並行して語彙力も増強しつつ、やや難易度の高い文章を用いた読解練習をする。同時にスペイン語を正しい日本語に訳す力も重視し、日本語とスペイン語の発想の違いにも注意を向ける。
	Gramática y lectura Ⅲ-2	入学時にすでに一定以上のスペイン語の運用力を持っている学生のためのクラス。個々の受講者のレベルに合わせ、その受講者がすでに持っているスペイン語の知識を利用しながら、接続法の用法も含めてスペイン語の初級文法のすべての事項の学習を完成させ、並行して語彙力も増強しつつ、やや難易度の高い文章を用いた読解練習をする。同時にスペイン語を正しい日本語に訳す力も重視し、日本語とスペイン語の発想の違いにも注意を向ける。
	Comunicación oral Ⅲ-1	入学時にすでに一定以上のスペイン語の運用力を持っている学生のためのクラス。中上級レベルのコミュニケーション4技能の統合的科目。聴解・読解、および口頭表現を通してスペイン語の学習と練習をおこなう。受講者がB1以上のレベルに達するように、さまざまなタイプの文章や多様な練習問題を用いる。特に重視するのは読解と口頭表現、対話である。DELEの試験で使われる形式のタスクを多くおこなう。受講生がすでに持っているコミュニケーション能力をさらに発展させ、理解力を高めることを目標とする。
	Comunicación oral Ⅲ-2	入学時にすでに一定以上のスペイン語の運用力を持っている学生のためのクラス。中上級レベルのコミュニケーション4技能の統合的科目。聴解・読解、および口頭表現を通してスペイン語の学習と練習をおこなう。受講者がB1以上のレベルに達するように、さまざまなタイプの文章や多様な練習問題を用いる。特に重視するのは読解と口頭表現、対話である。DELEの試験で使われる形式のタスクを多くおこなう。受講生がすでに持っているコミュニケーション能力をさらに発展させ、理解力を高めることを目標とする。
	スペイン語Ⅳ(文法)	これまでに学んだ文法事項を復習した後、接続法の用法をじっくり学ぶ。動詞の直説法・命令法・接続法の各時制が適切に使え、事実と反する仮定などの高度な表現もできるようになる。新しい文法事項が出てくると例文と練習問題によって受講生の理解と定着を図る。随時、学習者の母語である日本語、既習外国語である英語との共通点、相違点に注意を促す。1年次と合わせて基礎語彙約2,300語を覚える。この科目をもって、いわゆる初級文法を卒業する。

専門 探究 科目 (続 き)	スペイン語Ⅳ(会話)		中級スペイン語会話の実践的な授業。初級で身につけた文法、語彙、文化的知識を、さまざまなアクティビティを通して定着させつつ、より高度なレベルを目指す。回ごとにスペインおよびラテンアメリカ諸国の文化、習慣、スポーツ、映画、文学、食事などのテーマを定め、スペイン語による全般的なコミュニケーション能力を高める。リスニングと発話に重点をおき、日常生活に必要なコミュニケーションだけでなく、文化に関するより深いレベルの会話ができることを目標とする。予習、復習が不可欠。とくに語彙は繰り返し復習することが必要となる。	
	スペイン語Ⅳ(読解演習)		スペイン語圏の文化や社会に関連したスペイン語の文章を読み、内容を正確に理解する。文化や社会に関する基本的な知識を習得しながら、スペイン語の読解のスキルを高める。文法的な知識や語彙を理解し、スペイン語の長文の流れに沿って精密に解釈し、獲得した知識を応用することができる。スペイン語圏の文化と社会についての基本的な知識を習得し、自らの問いを立てて掘り下げていくことができることを目指す。	
	スペイン語圏の文化と社会		(概要) スペイン語圏の文化や社会に関する基礎的な知識を獲得する。社会、政治、歴史、宗教、ジェンダー、現代文化など、多様な観点からスペイン語圏についてとりあげ、奥行きのある知識、および探究心を構築することを目指す。また、授業内容に関連したテーマについての中間レポート作成を通じて、大学生として必要な文章作成能力(アカデミックライティング)を身につける。 (オムニバス方式 全13回) (22 Juan Carlos Moyano/3回) スペインとラテンアメリカの地理について、またスペインの社会と政治について学ぶ。 (11 Paloma Trenado/3回) スペイン語圏における教育、若者文化、祝祭と儀礼について学ぶ。 (32 長野太郎/3回) ラテンアメリカの社会と政治について、またスペイン語圏におけるポピュラー文化、音楽、日系移民について学ぶ。 (18 駒井睦子/4回) スペイン語圏の文化、社会、ジェンダーについて学ぶ。	オムニバス
	スペイン語Ⅴ(総合)		B1レベルの4技能を習得する授業。スペイン語検定試験DELEのB1レベルに出題されるような、いろいろなタイプのテキストを読んで理解し、さまざまな場面を想定した会話練習を行いながら、とくに読む、聞く、話すに重点をおいた訓練を通してより高いレベルのスペイン語運用能力を身につけることを目指す。実践的なスペイン語を身に付けることができるよう、ペアワークやグループワークと言った、インタラクティブなアクティビティを重視する。授業予習、復習が不可欠。	
	スペイン語Ⅴ(読解演習)		スペイン語圏の文学や芸術に関連したスペイン語の文章を読み、内容を正確に理解する。基本的な知識を習得しながら、スペイン語の読解のスキルを高め、文学や芸術についての表現を理解することができるようになる。長文の流れに沿って精密に解釈し、獲得した知識を応用することを目指す。詩や戯曲などの文学作品の一部を抜粋することもある。スペイン語圏の文化と社会についての基本的な知識を習得し、自らの問いを立てて掘り下げていくことができる。	
	スペイン語Ⅵ(総合)		「スペイン語Ⅴ(総合)」に引き続き、B1レベルの文法と語彙を習得する授業。文法はこれまで勉強してきたものを土台に、より複雑な文法構造を学んでいくが、たんに文法事項を学ぶだけでなく、具体的なコミュニケーションの場で使えるようになることを目指す。また語彙は、B1レベルに相当するものをテーマごとに習得し、語彙力を強化していく。抽象的な概念や自分の意見をスペイン語で正確に表現できるようにトレーニングする。予習、復習が不可欠。適宜、課題の提出が求められる。	
	スペイン語検定対策講座		日本で受験可能なスペイン語検定試験(DELEスペイン語検定、スペイン語技能検定など)の合格を目指す。レベルに応じた文法事項が理解できているかをまず確認し、弱いところに関しては練習問題を繰り返し行いながら強化する。同時に目指すレベルの語彙を習得するために小テストを何度か実施する。実際の試験と同じ時間内に過去問題集や対策用の問題を繰り返し解き、リーディング、リスニングの向上を目指す。各自の弱点を可視化し、重点的に学習する。	
	スペイン語音声学		スペイン語音声学・音韻論への入門と、スペイン語発音練習。まず、ほとんどの学生の母語である日本語を用いてIPA(国際音声記号)に慣れ親しみ、その後でスペイン語の分節音(子音、母音)と韻律的要素(強勢、イントネーションなど)を日本語と比較しながら学ぶ。音素と異音の概念を学び、発音が似ていると言われる日本語とスペイン語の間にどのような違いがあり、どのような誤解やコミュニケーション上の負荷が生じ得るかを、その理由と共に理解する。	
	スペイン語学		スペイン語学の様々なトピックについて、英語、日本語の特徴と比較して考える科目。1、2年次のスペイン語科目で学習したスペイン語の知識を人間の言語の一つの体系として理解し、スペイン語の特徴を日本語や英語のそれと比較して、スペイン語を使う際に役立てられるようにする。形態論、統語論の基本的な概念を学んだ後、日本人にとって難しい点や英語と異なるスペイン語の特徴などについて実際の文章、会話などから例をとって分析する。	

専門探究科目（続き）	スペイン語圏の世界遺産	世界遺産とは、1972年にユネスコ総会で採択された「世界の文化及び自然遺産の保護に関する条約」(世界遺産条約)に基づいて世界遺産リストに登録された遺跡や景観そして自然など人類が共有すべき普遍的な価値を有するものである。スペイン語圏各地に数多く存在する世界遺産について、さまざまな文献や視覚教材等を通じて学びながら、地域の自然・文化・宗教・歴史といった多角的な視座からスペイン語圏について理解を深める。これらの世界遺産をどのように後世に継承するのかについても考察したい。
	スペイン文学史	スペイン文学の変遷を把握し、各時代の歴史的背景や文芸思潮の特徴を理解した上で、主要な作品や作家の代表作に親しむことがこの科目の目標である。授業では、代表的な作品や文学者を取り上げ、まず時代背景や作品の特徴を解説する。次いで作品の一部を日本語の翻訳で講読し、くわしいコメントをつける。そうした形で、中世叙事詩から19世紀ロマン主義を経て20世紀にいたるまでの文学史の大きな流れをたどる。単に作家の名前や代表作品のタイトルを暗記するのではなく、時代背景の中で文学の変遷を体系立てて理解する。
	ラテンアメリカ文学史	ラテンアメリカ文学の変遷を把握し、各時代の文芸思潮の特徴を理解した上で、主要な作家の代表作に親しむことがこの科目の目標である。授業では、ラテンアメリカ文学の代表的な文学者を取り上げ、まず時代背景や作品の特徴を解説する。次いで代表作の一部を日本語の翻訳で講読し、くわしいコメントをつける。そうした形で、植民地時代から19世紀ロマン主義を経て20世紀にいたるまでの文学史の大きな流れをたどる。なぜその時代にその文学が書かれたのか、歴史的文化的背景の中で理解する。
	スペイン美術	スペイン美術を、中世から近代(19世紀初頭)までの絵画を中心に、その歴史的・社会的背景を解説しながら概観する。美術作品は制作者である芸術家、そしてその芸術家が生まれた時代を反映するものであるという視点から、授業では各回にそれぞれ1人の画家を取り上げ、その生涯と作品を紹介し、それぞれの時代の人々の考え方や起こった出来事について学ぶ。到達目標は、1. スペインおよび西洋全般の美術作品の見方を身につけること。2. 美術作品は作品がもつ芸術性以外に、その国や地域の歴史や社会背景を反映しているものであることから、スペインの歴史や社会背景、思想について自分で調べ、他の人に説明し、自らの意見を述べるができるようになること。
	スペイン語圏の音楽文化	ポピュラー音楽を構成するメロディーやリズムは、身体的な共振を通して地球規模での流通が可能である。その一方で、言語による象徴体系、ダンスなどの身体作法は場合によっては文脈依存的、かつ排他的であり、体系的な学習なしには参入不能な側面を持つ。本科目では、ラテンアメリカのポピュラー音楽を題材として、その歴史的形成プロセス、様式的な特徴、現代世界における位置づけについて概観した後、具体的に音楽やダンスの実践を通して、地球市民としてポピュラー文化とどのように関わり合っていくことができるかを考える。
	スペイン文学を楽しむ	スペイン人作家が書いたさまざまなタイプの作品を日本語の翻訳で読み、文学を通してスペインの社会・歴史・文化などの理解を深めることがこの科目の目標である。年によって「風景」「家族」「内戦」などテーマを決めて作品を選定する。授業では作品や作家について解説し、担当学生に、作品の内容、読みどころ、描かれている出来事の歴史的・社会的背景などを発表してもらう。また受講者全員が、授業で提示された問いについての自分の考えを発表または提出する。文学作品を通じて、スペインという国の成り立ちや変遷、人々の特性や文化的背景などを深く理解する。
	ラテンアメリカ文学を楽しむ	ラテンアメリカの古典的な作家と現代作家たちの作品を日本語の翻訳で読み、作家、作品、時代背景などについての理解を深めるとともに、文学を楽しむことがこの科目の目標である。文学作品それ自体を楽しむと同時に、ラテンアメリカという、日本とは全く異なる地域について理解する。授業では、最初にラテンアメリカの歴史の流れを解説し、その後、主要な作家たちを取りあげ、具体的な作品を読んでいく。授業についてのリアクションペーパーの提出や小レポートを課す場合がある。小レポートにはフィードバックを行う。
	スペイン語圏の社会と女性	スペイン語圏では政治や社会だけでなく、文学や芸術といったさまざまな分野で、公的な場での女性の活動は長い間制限を受けていた。しかしその中でも、自らの生き方を模索しようとした女性たちが存在する。本科目では、そういった女性たちを取り上げ、彼女たちがどのような生き方を追求したのか、それはなぜなのかということや当時の文脈の中で考える。それらの女性たちが残した文学や芸術作品に触れ、自分を取り巻く制約や圧力の中で自分らしく生きるためにはどうしたらよいか、現代社会において彼女たちから学べることは何かを探求したい。
	スペイン語史	現代スペイン語の多様性、およびそれらの源泉について理解することを目的として、スペイン語の歴史を学ぶ。特に(1)ラテン語からの通時的変化(2)中世以降の音声・語彙・意味の変化(3)他言語の影響と現代スペイン語のバリエーションの3点を中心として学び、現代のスペイン語がなぜこのような発音、文法、語形の特徴を持っているのかについて理解を深める。有名な古典文学の原文にも少し触れて、現代語との類似点・相違点について考える。

専門探究科目（続き）	スペイン・ラテンアメリカ文学	スペインやラテンアメリカの作家によって書かれた文学作品を、スペイン語で精読する。語彙や文法に気を配りながら、作品を正確に読み取る。ストーリーを追うだけでなく、文化的歴史的背景の中から作品を理解し、人物造形にも目を向ける。文学的でより複雑なスペイン語文にじっくりと取り組み、文学作品を批評的に読む力をやしなう。取り扱う作品は児童文学、短編小説や戯曲、詩など多彩なジャンルにわたる。また、女性作家の存在にも目を向け、ジェンダーについても考えたい。
	スペイン語翻訳演習	スペイン語で書かれた文化や文学にかかわるさまざまなテキストを日本語に訳す。スペイン語の講演原稿のスライドや、スペイン語劇上演時の日本語字幕といった実際に使用する字幕を作ることで、受け手を想定した実践的な翻訳ができるようになる。また、短編や詩や歌といった文学作品の翻訳も学ぶ。多様なテキストの翻訳に挑戦し、日本語に翻訳する際、どのような点が問題になるのかを実践を通じて学びながら、それぞれの用途に応じて何が必要とされるのかを考える。学生の翻訳の個人発表の他、学生同士で互いに添削を行い、皆で協力してよい翻訳を作るメソッドを探る。
	スペイン語通訳演習	スペインやラテンアメリカの文化、観光、スポーツなど、さまざまなテーマに触れながらシャドーイングやリテンション等、スペイン語通訳の初期訓練に準じた発話演習を行う。従来の語学学習法とは異なる特殊な訓練を追加することで、不足していた力をバランスよく補い、より総合的なスペイン語力を身につける。学生はPCとヘッドセットを持参して、ネイティブスピーカーが話す音源を聞き、声に出して繰り返すことで、リズムやリスニングのコツを掴み、フレーズを丸ごと耳から覚える。それによって発話力の向上も目指す。訓練の合間に「なぜ聞き取りがうまくいかないのか」「通訳をするときに頭の中で何が起きているのか」など、講師の通訳体験も交えて紹介する。将来、スペイン語を使ってさまざまな活動をしてみたいと考えている学生を対象とした実践的な演習。毎回の授業内でのパフォーマンスや課題の提出を重視する。
	ビジネススペイン語	ビジネスシーンの会話やスペイン、ラテンアメリカの特産物等について学びながらシャドーイングやリテンション等、スペイン語通訳の初期訓練に準じた発話演習を行う。従来の語学学習法とは異なる特殊な訓練を追加することで、不足していた力をバランスよく補い、同時にビジネスで使用される単語や言い回しも習得する。学生は、PCとヘッドセットを持参して、ネイティブスピーカーが話す音源を聞き、声に出して繰り返すことで、リズムやリスニングのコツを掴み、フレーズを丸ごと耳から覚える。それによって発話力の向上も目指す。訓練の合間に「スペイン語を使うビジネスにはどんなものがあるのか」など、講師の体験談も交えて紹介する。将来、スペイン語を使った仕事やさまざまな活動をしてみたいと考えている学生を対象とした実践的な演習。毎回の授業内でのパフォーマンスや課題の提出を重視する。
	グローバルヒストリー	歴史学の中級者を対象に、一国史や地域史を越えたグローバル・ヒストリーの考え方を学ぶ。具体的には、イマニュエル・ウォーラーステインの世界システム論を題材に、世界システム論の内容や同論が登場してきた背景などについて理解を深める。また、世界システム論の叙述を読み解きながら、世界システム論から見た産業革命やフランス革命の意味などを再考する。そのうえで、グローバリゼーションが進展する現代において、現代および未来を見通すうえで歴史学が果たす役割についても考える。
	西洋思想史	日々の生活の中で逢着する様々な問題に哲学的な観点と方法によって取り組むことができるような思索力を養う。この目的を果たすために本授業では、人生において重要な、したがってまた哲学において重要な特定のテーマに即して、西洋哲学の歴史の流れをギリシア時代から近現代まで概観する。受講生は、そのテーマについて西洋の主要な哲学者がそれぞれどのように取り組み、その取り組みにおいてどのような思索を展開したかについて洞察を得ることができるはずである。受講生には入門書や解説書の参照も促すが、授業では哲学者本人が書いた著作の一部をかならず取り上げて、精読する作業を行ってもらう。
	現代社会と宗教	本講義は、宗教にかかわる現代社会の諸現象に対する学問的アプローチを学ぶことを目的とする。講義では、現代社会の諸現象を以下のテーマ別にとりあげ、(1)その現象がどのような時間的・空間的広がりをもっているか、(2)宗教学や宗教社会学ではどのような分析が行われているかを学ぶ。テーマは「世俗化」「死生観」「自然」「ジェンダー・セクシュアリティ」「国家」「越境」「近代科学」「終末論」「暴力」「平和」である。到達目標は、宗教に関わる現代社会の諸現象について、その学問的アプローチを簡潔に説明することができるようになることである。
	キリスト教の源流	本講義では、キリスト教の思想や歴史を学問的に理解・分析することについて学ぶための科目である。本講義では特に四福音書やパウロ神学、アウグスティヌスといった、キリスト教の礎となった人物たちの様々な思想やその現代的解釈を扱うことで、キリスト教という宗教の学問的基礎について学ぶ。それと同時に、当該の人物たちに関する伝承やテキスト等を読み解いていくことで、キリスト教関連史料を分析し解読する技術をも身につけることを狙う。
	日本古代史特論	日本古代史特論は、当該分野における専門性の高い研究を理解する科目である。先行研究や最新の研究動向などを知るだけにとどまらず、文化史研究において幅広い視点を持ち、卒業論文執筆に向け、必要な知識を自らの力で見いだす探究力と応用力を身につけることを目的とする。主として飛鳥・奈良・平安時代を文献史学の立場から扱い、適宜考古学上の成果も踏まえながら見ていく。各年度主題を設定して、この時代の政治と社会の関係や文化を、国際関係も視野に入れつつ考察する。これによって当該分野に関する現在の研究水準を理解し、それを的確に説明できることを目指す。

専門探究科目（続き）	日本中世史特論	日本中世史特論は、当該分野における専門性の高い研究を理解する科目である。先行研究や最新の研究動向などを知るだけにとどまらず、文化史研究において幅広い視点を持ち、卒業論文執筆に向け、必要な知識を自らの力で見いだす探究力と応用力を身につけることを目的とする。主として鎌倉・室町・戦国・織豊期を文献史学の立場から扱い、適宜考古学上の成果も踏まえながら見ていく。各年度主題を設定して、この時代の政治と社会の関係や文化を、国際関係も視野に入れつつ考察する。これによって当該分野に関する現在の研究水準を理解し、それを的確に説明できることを目指す。
	日本近世史特論	日本近世史特論は、当該分野における専門性の高い研究を理解する科目である。先行研究や最新の研究動向などを知るだけにとどまらず、文化史研究において幅広い視点を持ち、卒業論文執筆に向け、必要な知識を自らの力で見いだす探究力と応用力を身につけることを目的とする。江戸時代を主として文献史学の立場から扱う。各年度主題を設定して、この時代の政治と社会の関係や文化を、国際関係も視野に入れつつ考察する。これによって当該分野に関する現在の研究水準を理解し、それを的確に説明できることを目指す。
	日本近現代史特論	日本近現代史特論は、当該分野における専門性の高い研究を理解する科目である。先行研究や最新の研究動向などを知るだけにとどまらず、文化史研究において幅広い視点を持ち、卒業論文執筆に向け、必要な知識を自らの力で見いだす探究力と応用力を身につけることを目的とする。明治・大正・昭和時代を主に文献史学の立場から扱う。各年度主題を設定して、この時代の政治と社会の関係や文化を、国際関係も視野に入れつつ考察する。これによって当該分野に関する現在の研究水準を理解し、それを的確に説明できることを目指す。
	日本思想史	思想史とは、歴史や文化の展開を、主として人間の意識の方面についてみるものであり、日本思想史は、日本の古代・中世以来の宗教などの思想を中心として、日本人の世界観の一面を再認識することを試みるものである。この講義では、おもに古代から近世までの前近代に日本列島に生きた、様々な人びとが抱いた思想を概観する。またこうした人びとが現実の政治・社会の動きに対して抱いた認識や関わり、思索や構想を、隣国や他地域と比較しつつ考察する。同時に具体的な史料検討をすることで、史料を自分で読み解く能力や、史料から自分で問題をたてる能力を習得することを目指す。
	古文書学1	日本中世の古文書を学ぶことを主題とする。古文書学とは、古文書に関する体系的研究の方法とその成果をいう。その内容は、様式、材料など形式性、素材性についての研究を主な目的とする形式論と、これらの成果をふまえながら文書の授受関係を通して確認できる歴史的事態をみることを主な目的とする機能論とに大別される。ここでは特に、形式論と機能論を踏まえつつ、日本中世の古文書の様式とその変遷について、社会的・政治的背景との関係を考えながら学ぶ。またそれを通して当時の社会習俗の一端を感じ取る。具体的には、古代・中世の日記(古記録)、公式様文書、鎌倉幕府発給の武家文書を扱い、古文書の様式をその発給過程に関連させて理解することや、古文書の読み下しおよび解釈など基本的な読解ができるようになることを目指す。
	古文書学2	日本中世の古文書を学ぶことを主題とする。古文書学とは、古文書に関する体系的研究の方法とその成果をいう。その内容は、様式、材料など形式性、素材性についての研究を主な目的とする形式論と、これらの成果をふまえながら文書の授受関係を通して確認できる歴史的事態をみることを主な目的とする機能論とに大別される。ここでは特に、形式論と機能論を踏まえつつ、日本中世の古文書の様式とその変遷について、社会的・政治的背景との関係を考えながら学ぶ。またそれを通して当時の社会習俗の一端を感じ取る。具体的には起請文、鎌倉・室町幕府や戦国大名、織豊期の天下人の発給文書を扱い、古文書の様式をその発給過程に関連させて理解することや、古文書の読み下しおよび解釈など基本的な読解ができるようになることを目指す。
	東洋史特論1	東洋史特論1は、東洋史分野における専門性の高い研究を理解する科目である。先行研究や最新の研究動向などを知るだけにとどまらず、文化史研究において幅広い視点を持ち、卒業論文執筆に向け、必要な知識を自らの力で見いだす探究力と応用力を身につけることを目的とする。演習受講者の興味関心なども踏まえ、毎年授業内容は変更するが、東洋史特論1では中国および東アジアにおける民衆世界や民間信仰に関わるテーマを中心に取り上げる。
	東洋史特論2	東洋史特論2は、東洋史分野における専門性の高い研究を理解する科目である。先行研究や最新の研究動向などを知るだけにとどまらず、文化史研究において幅広い視点を持ち、卒業論文執筆に向け、必要な知識を自らの力で見いだす探究力と応用力を身につけることを目的とする。演習受講者の興味関心なども踏まえ、毎年授業内容は変更するが、東洋史特論2では中国および東アジアにおける政治・社会や国際交流に関わるテーマを中心に取り上げる。
	東洋思想史	東洋思想の中でも日本に大きな影響を与えた中国思想について講義し、その基本的な文脈を紹介する。具体的には中国思想の基本的なパラダイムを用意した儒家思想、墨家思想、老荘思想、法家思想、朱子学、陽明学という代表的思想に触れ、中国思想を学習する際の基礎を構築することを目指す。その上で、このような中国思想が日本の思想にいかなる影響を与えたのかを論じ、現代日本にも根強く残っている価値観の淵源がどのようなものであるのかを考察する。

専門探究科目 (続き)	西洋史特論1	西洋史特論1は、西洋史分野における専門性の高い研究を理解する科目である。先行研究や最新の研究動向などを知るだけにとどまらず、文化史研究において幅広い視点を持ち、卒業論文執筆に向け、必要な知識を自らの力で見いだす探究力と応用力を身につけることを目的とする。この授業では、主に古代と中世の西洋世界を取り上げ、各時代に登場した帝国、国家、地域、都市、組織、人物等に焦点を当てる。また、政治、経済、社会、文化の諸相に幅広く触れるなかで、古代中世の西洋世界がどのような構造と原理のもとで成り立っていたかを学ぶ。歴史の表層と深層の双方に目を向けながら、本科目では複眼的・多角的な思考力の養成をめざす。
	西洋史特論2	西洋史特論2は、西洋史分野における専門性の高い研究を理解する科目である。先行研究や最新の研究動向などを知るだけにとどまらず、文化史研究において幅広い視点を持ち、卒業論文執筆に向け、必要な知識を自らの力で見いだす探究力と応用力を身につけることを目的とする。本科目では、主に近世以降の西洋世界を取り上げ、各時代に登場した帝国、国家、地域、都市、組織、人物等に焦点を当てる。また、政治、経済、社会、文化の諸相に幅広く触れるなかで、近世以降の西洋世界がどのような構造と原理のもとで成り立っていたかを学ぶ。歴史の表層と深層の双方に目を向けながら、本科目では複眼的・多角的な思考力の養成をめざす。
	歴史ミュージカル特論	歴史ミュージカル特論は、西洋史分野における専門性の高い研究を理解する科目である。先行研究や最新の研究動向などを知るだけにとどまらず、文化史研究において幅広い視点を持ち、卒業論文執筆に向け、必要な知識を自らの力で見いだす探究力と応用力を身につけることを目的とする。本科目では、実際の歴史ミュージカル作品をもとに史実の使われ方と描かれ方に注目し、事実とフィクションの緊張関係を歴史学的な視点で学ぶ。歴史が現代の文化作品としてどのように活用されるか、その意義と魅力を考えながら歴史ミュージカル論の本質に触れる。
	西洋美術史特論1	西洋美術史特論1は、当該分野における専門性の高い研究を理解する科目である。先行研究や最新の研究動向などを知るだけにとどまらず、文化史研究において幅広い視点を持ち、卒業論文執筆に向け、必要な知識を自らの力で見いだす探究力と応用力を身につけることを目的とする。主に中世から近代までの時代の中から特定の主題に注目し、その展開を深く掘り下げて学び、時代による技法や表現の変化や、作品の、成立背景や社会との関わり、後世への影響などを包括的に考察する。
	西洋美術史特論2	西洋美術史特論2は、当該分野における専門性の高い研究を理解する科目である。先行研究や最新の研究動向などを知るだけにとどまらず、文化史研究において幅広い視点を持ち、卒業論文執筆に向け、必要な知識を自らの力で見いだす探究力と応用力を身につけることを目的とする。主に中世から近代までの時代の中から特定の芸術潮流に注目し、その時期に制作された作品を取りあげ、技法や表現の特徴、成立背景や社会との関わり、後世への影響などを包括的に考察する
	近現代美術史特論	近現代美術史特論は、当該分野における専門性の高い研究を理解する科目である。先行研究や最新の研究動向などを知るだけにとどまらず、文化史研究において幅広い視点を持ち、卒業論文執筆に向け、必要な知識を自らの力で見いだす探究力と応用力を身につけることを目的とする。この講義を通じ、西洋・東洋・日本といった地域的な分け方から逸脱していく近代以降の美術史について、グローバルな視点から理解できるようにする。具体的には、産業革命以降の政治や社会の変化が、国や地域を越えて、芸術運動に与えた影響を、様々な角度から考察する
	日本美術史特論1	日本美術史特論1は、日本美術史分野における専門性の高い研究を理解する科目である。先行研究や最新の研究動向などを知るだけにとどまらず、文化史研究において幅広い視点を持ち、卒業論文執筆に向け、必要な知識を自らの力で見いだす探究力と応用力を身につけることを目的とする。日本美術史特論1ではおもに絵巻などのやまと絵や近世絵画をとりあげ、主題、技法、表現の特徴、時代背景、制作に関わった人々(作者・発注者・鑑賞者)などを詳しくみてゆき、それぞれの時代における存在意義を考察する。
	日本美術史特論2	日本美術史特論2は、日本美術史分野における専門性の高い研究を理解する科目である。先行研究や最新の研究動向などを知るだけにとどまらず、文化史研究において幅広い視点を持ち、卒業論文執筆に向け、必要な知識を自らの力で見いだす探究力と応用力を身につけることを目的とする。日本美術史特論2ではおもに飛鳥～鎌倉時代の仏教美術作品をとりあげ、主題、技法、表現の特徴、時代背景、制作に関わった人々(作者・発注者・鑑賞者)などを詳しくみてゆき、それぞれの時代における存在意義を考察する。
	東洋美術史特論	東洋美術史特論は、当該分野における専門性の高い研究を理解する科目である。先行研究や最新の研究動向などを知るだけにとどまらず、文化史研究において幅広い視点を持ち、卒業論文執筆に向け、必要な知識を自らの力で見いだす探究力と応用力を身につけることを目的とする。おもにインドまたは中国の仏教美術作品をとりあげ、主題、技法、表現の特徴、時代背景、制作に関わった人々(作者・発注者・鑑賞者)などを詳しくみてゆき、それぞれの時代における存在意義を考察する。

専門 探究 科目 (続 き)	工芸史	人類の身近な道具として長い歴史を持つ、陶磁器や漆工芸の展開を中心に工芸の歴史について通覧する。本講義では具体的な作例をスライドを中心に見てゆくとともに、技術の発展、交易による国際的な普及と影響について学び、他の美術との関係にも留意しつつ、その歴史的展開を把握する。また、関連する展覧会で作品を実際に鑑賞し、その体験から工芸作品に対する理解をより深めていく。履修者が工芸品を過去のものとして理解するだけでなく、現在はそれらどのように存在するか、どのように次世代につながっていくのかについても多角的に考えられ、日本の文化と生活における工芸作品の重要性が発信できるようになることを到達目標とする。
	人間とは何かについての哲学特論	人間とは多面的・多層的な存在である。また、人間を対象とする学問には様々なものがある。たとえば心理学や人類学や医学も広義には人間を取り扱う学問である。それでは、哲学が「人間とは何か」と問うときに、哲学に固有の視座(観点)と方法とはどのようなものであろうか。この問いを導入としながら、年度ごとに特定の哲学者を取り上げて、その哲学者がどのような仕方です「人間とは何か」という問いに取り組んだか、またその取り組みにおいてどのような思索を展開したかを、哲学者自身の著作に即しながら確認する。受講生にはさらに、その哲学者の思索の意義と限界についても自ら批判的に考え判断できるような哲学的な思索力を培ってもらう。
	どう生きるかについての哲学特論	哲学は、どれほど学問として専門化しようとも、「どのように生きるのがよいのか」という人間としての素朴な問いを出発点とし、また基盤ともしている。日々生きていく中で体験する違和感や疑問を大切に、それを掘り下げて考え抜くことを通じて人生はより充実したものとなる、と哲学者は考えるのである。この授業では年度ごとに特定の哲学者を取り上げて、その哲学者がどのような仕方です「どのように生きるのがよいのか」という問いに取り組んだか、またその取り組みにおいてどのような思索を展開したかを、哲学者自身の著作に即しながら確認する。受講生にはさらに、その哲学者の思索の意義と限界についても自ら批判的に考え判断できるような哲学的な思索力を培ってもらう。
	宗教学特論	本講義は、諸宗教の教えや実践をジェンダー・セクシュアリティ・家族という視点から学ぶことを目的とする。講義では、仏教、キリスト教、イスラーム、ヒンドゥー教、ユダヤ教、日本の幕末新宗教を中心に、諸宗教の教え・実践について、家族およびジェンダー・セクシュアリティという視点から考察する。到達目標は、日本を含む世界の諸宗教の教えや実践について、ジェンダー・セクシュアリティ・家族という視点から、その主要な概念や潮流を自分の言葉で説明することができることである。
	宗教史特論	本講義では、国家と宗教という観点から、世界の諸国・地域の宗教・国家・社会の関係について理解を深めることを目的とする。講義では、宗教分布や宗教意識についての統計データの解釈方法、および政教関係の類型を学んだうえで、フランス、ドイツ、英国、米国、ロシア、中国、日本などの国々を中心とした政教関係を学び、宗教・国家・社会の関係について比較の視点を探る。到達目標は、(1)宗教に関する統計データの解釈方法について説明することができること、(2)政教関係の類型について、具体的な国・地域をあげて説明することができることである。
	キリスト教の展開	本講義では、キリスト教の思想や歴史を学問的に理解・分析することについて学ぶための科目である。本講義では、パレスチナで発生したキリスト教が特に中近世においてどのような発展を遂げていったのか、またどのような歴史的・思想的課題を有しているのかについて扱う。ここでは特に女性の活躍や思想といった視点から、その伝承やテキスト等を読み解いていくことで、専門的な知識と同時に、史料を分析し解読する技術をも身につけることを狙う。
	聖書学特論	本講義は、聖書学という学問のアプローチとその実践を踏まえた上で、その応用的視点を学ぶための科目である。講義では、キリスト教における聖書解釈を中心にすえ、歴史における解釈の変化や聖書そのものに対する理解の違い、他宗教との関連、文化や実践との接続、またジェンダー、および現代的諸問題との関係など、複数の視点から聖書のもつ意義とその解釈可能性について学ぶ。それにより、聖書を学問的に読み解くことを学びつつ、歴史上の諸現象や現代社会との関連について考える。
	西洋キリスト教史1	本講義では、キリスト教史のうち、主として古代から近世初めまでを扱う。ヨーロッパにおける中世から近代への移行期は、現在のキリスト教世界(ヨーロッパのみでなく南北アメリカ、アフリカ、アジア)を理解する上で非常に重要な時期である。キリスト教を対象としてこの時代の歴史を追っていくことを通して、宗教分野についての理解が深まることはもちろん、宗教的要因が宗教以外の分野へ及ぼした影響や、宗教分野と他の諸分野との関連についても明確になるだろう。ここでは、まず古代におけるキリスト教の誕生と中世のキリスト教会、キリスト教社会の状況を俯瞰した後、宗教改革の始まりとその展開までを追う。
	西洋キリスト教史2	本講義では、キリスト教史のうち、主として近世から現代までを扱う。ヨーロッパにおける中世から近代への移行期は、現在のキリスト教世界(ヨーロッパのみでなく南北アメリカ、アフリカ、アジア)を理解する上で非常に重要な時期である。キリスト教を対象としてこの時代の歴史を追っていくことを通して、宗教分野についての理解が深まることはもちろん、宗教的要因が宗教以外の分野へ及ぼした影響や、宗教分野と他の諸分野との関連についても明確になるだろう。ここでは、近世から近代初めの時期におけるキリスト教の宗派化を、近代へと大きく変化していく政治、社会、文化的状況の変化と絡めながら掘り下げて考察する。

専門探究科目（続き）	日本キリスト教史1	本講義では、日本におけるキリスト教の歴史を専門的な視点から教授する。16世紀に日本へもたらされた西洋の宗教が、日本の風土文化にどのように受容されていき、またそれが民衆や政治的支配層にいかなる影響を与えたかについて扱う。まずキリスト教と出会った時代の日本、すなわち戦国時代から織田信長や豊臣秀吉の時代を対象とし、キリシタンをめぐる宗教と政治の問題について理解することを狙う。具体的には、ザビエルによる布教開始から、豊臣秀吉時代の二十六聖人殉教事件までの流れが範囲となる。
	日本キリスト教史2	本講義では、日本におけるキリスト教の歴史を専門的な視点から教授する。16世紀に日本へもたらされた西洋の宗教が、日本の風土文化にどのように受容されていき、またそれが民衆や政治的支配層にいかなる影響を与えたかについて扱う。まずイエズス会士による日本観察と研究書を題材に、バテレンたちがどれほど日本文化の理解に格闘したかを論じる。次に、徳川幕府のキリシタン政策の移り変わりを、家康・秀忠・家光時代を順々に概説する。ここではキリシタン教界に対する幕府の懐柔・排斥、そして弾圧に踏み切るまでの経緯を知ることになる。時代的には島原・天草一揆の発生と鎮圧、及びこれに続くバテレンの日本潜入(1708年まで)あたりまでを目処に、「キリシタン史」を学んでもらう。
	日本宗教史1	日本の宗教は、仏教伝来以降1500年間にわたって〈神と仏〉の緊張関係を中心に展開してきた。神と仏は、時には対立し、時には融合し、互いに影響を与えあいながら発展してきた。こうした神と仏のいわば〈共生関係〉は、明治政府の宗教政策によって強制的に分断させられるまで、日本文化のバックボーンとして宗教ばかりでなく文学や美術、芸能等様々な分野に影響を与えてきた。ここでは様々な形の宗教文化を学びながら、日本の文化をより深く理解し、多面的に見られるようになることを目標とする。特に明治維新政府の宗教政策と神仏分離や日本列島への儒教や仏教の伝来、また陰陽道の展開や御霊信仰、神仏習合の諸問題を扱う。
	日本宗教史2	日本の宗教は、仏教伝来以降1500年間にわたって〈神と仏〉の緊張関係を中心に展開してきた。神と仏は、時には対立し、時には融合し、互いに影響を与えあいながら発展してきた。こうした神と仏のいわば〈共生関係〉は、明治政府の宗教政策によって強制的に分断させられるまで、日本文化のバックボーンとして宗教ばかりでなく文学や美術、芸能等様々な分野に影響を与えてきた。ここでは様々な形の宗教文化を学びながら、日本の文化をより深く理解し、多面的に見られるようになることを目標とする。特に中世神道の形成やキリスト教伝来の問題、また近世の儒学と国学、近代の神仏関係の問題点などを扱う。
	仏教史	本講義では、アジア諸国における仏教と社会との関わり、およびその文化について学ぶ。仏教のなかでも、とりわけ欧米諸国や日本を含むアジア諸国に広まりつつある上座部仏教を中心とする。講義では、上座部仏教が東南アジア大陸部およびスリランカを中心に広まっていることをふまえたうえで、その歴史概要、思想、信仰実践について学ぶ。到達目標は、①上座部仏教の歴史概要、基本的な思想・信仰内容、現代における実践例について理解し、説明できるようにすること、②上座部仏教に関する学術情報の収集・読解・まとめができるようになることである。
	美学	「美学」とは、ギリシア語のアイステーシス(感覚)に由来するaestheticsの訳語で、「美」や芸術、感性、そしてそれに関連した諸概念について扱う哲学の一分野である。本講義では、美と芸術をめぐる歴史上の思索と営みについて、各回に設定した様々なテーマを中心にみていく。全体的はゆるやかに通史を辿る構成となっているが、各講義では必要に応じてその前後の時代や現代の問題も扱う。この講義を通して、「美」の意味やその実際、また芸術と思想との関連についての知識を得、思索を深めることを狙う。
	考古学	考古学とは、過去の人類の残した物質的遺物、すなわち遺跡・遺物を資料とし、これらによって人類の過去を研究する学問である。人類の過去の研究ではあるものの、文献資料によって歴史事象を研究する文献史学と異なり、文化や生活内容などの研究に重点がおかれるものであり、過去の人類が残した遺跡・遺物・遺構から、人間の活動・環境を考察するものである。ここでは各年度主題となる地域や時代を設定し、発掘調査などの成果によって得られた考古学上の知見から、その地域・時代における文明の形成や発展の過程をみていく。同時に発掘調査の手法についても概観する。
	民俗学	民俗学は、文化の進んだ国あるいは民族について、一般庶民のつくりあげてきた文化の今日に至るまでの発展の模様を研究するものである。そのより古い文化の姿を知るについて、進んだ庶民生活のなかになお残っている古い文化の姿、いわゆる民俗とか民間伝承というものを尋ねてゆくことを特色とする。日本の民俗を明らかにするためには、東アジア地域の民俗文化との比較が不可欠である。「比較民俗学」が、多様な展開を見せる東アジア地域の諸民族の民俗文化を研究する上では、かなりの有効性をもつ方法論であるといえる。ここでは、日本と中国の人生儀礼と年中行事を、比較民俗学の立場から検討し、そこに取り上げられたさまざまな民俗事象についての理解を深め、日中民俗文化の異同を発見することを目的とする。

専門 探究 科目 (続き)	政治学1	本科目では、政治学の基礎的な概念を学びながら、政治とは何か、政治はどのような原理で動いているのか、政治にどう向き合えばいいのかを受講者自身の頭で深く考え、政治の本質を考える糸口をつかむことができるようにする。ここでは特に、権力と決定、政治におけるリーダーシップ、議会制と政党制、政治過程、選挙制度、自由主義、デモクラシー、メディアと世論の諸問題を取り上げ、政治についての知識の習得と思考力の強化を図る。また本科目では歴史的な視点も重視する。たとえば、日本政治史についての基礎知識と理解を深め、政治学の基礎概念が現実世界ではどのように実践・運用されているかを考える。	
	政治学2	本科目は、国際政治学の基礎的な概念を学びながら、現代の国際政治を読み解くための思考力の養成を目的とする。まず、国際政治学という学問の本源的テーマである「戦争」をめぐる問題を取り上げ、国際政治とはいかなるもので、それを我々はなぜ考えなければならないのかを考える。その際、「国家」の存在事由、および国家間が衝突を起こす原理的なメカニズムを概説する。また、国際政治学の代表的な理論であるリアリズムとリベラリズムを紹介し、国際政治に対する見方・スタンスを理論的に把握し現実と重ね合わせる。こうして国際政治についての知識の習得と思考力の強化を同時に進めつつ、本科目では歴史的な視点も重視する。国際政治史についての基礎知識と理解を深め、過去の国際社会の具体的な動きをもとに国際政治の本質を考えることができるようにする。	
	社会学1	本講義は、①社会学という学問の歴史と展開を理解し、②その基本的な対象領域や考え方、理論などをさまざまなトピックを通じて学ぶことを通じて、③社会的現象や問題を視る際に社会学的思考ができるようになることを目的とする。講義では、ウェーバー、デュルケム、ジンメルなどの文献を通して基本的な考え方を学ぶとともに、社会学の基本的な対象領域や考え方、理論などをさまざまなトピックを通じて学ぶ。到達目標は、①社会現象に対して社会学的思考ができるようになること、②社会学の理論を用いて、社会現象や社会諸問題を解説あるいは議論できるようになることである。	
	社会学2	本講義では、社会調査法の基礎的な学習を通じて社会学の特徴を理解し、我々を取り巻く社会を捉えるためのデータの読み取り方、および自身の問題意識に則した調査法の選択ができるようになることを目的とする。講義では、主に量的調査と質的調査という区分に基づき、種々の社会調査法の理論・方法論の具体例を通じて、社会を分析するツールとして社会調査がいかに行われているかについて学ぶ。到達目標は、①社会調査法の基本的な種類と方法論について理解し、説明できること、②実際に自ら調査を行う際の計画・立案が可能になることである。	
	人文・自然地理学	様々な自然環境と地域の諸課題を地理学的に理解する。自然災害や地球温暖化など様々な地球環境問題が噴出する現在、地球上の環境や人間生活にわたる諸課題を研究対象とする地理学的重要性は増している。ここまず自然地理学の基礎を学び、続いて人文地理学的な視点で世界や日本の諸課題を把握し、地理的見方・考え方を身に着けていく。これによって、①自然地理学の基本事項を理解し、身近な問題と結びつけ説明する。②地域の抱える様々な課題を発見し、自ら情報収集し分析することができる。③様々な事象に対して、地理的見方・考え方を持つことができる。④高等学校の地歴科目である地理総合を教えるための、基本的な事項を説明できる。以上の能力の習得を目指す。	
	地誌	地誌を学び、多様な地域の関係性や地域性を理解する。まず地誌の概要を講義し、地誌の意義や地域性が生まれる背景について学習する。また、地域学習を行うためのフィールドワークに必要な知識を学び、学校周辺のフィールドワークの計画を立案する。続いて受講者の全員に地域を割り当て、その地域に関する地誌の発表を行う。これによって、①地誌的視点を知り、地域性を見出すことができる。②地域理解のためのフィールドワークを企画・立案できる。③日本や世界各地の地誌をまとめ、発表することができる。以上の能力の習得を目指す。	
	帝国の歴史	(概要) 本科目は、古今東西の帝国を取り上げ、各帝国の特質や興亡の過程を追いながら歴史への興味と理解を深める。オムニバス方式のもとさまざまな帝国の歴史に触れ、それらの相互比較を促すことで、世界史を総体的に把握する眼を養う。 (オムニバス方式／全13回) (1 大井知範／5回) 導入回、およびまとめ回において「帝国とは何か？」を講義する。ほかに神聖ローマ帝国・ドイツ帝国・近世近代のハプスブルク帝国の歴史を紹介する。 (2 木川弘美／2回) 中世近世のハプスブルク帝国の歴史を2回に分けて講義し、特に芸術分野の歴史を中心に扱う。 (16 石野一晴／2回) モンゴル帝国と大清帝国の歴史を講義する。 (12 中野渡俊治／1回) 古代日本・帝の国の歴史を講義する。 (6 佐々木守俊／1回) 日本における帝国の歴史を美術史の観点から講義する。 (15 桃井治郎／1回) オスマン帝国の歴史を講義する。 (17 井上まどか／1回) ロシア帝国の歴史を講義する。	オムニバス

専門探究科目（続き）	神話と伝承		本講義では、ギリシア・ローマ神話やインド神話、北歐神話といった世界各地の様々な神話について、それを学問的にどのように分析するかという、いわゆる神話学の基礎を学ぶ。神話学という学問の成立や性質について踏まえた後、神話の起源や構造等について具体的な神話を通して学んでいくことで、基礎的な知識と、専門的な史料読解の技術を身に付けてゆく。また、神話のもつ現代的意義や、様々な学問への接続可能性についても考える。	
	女性史		この科目では、日本、東洋、西洋における女性の歴史を紹介し、女性が置かれた状況の変遷を講義する。授業では、過去の著名な女性だけでなく、歴史上の一般の女性たちにも触れる。そこでは、彼女たちの生誕・教育・結婚・出産・子育て・夫婦関係・家族関係・労働をめぐる一生涯を局面ごとに切り取り、現代女性を取り巻く課題との比較を試みる。こうした歴史の学びを通じ、女性として生きる自身の姿を相対化することが本科目の目的となる。また、女性史を中心としながら、各時代・各地域の社会の特徴についても考え、歴史そのものに対する俯瞰的な視座を養う。	
	ジェンダー史		(概要) 本科目は、日本・東洋・西洋におけるジェンダーの歴史をオムニバス方式で紹介し、ジェンダーをめぐる現代的な課題のルーツと変遷を考える。授業では地域横断的な比較の視座を育み、過去と現在の対話を通じジェンダーという問題の本質を主体的に考えられるよう思考の素材を提供する。またジェンダーの歴史を通じて、日本史・東洋史・西洋史の事象に触れ、歴史そのものへの興味と理解を深めることも目的とする。 (オムニバス方式／全13回) (1 大井知範／5回) 導入回、およびまとめ回に「ジェンダーとは何か?」「過去と現在のジェンダー比較」を概説し、ほかに西洋におけるジェンダーの歴史を講義する。 (21 福留真紀／3回) 日本におけるジェンダーの歴史を講義する。 (6 佐々木守俊／2回) 日本におけるジェンダーの歴史について、特に美術史の視点から講義する。 (16 石野一晴／3回) 東洋におけるジェンダーの歴史を講義する。	オムニバス
	文化史学発展研究1		発展研究は、卒業論文につながる専門分野がある程度絞られる3年次生以上の学生を対象とし、ひとつのテーマを様々な学術的見地から分析・考察する能力を身につけることを目的とする。発展研究1では、創作物における歴史上の事象や概念、人物の扱いについて理解を深める。表象文化を通じて大衆文化が「歴史」を題材として形成したイメージが各所に与えた影響を学ぶことは、学術的な探求への窓口となる。こうした創作物と、歴史学や美術史、思想・宗教学等の文化史学の諸領域の関係性を、オムニバス方式で各担当教員の専門分野の視点から考察していく。講義科目ではあるが、ディスカッションも積極的にを行い、卒業論文執筆に向け、問いの構築や調査・資料収集のための方法論を様々な角度から学ぶ。 (オムニバス方式／13回) (19 坂田奈々絵／2回) イントロダクションおよび聖書学からの視点を担当。 (16 石野一晴／1回) 東洋史からの視点を担当。 (17 井上まどか／1回) 宗教学からの視点を担当。 (1 大井知範／1回) 西洋史からの視点を担当。 (2 木川弘美／1回) 西洋美術史からの視点を担当。 (6 佐々木守俊／1回) 日本美術史からの視点を担当。 (12 中野渡俊治／1回) 日本史からの視点を担当。 (21 福留真紀／1回) 日本史からの視点を担当。 (15 桃井治郎／1回) 西洋史からの視点を担当。 (19 坂田奈々絵・16 石野一晴・17 井上まどか／1回)(共同) ディスカッション回1を担当。 (1 大井知範・2 木川弘美・6 佐々木守俊／1回)(共同) ディスカッション回2を担当。 (12 中野渡俊治・21 福留真紀・15 桃井治郎 1回)(共同) ディスカッション回3を担当。	オムニバス・共同 (一部)
	文化史学発展研究2		発展研究は、卒業論文につながる専門分野がある程度絞られる3年次生以上の学生を対象とし、ひとつのテーマを様々な学術的見地から分析・考察する能力を身につけることを目的とする。発展研究2では、地域や分野を横断するような視点を持つ学問領域について理解を深める。専門性を深めつつも、西洋・東洋・日本という区切りから離れたグローバルな視点を持つことの重要性や、学究における歴史・美術史・思想・宗教という文化史領域の相関関係について、講義を通じて知る。	

資格課程科目	教職課程	教職入門	<p>教職について考え、一人ひとりが教職の勉強を積極的に進めていく意義を見出すことを目標とする。</p> <p>小学校・中学校・高等学校と少なくとも12年間の学校教育を受けてきた大学生は、皆、教育や授業について豊富な経験を積んでいるが、その経験は基本的に、授業を受ける児童・生徒の側からの経験である。この貴重な体験を振り返るとともに、授業・教育を行う側の立場からその経験を問い直し、そこに込められていた意味を考えることから、4年生の教育実習後まで続く教職課程の勉強をはじめ。</p> <p>(27 本城慎二・36 新居池津子・34 吉岡昌紀／4回)(共同)教育の意義、教職課程で学ぶこと。教職という進路。</p> <p>(27 本城慎二／3回)授業を設計する。授業を体験する。</p> <p>(36 新居池津子／3回)教員の日、教員のライフステージ。</p> <p>(34 吉岡昌紀／3回)児童・生徒から教師へ—教師から見た授業、教師から見た学校。</p>	オムニバス・共同(一部)
		教育学概論	<p>将来教育的働きかけに携わりたいことを希望する学生にさまざまな資料を提供しつつ、教育に関する全般的な内容を理解し、教育に興味を持って自ら進んで勉学を進め、教育実践の場に臨む姿勢を形成していくようをはかる。</p> <p>到達目標は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育についての全般的な事項を理解する。(知識領域) 2. 教育の問題を、学生が自分自身の問題として把握し、自分が調べ考えたことを進んで発表できる。(技能領域) 3. 今日の課題、明日の課題を通して、教育の未来を展望する態度を身に付ける。(態度領域) 	
		教育心理学	<p>教育は、教える側の多面的な働きかけであるとともに、学ぶ側の多面的で積極的な活動である。本講では、教える側、学ぶ側双方が能動的に関わり合う教育と深い関係を持つ、発達、学習、動機づけの3分野を中心に心理学の研究を紹介し、それをもとに、教育という営みの中で、どのような実践が工夫されてきたか、教師がどのようなことに配慮しながら指導・支援を進めて行ったらよいかについて、具体的な事例に触れつつ考えていきたい。</p> <p>その際に、障害をもつ生徒や生涯発達という観点にも言及し、3年次に行う介護等体験に関する準備の一環とする。</p>	
		教育制度論	<p>現代社会での教育活動において、教育政策、教育制度、教育的慣習は非常に重要である。本講座では、それらのなかで、公教育制度という国家の教育の制度化を中心に多面的に考察を行う。教育制度の歴史的背景と現行制度を概観してその意義を理解するとともに、今日の教育問題についても考察する機会を設ける。</p> <p>到達目標は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育制度について、基本的な事項を理解する。(知識領域) 2. 教育制度に関する問題を学生が学生自身の問題として受け止め、自分が調べ考えたことを進んで発表できる。(技能領域) 3. 教育制度に関する今日の課題、明日の課題を通して、教育の未来を展望する態度を身に付ける。(態度領域) 	
		教育方法論 (ICT活用を含む)	<p>発問、指示、板書、説明、教材開発を中心に、授業の組み立て方、授業中の生徒への働きかけ方などを、理論を押さえて学ぶ。その中で、学ぶ側の主体的・対話的で協動的な学習の中で深い学びが実現していくことに気づき、教師の働きかけはそのような生徒の学びを促すことを理解するようを図る。</p> <p>なお、情報通信技術の発達により教育的な営みに大きな変革がもたらされている。教師の働きかけも、生徒の学びも情報通信技術の適切に利用により活性化することを視野に入れつつ、教育方法を多面的に捉えていく。</p> <p>さらに、教育評価についても、質的評価・量的評価双方にわたってデータの活用という観点を含め、理解を深めていく。</p>	
		特別支援教育概論	<p>インクルーシブ教育の理念を基本におき、学習上又は生活上の困難のある幼児・児童・生徒一人一人が、学ぶ場の如何に関わらず授業や学習活動に参加している実感及び達成感を持ちながら学び、生きる力を身につけていくことができるよう、幼児・児童・生徒の学習上又は生活上の困難性を理解する。</p> <p>その上で個別の教育的ニーズに対して、他の教員及び関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識及び支援方法を理解できるよう、理論的背景だけでなく、様々な指導事例を基にしたグループワーク(演習)を通して支援のあり方を学ぶ。</p>	
		教育課程論	<p>現代の学校は組織的かつ計画的に運営されている。この教育活動の組織・計画の中心的役割を担っているのが教育課程である。教育課程の編成の意義と方法を学び、学校教育について関心をもち、実際の教育現場の抱える課題について考えることを目標とする。</p> <p>到達目標は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程の意義を理解する。(知識領域) 2. 小学校・中学校・高等学校の教育課程の編成の現状を知る。(知識領域) 3. 教育課程実施上の配慮事項について事例を基に理解する。(知識領域) 4. 教育課程実施上の課題や今後の問題に積極的に関わろうとする態度を身に付ける。(態度領域) 	

資格課程科目(続き)	教職課程(続き)	特別活動の理論と方法	<p>特別活動の理論と方法を学び、学校教育における特別活動の意義と指導を理解する。本授業では、興味ある特別活動について各自で調べてまとめ、発表することを通じて、特別活動の大きな指標である「なすことによって学ぶ」を実感するように図る。</p> <p>到達目標は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特別活動の位置付けや役割を理解する。(知識領域) 2. 学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事等の具体的な活動の理解を通して、特別活動の内容を年間計画の中に適切に配置できる基盤を養う。(技能領域) 3. 特別活動の指導上の留意点や具体的な配慮事項を理解し、これからの課題に対して積極的に関わろうとする態度を身に付ける。(態度領域) 	
		生徒指導(進路指導を含む)	<p>生徒指導(進路指導を含む)の基礎的・基本的な内容を理解するとともに、教育現場に即した対応について考察を進めていく。また進路指導についても考察を深める。指導にあたっては生徒一人ひとりの置かれている状況を十分に考慮する必要があり、指導も一律でないことを考える。</p> <p>到達目標は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒指導の意義、理論と基本的な方法を理解し、実際の指導の仕方の基本を理解する。(知識領域) 2. 生徒指導に関する諸問題、教育を巡る諸課題の現状を知ろうとする態度を身に付ける。(態度領域) 3. 進路指導の意義について理解し、また、実際の指導の仕方の基本を理解する。(知識領域) 	
		教育相談	<p>カウンセリングマインドについて、また、教師にとってのカウンセリングマインドの重要性を理解し、カウンセリングマインドを備えた教師となるための基盤を修得する。</p> <p>到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒の心理を深く理解し、生徒の心の発達を促すことの重要性を理解する。 2. 様々な状態にある生徒の内面を受容的に理解するための技法の基本について理解する。 3. 心理的に適切な声掛け、働きかけや学校内外における対応の方法を理解し、その基本的姿勢を修得する。 	
		道徳教育の理論と方法	<p>道徳や道徳教育は大切なことであるはずなのに、なぜか、道徳を論じたり道徳教育をしたりすることが難しく、ためらいを感じることもある。道徳教育を考えていく手がかりは、この、大事だけれども難しい理由を理解するところにある。</p> <p>本講では、私たちの道徳に対するこのような態度を振り返ることから、道徳に関する検討を始める。そこから、教育基本法、学校教育法に基づく学習指導要領第3章「特別の教科 道徳」を理解し、学校における道徳教育のあり方、道徳科の指導計画や指導方法について知見を広め、自分自身の道徳教育観を構築し、道徳の授業の指導力を身につけるようにしていく。</p>	
		教育実習指導	<p>教育実習に対して、基本的な知識と心構えを学ぶ。</p> <p>教育実習で実際に体験する学校現場について、より具体的に学び、学校現場で実践する準備を整える。今年度教育実習に行った4年生の経験から学ぶ機会を設ける。</p> <p>到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習についての全般的・基本的な事項を理解できる。(知識領域) 2. 教育実習を行う際に不可欠な、学校の実践的な運営のあり方、教師の業務、留意事項等について、具体的実践的に理解できる。(知識領域) 3. 学生が自分自身の課題を把握し、より良い実習にしようとする態度を身に付ける。(態度領域) 	
		総合的な学習の時間の指導法	<p>総合的な学習の時間(以下「総合」)では、探究的な見方・考え方を働かせて、横断的・総合的な学習を行うことが重要である。本講義では、「総合」の理念や意義について理解した上で、実践事例研究等を通して学習指導案略案を作成し、指導の仕方、学習活動の評価等を実践する。</p> <p>到達目標は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「総合」が置かれた経緯や学習指導要領に定められた目標や考え方、留意点を知り、授業展開の写真を見て意義や原理について理解を深める。 2. 「総合」の年間指導計画及び単元計画作成を理解し、実際の展開事例をもとに、学習指導案(略案)を作成する。 3. 「総合」の模擬授業を行い、指導と評価の方法及びその留意点について、体験を通して学ぶ。 	
教職実践演習(中・高)	<p>教員養成最終段階に到達した学生が、教員として必要な資質、能力、知識、技能等を修得していることを確認し、もし不十分な要素がある場合には、各自の必要に応じて学習してそれを補い、十分な知識技能を修得している場合は、さらに深い知識や洗練された技能を身につける場とする。</p> <p>その際、教職課程全体を通じた履修カルテを利用した学修状況の検証と補完、教育実習をはじめとする体験学習に関するグループ協議、自己分析と反省を行う。</p> <p>(36 新居池津子・27 本城慎二・34 吉岡昌紀/4回)(共同)教育実習校再訪問から学ぶ、教師としての人生。</p> <p>(36 新居池津子/3回)教育実習における教科指導、学級経営、特別活動を振り返る。</p> <p>(27 本城慎二/3回)総まとめとして、学習・評価について、学力の三要素、評価と指導の一体化、アクティブラーニング、パフォーマンス評価課題、ルーブリックを考える。</p> <p>(34 吉岡昌紀/3回)大学での学びと教育実習をつなぐー生徒の学び、生徒の動機、生徒指導とそれらの理論</p>	オムニバス・共同(一部)		

資格課程科目（続き） 教職課程（続き）	教育実習I	教育実習という3週間以上の貴重な経験が「教育実習1」「教育実習2」の二つの授業の中心である。大学で、教育に関する基礎的理解に関する科目、教科及び教科の指導法に関する科目等で学んだ知識や技能を、中学校・高等学校という実際の教育の場で、自分自身で教育的働きかけを行う中で活用し、その体験をもとに学ぶ、貴重な機会である。大学では事前・事後指導を行う。 1. 教育実習を通じ、実践的な知識と技能を習得する。（知識・技能領域） 2. 学生自身の課題を発見し、積極的に改善しようとする態度を身に付ける。（態度領域）	
	教育実習II	「教育実習I」と同じ。 本学では中学校・高等学校両方の教員免許を取得することを学生には求めており、したがって教育実習も3週間以上を必修として課している。「教育実習1」「教育実習2」と単位を分けて科目を設定しているが、これは単位配分上の設定であり、科目の概要については「教育実習1」と異なるところはない。また、「教育実習1」「教育実習2」では、教育実習以外に、大学で事前指導・事後指導合わせて7回(735分)の授業を行なっているが、これも2つの授業で分けるところはない。	
	教育と法律	教育は制度として「法律」に支えられている。学級の児童・生徒数から授業時数まで法律によって決められている。学習指導要領も法律に準じるものとされている。このように法的な基盤が設定されている中で、教育はどのように行われ、教員にはどのような資質が必要とされるのか、具体的な事例を挙げながら分かりやすく解説する。最近の教育問題である「いじめ」「虐待」「体罰」についても法的側面に注目しつつ扱い、教育の在り方について考える授業とする。法律から見た教師の在り方、求められる資質についても触れ、学生一人一人が法令遵守の意識をもって教員を目指せるようにする。	
	現代教育問題	社会の著しい変化の中で、教育問題は多様に変容している。その中で学校に対する様々な要望や厳しい批判が後を断たないが、しかしそれは、教育への熱い期待の高まりの証ともいえる。このような実情を踏まえて、改めて現代社会の教育問題を探ると、とりわけ学校教育に関わっては、本来主人公であるべき子供の存在に正対していないという実態が見受けられる。 本講では、常に「はじめに子どもありき」の視点を明確に据えた上で、現在、学校を取り巻いている教育問題を取り上げ、その本質を見極め、問題解決への具体的な方法を明らかにする。この考察・検討を通じて、教育に真摯に取り組む実践意欲を培い、教師として果たすべき使命と責務を、自らの課題として捉えられるようにしていく。	
	学習科学	うまく学べない、できるようにならない、憶えられない…これらは、誰もが感じたことがある悩みだろう。しかし実は、誰もが持っている「学びのスイッチ」が入った状態だと、人は驚くほどうまく学ぶことができる。 授業では、学校での学びを超えて生活の中での様々な学びを取り上げ、なぜうまく学べているのか、学んでいなくても結果的にうまくいっているのかについて、心理学や民俗学の方法を使って解き明かす。さらに、そうした観察を通して、学校教育における学びの問題点や「学び上手」を生かす条件について考える。授業では、ビデオ視聴や教室内での簡単な実験や調査への参加を通じて、本当のデータをもとに考えられるよう配慮する。	
	国語科教育法I	中学校・高等学校の国語科の目標・内容を、学習指導要領を踏まえて理解するとともに、教育課程の中に位置づけられる教科・教材の本質を理解し、教材研究の方法を実践的に学ぶ。 1. 中学校・高等学校における国語科の教育課程と学習指導要領の構造についての検討を通じて、国語科教育の目標、育成を目指す資質・能力を理解し、国語科の学習指導要領における目標と内容について考察する。 2. 国語科の教材の学習材としての本質と具体的な学習の関係を、教材の特性に応じて、背景となる学問領域と関連させつつ検討し、学習材研究の在り方について理解を深める。	
	国語科教育法II	先行する教材研究や実践研究を踏まえながら教材研究を進め、自らの指導観に基づいた学習指導案を作成し、相互に検討する。 1. 中学校・高等学校における国語科の教材の学習材化を図り、学習指導要領の目標と内容、指導上の留意点を踏まえて、背景となる学問領域との関係を明らかにしながら、具体的な学習デザインを構想する。 2. 自らの指導観に基づく学習デザインを学習指導案としてまとめ、その学習の効果や実現性について検討・考察する。	
	英語科教育法I	【授業テーマ】学習指導要領の理念を実現する英語指導法 【授業概要】小・中・高等学校の英語教育の基軸となる学習指導要領について学び、学習指導要領と教科用図書(教科書)との有機的関連性、および小・中・高等学校の目標・内容の一貫性・段階性を理解する。コミュニケーション能力という概念および第二言語習得の代表的な理論を概観し、中・高等学校で育成を目指す3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」の英語指導法・指導技術を学ぶ。 【到達目標】 中学校及び高等学校の学習指導要領及び教科用図書(教科書)について理解している。 小・中・高等学校の学習指導要領の一貫性と段階性を理解し、説明できる。 第二言語習得論の視点から英語の授業を分析し、批判できる。 5つの領域の指導法・指導技術を理解している。	

資格課程（続き）	教職課程（続き）	英語科教育法Ⅱ	<p>【授業テーマ】コミュニケーションを支える英文法指導：言語の形式・意味・機能を関連付けた導入・練習・活用。</p> <p>【授業概要】中学校外国語（英語）の授業を展開できるよう、学習到達目標、単元目標、評価規準の設定、指導計画の作成のしかたを学ぶ。文法はコミュニケーションを支えるものであるという学習指導要領外国語の方針に基づき、form-meaning-use という言語の3側面から文法項目を導入・練習・活用する指導法を理解し、模擬授業を行う。英語科教育法Ⅰで学んだ知識も活用し、目標言語のインプットを豊富に与える模擬授業を工夫して行い、省察する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>学習到達目標・単元目標・評価規準を設定できる。</p> <p>form-meaning-use という言語の3つの側面から文法事項を導入・練習・活用する指導法を理解し、実践できる。</p> <p>文法事項を扱う模擬授業の実施とその省察を通して、授業改善の視点を身に付ける。</p>	
		イスパニア語科教育法Ⅰ	<p>スペイン語音声学・音韻論、およびそれに基づいたスペイン語発音の教授法を理解し、それに基づいた発音指導ができるようになる。</p> <p>1. スペイン語音声学・音韻論について講義と演習を行い、それに基づいて日本語母語話者に対する有効な発音指導法を考える。実際に学習指導案作成と模擬授業を行う。</p> <p>2. スペイン語音声学・音韻論の知識を得て、それを活かして日本語母語話者に対するスペイン語発音指導ができるようになる。</p>	
		イスパニア語科教育法Ⅱ	<p>スペイン語教育、教授法について、本講義の内容および到達目標は以下のとおりである。</p> <p>1. 中学校、高等学校での外国語科目学習指導要領について十分に理解し、説明できる。</p> <p>2. それをスペイン語教育という場合に適用した場合に、何を重視する必要があるか、どのようにすると効果的等かについて考察し、検討できる。</p> <p>3. 教師としての実践力をつけるために日頃からどのようにスペイン語力をアップしたらよいかについて自分で考え、実践を心がけることができる。</p>	
		社会科・地歴科教育法Ⅰ	<p>中学校社会科・高等学校地歴科指導法の理論と方法を、主に地理的分野の内容を中心にして理解する。</p> <p>中学社会科地理的分野・高等学校地歴科地理総合、地理探究の学習指導を通し、地理学と地理教育の接点を研究する。また指導を行う教師の立場から、実践的手法や留意しなければならない点について考察する。</p> <p>中学校社会科地理的分野・高等学校地歴科地理総合、地理探究の授業を担当するにふさわしい知識・理解・技能を身につけることが到達目標である。</p>	
		社会科・地歴科教育法Ⅱ	<p>中学校社会科・高等学校地歴科指導法の理論と方法を、主に歴史的分野の内容を中心にして理解する。</p> <p>中学社会科歴史的分野・高等学校地歴科歴史総合、日本史探究、世界史探究の学習指導を通し、歴史学と歴史教育の接点を研究する。また指導を行う教師の立場から、実践的手法や留意しなければならない点について考察する。</p> <p>到達目標は、中学校社会科歴史的分野・高等学校地歴科歴史総合、日本史探究、世界史探究の授業を担当するにふさわしい知識・理解・技能を身につけることが到達目標である。</p>	
		宗教科教育法Ⅰ	<p>カトリック・ミッションスクールにおける「宗教」の授業を行う上で必要となる基礎知識と諸技法を学ぶ。</p> <p>キリスト教の基礎的な知識を学ぶ講義に加え、生徒が自己理解を深めるワーク、グループ活動、ICTを活用したアクティブラーニングなどの具体的な授業の展開例を学び、受講者が相互に授業を検討する。さらに「宗教の授業とは何か」、「道徳とは何が異なるのか」、「生徒は宗教の授業に何を求めているのか」など、宗教の授業を行う上で深めたい本質的な問いを共に深める探究の場とする。</p>	
		宗教科教育法Ⅱ	<p>カトリック・ミッションスクールにおける「宗教」の授業を行う上で必要となる基礎知識と諸技法について、宗教科教育法Ⅰで学んだ基礎的な宗教の授業に関する知識を土台として、模擬授業を中心に授業を進める。そのなかで、教材比較やICTを活用した授業などについて、相互に研鑽し合いながらより良い宗教の授業を目指して探求する。</p> <p>1. 宗教科教育法Ⅰで学んだ基礎的な宗教の授業に関する知識を土台に模擬授業ができる。</p> <p>2. テーマに沿った教材や教具を選ぶことができる。また、必要であればICT機器を使った授業展開ができる。</p> <p>3. 模擬授業を行った後の検討会で正しく評価、提案、探求ができる。</p>	
		国語科教育法Ⅲ	<p>国語科教師を目指す者としての「基礎力」を確認し錬成することを目標とする。</p> <p>1. 生徒に国語科の基礎知識を正しく伝えられるように学生自身の知識を整理し直し、生徒に分かり易く伝える方法を考え、伝達能力を鍛える。</p> <p>2. 学習指導要領の全体像を確認し各教材の位置づけを把握する。</p> <p>3. 中学校・高等学校における実際を想定して適切な学習指導案を構想する。</p> <p>4. 「自ら学ぶこと」「自ら考え、鍛錬すること」「協働すること」を通して国語科教師としての実際的な力を身につける。</p>	

資格課程（続き）	教職課程（続き）	国語科教育法Ⅳ	<p>多種多様な教育現場を知り、実際の授業を構想・実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各教材の学習指導要領における位置づけを把握し、背景となる学問領域との関係を明らかにしつつ教材研究を行う。 2. 確立された指導法を学ぶと共に自らの指導法を工夫し、評価への理解に基づき、教育現場の実際に即した学習指導案を作成して模擬授業を実施する。 3. 模擬授業を振り返り一連の学習（準備から実施まで）を通して自らの授業改善を行う。 4. 実習を通し他者との協力、学び合い、高め合い、を学ぶ。 	
		英語科教育法Ⅲ	<p>【授業テーマ】第二言語習得の認知プロセスを活性化する英語学習法・指導法</p> <p>【授業概要】学習者が第二言語・外国語を習得する認知プロセスにおいて、インプット、インタラクション、アウトプットが果たす役割を理解する。これらを重視した指導を主に高等学校で展開する方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 第二言語・外国語の習得における認知プロセスを理解し、説明できる。 インプット、インタラクション、アウトプットを重視した指導法を理解している。</p>	
		英語科教育法Ⅳ	<p>【授業テーマ】第二言語習得の認知プロセスを活性化する内容中心教授法</p> <p>【授業概要】高等学校必修科目「英語コミュニケーション」の授業を展開できるよう、第二言語習得の認知プロセスを活性化する内容中心教授法を学び、模擬授業として実践する。模擬授業を第二言語習得の視点から内省・分析する。また、教材やICTの活用方法を知るとともに、ALT等とのティーム・ティーチングの方法について理解する。</p> <p>【到達目標】 第二言語習得の認知プロセスを活性化する内容中心教授法を理解し、実践できる。 題材内容を扱う模擬授業の実施とその省察を通して、授業改善の視点を身に付けている。 ICTの活用方法、ALT等とのティーム・ティーチングの方法について理解している。</p>	
		イスパニア語科教育法Ⅲ	<p>イスパニア語授業の中での使用できる教材について考える。 イスパニア語の授業で使える教材にはどんなものがあるかを考える。また、授業の中心になる教科書について、それぞれの内容を教授法などと照らして、比較したり、実際に授業に使う場合にはどのような工夫ができるかなどを考察したりする。さらに一つを選んで、授業プラン作成、それに基づく授業実践を行う。 授業で使用できる教材の種類と使用方法を列挙できる。 さまざまな教材、教科書の中から設定した授業目的にあった教材を選択することができる。 それぞれ提示される教材について、その長所、改善点を指摘し、授業でどのように工夫したら良いかを指摘できる。 コースの方針、目的にあった教科書を選択し、それに基づき授業計画、授業プランを作ることができる。 教科書を使って、必要あれば補助教材を準備して授業プランを具体化できる。</p>	
		イスパニア語科教育法Ⅳ	<p>授業活動、授業運営を考える（授業のさまざまな活動形態を検討する） 授業に関連するさまざまな要素を考えて、実際の授業を組み立てていきましょう。授業で行える具体的な活動—教員による説明、個人作業、ペア作業、グループ作業などの特徴を考え、学習者を見据えてより効果的な授業を行うためにどんなことができるかを考える。 教室活動のさまざまなタイプについてどのような意味があるか、どのような点に注意すべきかを指摘することができる それぞれの活動タイプを考えて、授業構成を考えることができる 学習者の学習スタイルを観察し、適切なアドバイス、学習ストラテジーの提案ができる 学習者の到達目標雨達成度を見ながら、適切なフィードバックのための活動を考案し、実施することができる</p>	
		社会科・公民科教育法Ⅰ	<p>中学校社会科・高等学校公民科教育の理論と方法を、主に公民的分野の内容を中心にして理解する。 中学社会科公民的分野・高等学校公民科公共、倫理、政治経済の学習指導を通し、政治学、経済学、哲学等諸学問と社会科・公民科教育の接点を研究する。また指導をおこなう教師の立場から、実践的手法や留意しなければならない点について考察する。 中学校社会科公民的分野・高等学校公民科公共、倫理、政治経済の授業を担当するにふさわしい知識・理解・技能を身につけることが到達目標である。</p>	
		社会科・公民科教育法Ⅱ	<p>中学校社会科・高等学校地歴科・公民科教育の理論と方法を、主に学習指導方法を中心にして理解する。 中学社会科・高等学校地歴科・公民科教育の実践的な学習指導を通し、現代の課題について研究する。また指導を行う教師の立場から、教師が陥りやすい問題点についても考察し、自らの学習指導案を作成する。 中学校社会科・高等学校地歴科・公民科の授業を学習指導案に書き表し、授業実践の知識・理解・技能を身につけることが到達目標である。</p>	
		宗教科教育法Ⅲ	<p>宗教科教育法Ⅲでは旧約聖書を中心に扱いながら、キリスト教の社会的問題（政治・文化・経済）に対する眼差しと取り組みを学び、宗教の授業にどのように展開するのかを探求する。 キリスト教の基礎的な知識、特に旧約聖書とキリスト教の社会的問題に対する眼差しと取り組みについて学ぶ。また、授業で活用できる自己理解を深めるワーク、グループ活動、ICTを活用したアクティブ・ラーニングなどの具体的な授業の展開事例を学び、受講者は授業展開の検討を行う。さらに「宗教の授業とは何か」など、宗教の授業を行う上で深めたい本質的な問いを深める探求の場とする。</p>	

資格課程 (続き)	教職課程 (続き)	宗教科教育法Ⅳ	カトリック・ミッションスクールにおける「宗教」の授業を行う上で必要となる基礎知識と諸技法を学ぶ。宗教科教育法Ⅳではキリスト教的人間観に基づく生命倫理を中心に扱い、宗教の授業でどのように展開するのかを探究する。 キリスト教の基礎的な知識、特にキリスト教的人間観に基づく生命倫理を中心として学ぶ。また、宗教科教育法Ⅲに引き続き、授業で活用できる自己理解を深めるワーク、グループ活動、ICTを活用したアクティブ・ラーニングなど具体的な授業の展開事例を学び、受講者は授業展開の検討を行う。さらに「宗教の授業とは何か」など、宗教の授業を行う上で深めたい本質的な問いを深める探究の場とする。	
	司書教諭課程	学校経営と学校図書館	司書教諭課程科目の中で、最も基礎となる科目である。 学校図書館に関する基本的な概念、法律、経営、職員制度等を知り、学校教育において司書教諭が果たす役割と在り方、各種の業務等について具体的に知り、また、現状とその課題について考察する。 本授業の到達目標は以下のとおりである。 1. 学校図書館について広く学ぶ。 2. 司書教諭になった時に活躍できるように、学校図書館業務に関する基本的な知識と技術を身に付ける。	
		読書と豊かな人間性	子ども達に読書の楽しさを伝え、子ども達と読書を結びつけるための手立てとして、ブックトークや読み聞かせ、読書のアニメーション、ビブリオバトルなど多くの読書活動を紹介する。特に学校のいろいろな場面で活用できるブックトークは、学生が発表も行う。また、子どもたちを取り巻く読書環境として、国や都道府県の取組を学び、子ども達にとっての読書についても考察を深める。 本授業の到達目標は以下のとおりである。 1. 子どもたちの「豊かな感性や情操」「思いやりの心」を育む「読書センター」機能を持つ学校図書館をつくるための司書教諭の仕事の説明ができる。 2. 国・都道府県で取り組む、子どもの読書活動の推進施策について理解する。 3. 多様な読書活動を知り、読書指導にいかすことができる。	
		学校図書館メディアの構成	学校図書館メディアの種類とコレクション構築、組織化について。 学校図書館が、学習センター、情報センター、読書センターとして機能し、学校図書館を活用した授業が展開されるためには、授業に必要な図書その他のメディアが収集され、利用しやすく組織化されることが欠かせない。この点をふまえ、学習・読書活動を支えるメディアの種類を知り、学校図書館メディアの構成の一連のプロセスとしての選択、収集、組織化(目録法、分類法、件名法)、更新等について理解することを目標とする。 授業では、講義、演習、グループワーク、発表をまじえて学んでいく。	
		学習指導と学校図書館	子ども達が発達段階に応じて、学校図書館メディアを選択し、利用できるようにする方法を具体的に学んでいく。子ども達の主体的な学びや探究的な学習を理解するために、実際に「調べ学習」を体験して、司書教諭がどのような支援をしたらよいのか考えていく。また学校図書館を授業でどういかしていけばよいのか、その活用法も学んでいく。 本授業の到達目標は以下のとおりである。 1. 学校図書館と教育課程との関連が理解し、授業でいかすことができる。 2. 探究的な学習、「調べ学習」を行うためのスキルの指導・支援ができる。	
		情報メディアの活用	一般図書以外の、各種メディアとネットワークを活用した学習環境について、具体的な教材例・環境事例を見て、また、履修者自身がそうした学習環境を体験しながら、考えていく。 特に次の問題について深く議論したい。 ・教授学習活動においてデジタルメディアを利活用する上での諸問題 ・教育における新聞の活用 本授業の到達目標は以下をとおりである。 1. 個々の教授学習活動に適したメディアの選択とその活用方法を提案できる。 2. デジタルメディアとネットワークにおける情報の検索と複製に関わる諸問題を理解して、それに対応する方法を提案できる。 3. 学校教育における新聞の活用方法を提案できる。	
		学芸員課程	生涯学習概論	幼児や成人が学校外で「学習」していることは経験上多くの人が知っていることだろう。これらの、人々が学習する多様な機会・場面・課題等へ注目することを通して「教育」や「学習」を問い直し、学校教育・家庭教育・社会教育と生涯学習との関連や、社会教育の本質と重要性を理解し、多様な人々の学習活動を支援する学芸員として必要な知識や基礎的能力を身につけることをテーマとする。 さらに、行政・制度・施策や学芸員を中心とする専門的職員の役割等についても学び、生涯学習に関する基礎知識を獲得することを目標とする。 以下を到達目標とする。 1) 人の生き方と社会のあり方が、「学習」活動と切り離せないものとして考えられるようになった「生涯学習」の考え方を理解して、 2) 学芸員等々々の学習の支援者として、多様な人々の学習を支援するために必要な基礎知識を得て、 3) 本質的・多面的なものとのとらえ方ができるようになる。
	博物館情報・メディア論		「博物館情報・メディア論」は学芸員資格取得の必修科目である。国内外の博物館・美術館のホームページ、広報活動、収蔵品のアーカイブなど、デジタル技術を使った事例を解説し、事例を数多く画像で紹介する。履修者が博物館のホームページを調べ、その活用と課題を指摘できること、デジタル技術で何が実現できるかを理解すること、今後の博物館活動のあり方について、自分の意見を具体的な事例を示しながら説明できることを到達目標とする。	

資格課程（続き）	学芸員課程（続き）	博物館学	「博物館学」は学芸員資格取得の必修科目である。博物館の定義、分類、組織、機能、欧米と日本における成立の歴史、経営などとともに、学芸員の定義、職責、専門家として必要とされる技術と意識、現代社会の中での存在意義などについて、具体的な事例や博物館法ほかの諸規定を参照しながら基本的な知識を学ぶ。履修者が将来博物館での業務に参画するために求められる知識と考察力の基礎を習得することで、次年度の「博物館実習」に備えられる素養を持つことを到達目標とする。	
		博物館資料論	「博物館資料論」は学芸員資格取得の必修科目である。日本における人文系博物館の成立過程と、その中で博物館資料（一次資料、二次資料）がどのように形成されてきたか、また今後の博物館資料をどのように考えるべきかを、収集・分類・整理・調査研究、資料目録の作成などの問題について具体的に学ぶ。博物館の成立過程や存在意義を博物館資料の側から理解して、次年度の「博物館実習」に備えられる素養を持つことを到達目標とする。	
		博物館教育論	「博物館教育論」は学芸員資格取得の必修科目である。昨今、国内では「文化財の活用」や「博物館と地域社会との連携」がクローズアップされ、予算・人材の不足や来館者の獲得といった問題を抱えるなか、博物館がこのような新たな役割とどのように向き合うのかは大きな課題となっている。本講義では博物館の「教育施設」としての在り方について様々な角度から見てゆき、履修者が今日的な課題を理解したうえで、さまざまな事例から自身で問題意識を持ち、博物館教育の実践的な手段と方法を考察できるようになることを到達目標とする。	
		博物館展示論	「博物館展示論」は学芸員資格取得の必修科目である。本講義では博物館展示の定義、歴史、手法を把握するとともに、展示の役割と現状を理解することを通じ、これからの博物館展示について考察する。同時に、国内外の博物館展示の具体的な事例から、展示デザインの役割について幅広く知る。履修者が博物館展示に関する基本的な概念と基礎的知識を習得し、一学芸員として課題を設定しうる能力を養成することを到達目標とする。	
		博物館資料保存論	「博物館資料保存論」は学芸員資格取得の必修科目である。博物館資料周囲の環境は資料の保存状態に大きく影響を及ぼすため、環境（展示環境・収蔵環境・輸送環境）を適切に整えることで資料の劣化を緩和できる。一方、適切な環境を維持しても資料の修理が必要な局面も多く、環境と修理に関する活動を効果的に取り入れる考え方が重要となる。本講義では上記の内容について博物館の現場から得られる具体的な情報を学び、学芸員および博物館と関わるさまざまな職種が、資料保存とどのように関わることができるのかを考えられるようになることを到達目標とする。	
		博物館実習	「博物館実習」は学芸員資格取得の必修科目である。「博物館学」および「博物館資料論」を履修した学生に、各自が選んだ学外の博物館の内部で実際に行われている活動の一端を体験させる。学内の講義・実習と学外の博物館・美術館における1ないし2週間の実習とを組み合わせる。学内実習では学外実習を受けるのに最低限必要になる博物館資料の取扱いを習得する。学芸員課程履修の総まとめとして、博物館内部の活動を経験し、博物館業務の実際や内部で働く学芸員の今日的意義を理解することを到達目標とする。	共同
基幹教育科目	清泉スタンダード	スタートアップ・ゼミナール	本授業では、大学で学ぶための基礎的な環境やルールについて学ぶ。また、清泉女子大学のルールブックであり、またガイドブックでもある「学生要覧」や学生生活上の注意すべき点や重要な点を学ぶ。また、アセスメントテストを受験し、またその解説から現在の自分の能力について知る。さらに、ZoomやLMS(授業で使用するウェブサイト)の使用法を学ぶとともに、自分の健康状態について確認し、大学での学修や学生生活に必要な知識を学ぶ。	
		初年次ゼミナール	清泉女子大学に関わりの深いテーマ、「女性」と「平和」について学びながら、「大学への学び」に求められる基礎的な力を学ぶ。女性と平和に関するテーマの講義を聴き、文献等から基礎的な知識を学んだ上で、現代的な問題について多様な切り口があることを踏まえながら、それぞれのテーマに関する学生の知見を広げる。その過程を通じて、レポートの書き方、図書館の使い方、文献検索やデータベースの使い方などを身につけ、またグループ・ディスカッションや発表などを、学生自らが主体的におこなえるようにする。	
		初年次ゼミナール	初年次ゼミナールの再履修者を対象に、レポートの書き方や図書館の使い方、文献検索の方法やデータベースの使い方など、大学で学ぶための基礎的な力を養成する。学期末課題にレポートを課す。再履修クラスという特性を考慮し、個々の進捗や特性に応じつつ、個別指導を重視し、指導する。	
		キャリア・デザイン I	卒業後のキャリアを視野に入れ、大学での学びを社会で生かしていくことを学ぶ。「キャリア」という考え方が、社会における役割、つまり働くことと私的生活の両方を含む広い概念であることを学んだ上で、「キャリア」を考えるため様々な現代社会の課題に注目していく。ジェンダーとキャリアの概念を踏まえ、卒業後にに向けたキャリアの概念を獲得し、自らの将来に主体的に向き合う態度を涵養する。さらに大学での学びを通じて経済や社会、家庭や個人の役割の変化を理解し、社会人としての将来の自己イメージを具体的にしていく。	

基幹教育科目（続き） 清泉スタンダード（続き）	スペイン語の世界	<p>本科目では、本学のルーツに深く関わるスペイン語の基礎を、スペイン語が使用される地域のライフスタイルや価値観に触れながら学んでいく。身近な事柄を表現するためによく用いられる語彙や文構造を中心に学び、正確な発音も身につけていく。①スペイン語が使われる国や地域の文化や社会に親しみ、本学とスペイン語の関わりに関心を寄せること、②スペイン語の発音や綴りに慣れ、基本的な動詞の活用や、日常よく用いられる語彙を覚えること、③スペイン語の日常的な表現を理解し、用いることができるようになることを目標とする。</p>	
	人間論	<p>本授業は、建学の精神であるキリスト教について、多様な観点より学ぶことを目的とする。4人の教員がオムニバス形式で授業を行い、キリスト教の人間観や世界観を学ぶことで、自らの人生観や生き方に立ち止まって考える。 (オムニバス形式／全13回) (25 竹田文彦／3回) キリスト教人間観の基礎について指導する (17 井上まどか／3回) Beyond gender の人間学について指導する (34 吉岡昌紀／3回) 心理学から見た人間について指導する (19 坂田奈々絵／3回) 他者とはなにかを指導する (35 藤本夕衣／1回) 人間論の科目の意義、キリスト教大学としてのアイデンティティについて指導する</p>	オムニバス
	キリスト教学Ⅰ	<p>本授業は、聖書にもとづき、キリスト教の基礎的な知識(思想・歴史・文化など)を学ぶことを目的とする。キリスト教成立以前について、また、イエスの生涯、聖書のエピソードを学ぶことを通して、「キリスト教とはいったいかなる宗教であるか」を考える。また、こうした基礎的な事柄を学ぶなかで、各自、具体的に「キリスト教を生きるとはどのようなことなのか」ということを考える。</p>	
	キリスト教学Ⅱ	<p>本授業では、「キリスト教学Ⅰ」での学びを踏まえ、さらにより詳しく、キリスト教に関する事柄について理解を深める。具体的には、キリスト教の信仰を生きだした聖人の生涯や、キリスト教の中心的概念(愛など)、あるいは中心的な儀式であるミサについて等の詳細を学ぶ。具体的、専門的にキリスト教について学び、様々な側面からキリスト教についての知見を深めつつ、現在の私達自身との関わりや影響、その意味について考える。</p>	
	健康・安全管理	<p>大学生活および卒業後の人生をよりよいものとするために、「健康」かつ「安全」に生きるための知識を習得する。①身体の構造と働き、栄養・運動・休養の重要性、②社会保障制度(セーフティーネット)や犯罪被害防止に関する知識、③感染症とその予防、④心の健康に焦点を当てたストレスマネジメントと働く人のメンタルヘルス、という幅広い内容について、それぞれを専門とする教員が解説し、理解と実践につなげる。 (オムニバス形式／13回) (35 藤本夕衣／10回) ①の内容(生理学、解剖学、女性の生理、栄養、運動)、②の内容(年金、ハラスメント、カルト、犯罪被害防止)、④の内容(心の健康に焦点を当てたストレスマネジメントと働く人のメンタルヘルス)、まとめと理解度の確認(最終回)※①②④は、授業内講演講師を招いて実施。 (143 津久井久美子／3回) ③の内容、感染および免疫応答の理解。予防方法の原理と実践。性感染症の最新の世界的動向と海外旅行リスク。飲食物からの感染症。</p>	オムニバス
	情報環境の構築	<p>必携とされている各自のBYOD PCを、大学で学ぶための基本環境として整え、それを活用するスキルを身につける。そのために、まずは、PCに対して、必要な設定を行い、ソフトウェアを導入する。そして、勉学など学生生活のために活用すべきシステムの利用方法を学び、さらに、学内・学外の情報にアクセスして資料を検索・入手して、それを読解したり、レポートで参照したり、プレゼンテーションで説明したりする実習を進める。</p>	
	情報環境の構築	<p>必携とされている各自のBYOD PCを、大学で学ぶための基本環境として整え、それを活用するスキルを身につける。そのために、まずは、PCに対して、必要な設定を行い、ソフトウェアを導入する。そして、勉学など学生生活のために活用すべきシステムの利用方法を学び、さらに、学内・学外の情報にアクセスして資料を検索・入手して、それを読解したり、レポートで参照したり、プレゼンテーションで説明したりする実習を進める。</p>	共同
	データリテラシー基礎	<p>必携とされているBYOD PCを用いて勉学や社会活動に必要とされるデータを検索・取得・整理し、また、そのPC上表現する実習を行う。それを通して、他者がデータを用いて事実や意見を説明する内容を批判的に解釈するスキルや、自身がデータを用いて事実や意見を効果的に説明するスキルを身につける。そのために、データの検索・取得・整理、基本的な記述統計量の算出、表からグラフへの変換、グラフ種類の選択、データと主張との関係、などを、社会の実統計データを用いて操作する。</p>	
	情報社会の安全と倫理	<p>自分に関わる情報環境を社会の中で適切に認識して管理して活用するスキルを身につけるとともに、AI・データサイエンスを安全かつ効果的に活用するための認識を身につける。そのために、BYOD PCやスマートホン初めとした自分の日常を構成する情報環境の設定・利用、および、それらから発信される情報とその影響を正しく把握するための基本知識を学ぶ。さらに、自身が情報の発信者や情報環境への参加者となることで世界に対してどのような影響を与えるかについて考えられるようになることを目指す。</p>	

基幹教育科目（続き）	必修外国語	First-year English: Integrated Skills	この講座は、英語の4技能（読む、書く、聞く、話す）を統合して使用することができる、実践的英語能力を伸ばすことを目的とする。授業では1技能だけでなく、2技能を統合したタスク（例：リーディングやリスニングの内容に基づいたスピーキングやライティング）を多用し、英語による理解力と発信力を養成する。また、授業外学修として e-learningを用い、学生ひとりひとりの習熟度、さらには強み、苦手な点に細やかに対応した学修を可能とする。	
		First-year English: Seisen Studies in English	The aim of this course is to enhance students' four skills in English (reading, listening, speaking, and writing) by way of watching assigned videos and working on tasks on the textbook. Discussion and other skill-based tasks will be employed. This course furthermore focuses on learning vocabulary and grammar that students can use in actual communication. (和訳)この講座では、CLIL(内容言語統合型学習)を採用した授業を実施する。CLILとは、教科科目やテーマの内容(content)の学習と、外国語(language)の学習を組み合わせた(integrated)言語習得アプローチを意味する。授業ではビデオ教材や教科書に提示された課題を使って、清泉を英語「で」学ぶことを主要な目的とすると同時に、英語の4技能(読む・聴く・話す・書く)を養うことを目指す。授業では、ディスカッションその他のスキルを使うタスクにも取り組む。さらに、実際のコミュニケーションで使用する語彙や文法の習得にも重きを置く。	
		First-year English: Basic English HC a	この講座は、英語のリスニング・スピーキング・リーディング・ライティングの四技能について、基礎的事柄を学び直し、基本的英語知識の定着と、基礎的英語運用能力の習得を目的とする。授業ではテキストに沿って学習をすすめると共に、ワークブックや課題を有効に用いて、テキストで学習した事柄の定着を図る。また、授業外学修として e-learningを用い、学生ひとりひとりの習熟度、得意とする点、苦手な点に細やかに対応した学修を可能とする。	
		First-year English: Basic English HC b	この講座は、英語のリスニング・スピーキング・リーディング・ライティングの四技能について、基礎的事柄を学び直し、基本的英語知識の定着と、基礎的英語運用能力の習得を目的とする。前期の学習内容を踏まえて発展的内容も扱う。授業ではテキストに沿って学習をすすめる、ワークブックや課題を有効に用いて、テキストで学習した事柄の定着を図る。また、授業外学修として e-learningを用い、学生ひとりひとりの習熟度、得意とする点、苦手な点に細やかに対応した学修を可能とする。	
		Second-year English: English Seminar	This course employs a teaching methodology called CLIL (Content and Language Integrated Learning), which integrates content, communication, cognition, and community with English language learning. The aims of this course are to enhance students's four skills in English (reading, listening, speaking, and writing) by studying specific content and using English as a tool to understand the content. Tasks include reading and listening to authentic material, and speaking and writing on relevant topics. This course also focuses on enhancing learning skills and critical thinking skills through individual and group activities such as self-reflection and discussion. Further, (和訳)この講座は、CLIL(内容言語統合型学習)を使用する。CLILは、教科科目やテーマの内容(content)の学習と、外国語(language)の学習を統合した(integrated)言語習得アプローチである。この講座の目的は、特定の内容に着目し、内容理解の道具として英語を使うことにより、英語の4技能(読む・聴く・話す・書く)を伸ばすことである。読解力や聴解力を養うタスクには、真正性の高い教材を使う。また、英語を話し、書くのに適したトピックを用いてタスクに取り組む。さらに、学ぶ技術や批判的思考を身につけるために、自己内省やディスカッションといった個人活動やグループ活動を行う。	
選択外国語	English Skills Workshop (Extensive Reading) a	The aim of this course is to enhance students' reading skills in English through extensive reading and other language-related tasks. Students will have the opportunity to read for enjoyment, appreciate stories, and simultaneously enhance their English proficiency. (和訳)この講座の目的は、多読とそれに関連する英語学習タスクを通じて、学生の英語習熟度を向上させることである。授業では、学習者向けの洋書(graded readers)を用い、学生達は楽しむために英語で書かれた様々なジャンルの読み物に触れる機会を与えられる。これにより学生は、物語等を楽しんで読むことを通じて、英語力(特に読解力)を身に付けることができる。また、授業内タスクを通じて、多読への関心を更に深めたり、言語的な気づきを促し、言語習得を助けることができる。		
	English Skills Workshop (Extensive Reading) b	The aim of this course is to enhance students' reading skills in English through extensive reading and other language-related tasks. Building on the first semester course, it covers more advanced skills and contents. Students will have the opportunity to read for enjoyment, appreciate stories, and simultaneously enhance their English proficiency. (和訳)この講座の目的は、多読とそれに関連する英語学習タスクを通じて、学生の英語習熟度を向上させることである。前期の学習内容をふまえてより高度なスキルや発展的内容を扱う。授業では、学習者向けの洋書(graded readers)を用い、学生達は楽しむために英語で書かれた様々なジャンルの読み物に触れる機会を与えられる。これにより学生は、物語等を楽しんで読むことを通じて、英語力(特に読解力)を身に付けることができる。また、授業内タスクを通じて、多読への関心を更に深めたり、言語的な気づきを促し、言語習得を助けることができる。		

基幹教育科目（続き） 選択外国語（続き）	English Skills Workshop (Active Skills for Communication) a	<p>The aim of this course is to enhance students' active conversation and discussion skills in English. Students will engage in conversations on a variety of personalized topics to foster fluency and conversational proficiency. Additionally, they will explore educational, social, and environmental issues to develop the skills required for expressing ideas and opinions effectively. Through the preparation of short speeches and presentations, students will also develop the ability to logically structure their opinions and arguments.</p> <p>(和訳)この講座は、学生が英語を使用して活発に会話をする能力や、英語でディスカッションをおこなう技術の向上を目的とする。学生は、流暢さを向上させ、会話力を養うために、教育、社会、そして環境問題といったトピックを自分に関連付けて考え、英語で話す技術を養っていく。この講座ではまた、学生がディスカッションや短いプレゼンテーションを行う機会がある。プレゼンテーションの準備段階において、自分の意見や主張を論理的に組み立てる力を培うことができる。</p>
	English Skills Workshop (Active Skills for Communication) b	<p>The aim of this course is to enhance students' active conversation and discussion skills in English. Building on the first semester course, it covers more advanced skills and contents. Students will engage in conversations on a variety of personalized topics to foster fluency and conversational proficiency. Additionally, they will explore educational, social, and environmental issues to develop the skills required for expressing ideas and opinions effectively. Through the preparation of short speeches and presentations, students will also develop the ability to logically structure their opinions and arguments.</p> <p>(和訳)この講座は、学生が英語を使用して活発に会話をする能力や、英語でディスカッションをおこなう技術の向上を目的とする。前期の学習内容をふまえてより高度なスキルや発展的内容を扱う。学生は、流暢さを向上させ、会話力を養うために、教育、社会、そして環境問題といったトピックを自分に関連付けて考え、英語で話す技術を養っていく。この講座ではまた、学生がディスカッションや短いプレゼンテーションを行う機会がある。プレゼンテーションの準備段階において、自分の意見や主張を論理的に組み立てる力を培うことができる。</p>
	English Skills Workshop (Academic Listening)	<p>The aim of this course is to develop students' academic listening skills. The course covers note-taking skills as well. In class, students will have opportunities to listen to lectures on a variety of topics while taking notes. Students will also have opportunities to work in pairs and groups, which will help them enhance their understanding of the lectures they have just listened to. The activity will also help them improve their listening skills.</p> <p>(和訳)このコースの目的は、学生の学術的なリスニングスキルを養成することである。加えて、このコースではノートテイキングのスキル養成も扱う。授業では、学生はノートを取りながらさまざまなトピックに関する講義を聞く機会を与えられる。この講座はリスニングに焦点をあてるが、ペアやグループワークも取り入れてゆく。ペアやグループで活動をおこなうことにより学生は、聞いた講義の理解を向上させることができ、リスニングスキル向上を助けることにもつながる。</p>
	English Skills Workshop (Advanced Academic Listening)	<p>The aim of this course is to develop students' academic listening skills. The course covers note-taking skills as well. It covers more advanced skills and contents compared to English Skills Workshop (Academic Listening). In class, students will have opportunities to listen to lectures on a variety of topics while taking notes. Students will also have opportunities to work in pairs and groups, which will help them enhance their understanding of the lectures they have just listened to. The activity will also help them improve their listening skills.</p> <p>(和訳)このコースの目的は、学生の学術的なリスニングスキルを養成することである。加えて、このコースではノートテイキングのスキル養成も扱う。English Skills Workshop (Academic Listening)と比較して、より高度なスキルや発展的内容を扱う。授業では、学生はノートを取りながらさまざまなトピックに関する講義を聞く機会を与えられる。この講座はリスニングに焦点をあてるが、ペアやグループワークも取り入れてゆく。ペアやグループで活動をおこなうことにより学生は、聞いた講義の理解を向上させることができ、リスニングスキル向上を助けることにもつながる。</p>
	English Skills Workshop (Academic Writing)	<p>この講座の目的は、アカデミック・ライティングで用いられるパラグラフ(段落)の構成法を学び、読みやすく客観性・論理性・一貫性を備えたパラグラフを書けるようにすることである。また、パラグラフの集合体であるエッセイの構成についても学ぶ。パラグラフ、エッセイの両方について、発想から構想・整理・アウトラインの段階を追って文章を作成していく。またこれらと並行して、センテンス(文)レベルの英文作成について復習する。</p>
	TOEIC対策講座 Pre-intermediate a	<p>この講座では、TOEICの解答テクニックに捕らわれすぎることなく、英語力全般を向上させることを視野に入れた学習をすすめてゆく。その結果として、TOEICのスコアを伸ばすことがこの講座の目的である。授業では、TOEICテスト形式の問題を中心に用いて問題を解き、正解や誤答をの理由を考えてゆく。このような過程を通じて、英語そのものへの理解を深め、リスニング力、文法力、リーディング力の向上と、語彙力の強化をはかる。</p>
	TOEIC対策講座 Pre-intermediate b	<p>この講座では、TOEICの解答テクニックに捕らわれすぎることなく、英語力全般を向上させることを視野に入れた学習をすすめてゆく。その結果として、TOEICのスコアを伸ばすことがこの講座の目的である。この科目は、前期科目とは異なった内容・問題を扱う。授業では、TOEICテスト形式の問題を中心に用いて問題を解き、正解や誤答をの理由を考えてゆく。このような過程を通じて、英語そのものへの理解を深め、リスニング力、文法力、リーディング力の向上と、語彙力の強化をはかる。</p>

TOEIC対策講座 Intermediate a		この講座では、TOEICの解答テクニックに捕らわれすぎることなく、英語力全般を向上させることを視野に入れた学習をすすめてゆく。その結果として、TOEICのスコアを伸ばすことがこの講座の目的である。授業では、TOEICテスト形式の問題を中心に用いて問題を解き、正解や誤答をの理由を考えてゆく。このような過程を通じて、英語そのものへの理解を深め、リスニング力、文法力、リーディング力の向上と、語彙力の強化をはかる。	
TOEIC対策講座 Intermediate b		この講座では、TOEICの解答テクニックに捕らわれすぎることなく、英語力全般を向上させることを視野に入れた学習をすすめてゆく。その結果として、TOEICのスコアを伸ばすことがこの講座の目的である。この科目は、前期科目とは異なった内容・問題を扱う。授業では、TOEICテスト形式の問題を中心に用いて問題を解き、正解や誤答をの理由を考えてゆく。このような過程を通じて、英語そのものへの理解を深め、リスニング力、文法力、リーディング力の向上と、語彙力の強化をはかる。	
TOEIC対策講座 Advanced a		The aim of this course is to develop students' skills necessary to do well on the TOEIC Listening and Reading Test. It focuses on building the range and understanding of language use and on developing awareness of the key testing strategies needed to get a high score. The course will familiarize students with the Listening and Reading components of the TOEIC test and provide sufficient practice of all sections. (和訳)この講座は、TOEICのリスニングとリーディングで高得点を取得するのに必要とされる、英語ならびに受験スキルの向上を目指す。授業では、学生の言語使用への理解を深めるとともに言語使用の範囲を広げてゆく。また、高得点をとるために必要である、受験テクニックへの気づきを高めることもおこなっていく。TOEICのリスニングやリーディングのパートの試験形式、問題に慣れるための練習機会も十分に設ける。	
TOEIC対策講座 Advanced b		The aim of this course is to develop students' skills necessary to do well on the TOEIC Listening and Reading Test. It focuses on building the range and understanding of language use and on developing awareness of the key testing strategies needed to get a high score. This course covers contents and questions that are different from those covered in the first semester course. The course will familiarize students with the Listening and Reading components of the TOEIC test and provide sufficient practice of all sections. (和訳)この講座は、TOEICのリスニングとリーディングで高得点を取得するのに必要とされる、英語ならびに受験スキルの向上を目指す。授業では、学生の言語使用への理解を深めるとともに言語使用の範囲を広げてゆく。また、高得点をとるために必要である、受験テクニックへの気づきを高めることもおこなっていく。この科目は、前期科目とは異なった内容・問題を扱う。TOEICのリスニングやリーディングのパートの試験形式、問題に慣れるための練習機会も十分に設ける。	
留学準備TOEFL-ITP対策講座 a		The aim of this course is to enhance students' overall English abilities, thereby improving their TOEFL-ITP scores. Students will have the opportunity to practice reading, writing, speaking, and listening skills within the context of the TOEFL test. The target TOEFL score is 500. (和訳)この講座は、TOEFLの解答テクニックに捕らわれすぎることなく、学生の総合的な英語力を伸ばすことによって、TOEFL-ITPのスコアを向上させることを目的とする。授業ではTOEFLテストに使用されるような素材を読んだり、聞いたりする。また、TOEFLテストで用いられるようなトピックについて書いたり、話したりする機会も与え得られる。この講座を受講した後に、学生が取得できることを目標とするTOEFL ITPスコアは500点である。	
留学準備TOEFL-ITP対策講座 b		The aim of this course is to enhance students' overall English abilities, thereby improving their TOEFL-ITP scores. This course covers contents and questions that are different from those covered in the first semester course. Students will have the opportunity to practice reading, writing, speaking, and listening skills within the context of the TOEFL test. The target TOEFL score is 500. (和訳)この講座は、TOEFLの解答テクニックに捕らわれすぎることなく、学生の総合的な英語力を伸ばすことによって、TOEFL-ITPのスコアを向上させることを目的とする。この科目は、前期科目とは異なった内容・問題を扱う。授業ではTOEFLテストに使用されるような素材を読んだり、聞いたりする。また、TOEFLテストで用いられるようなトピックについて書いたり、話したりする機会も与え得られる。この講座を受講した後に、学生が取得できることを目標とするTOEFL ITPスコアは500点である。	
留学準備TOEFL S&W対策講座		The aim of this course is to enhance students' speaking and writing abilities in English, thereby improving their TOEFL S&W scores. This course will review the four types of questions on the TOEFL Speaking sections and the two types on the TOEFL Writing sections. (和訳)この講座の目的は、この講座は、TOEFLの解答テクニックに捕らわれすぎることなく、学生の英語におけるスピーキングとライティング能力を向上させ、その結果としてTOEFLのスピーキングおよびライティングのスコアを向上させることである。このコースでは、TOEFLのスピーキングセクションの4つのタイプとライティングセクションの2つのタイプを扱い、学生の発信力を高め、留学に必要なTOEFL S&Wスコアを取得することを目指す。	

基幹教育科目（続き） 選択外国語（続き）	留学準備IELTS対策講座 a	The aims of this course are to improve students' IELTS scores and build their language proficiency. It will help students stay focused to get the IELTS band score they need, thereby helping them to achieve their goals, whether it's to get a better job, get on to a university course abroad or for visa requirements when studying abroad. As a result, students will also build their self-confidence by trying to achieve their own clear study goals. (和訳)この講座は、学生のIELTSの得点向上を言語使用能力の向上を目的とする。学生が目標とするIELTSのバンド・スコアに到達できるように指導をしていく。目標スコアの達成によって、その先に学生自身が自らの目標として持つもの、例えば、より良い仕事、海外留学、留学で必要とされるビザの習得などが達成できるように援助をしていく。また、学生自身が自身の明確な学習目標を到達しようとすることによって、自分への自信を培うことも可能となる。
	留学準備IELTS対策講座 b	The aims of this course are to improve students' IELTS scores and build their language proficiency. It will help students stay focused to get the IELTS band score they need, thereby helping them to achieve their goals, whether it's to get a better job, get on to a university course abroad or for visa requirements when studying abroad. As a result, students will also build their self-confidence by trying to achieve their own clear study goals. This course covers contents and questions that are different from those covered in the first semester course. (和訳)この講座は、学生のIELTSの得点向上を言語使用能力の向上を目的とする。学生が目標とするIELTSのバンド・スコアに到達できるように指導をしていく。目標スコアの達成によって、その先に学生自身が自らの目標として持つもの、例えば、より良い仕事、海外留学、留学で必要とされるビザの習得などが達成できるように援助をしていく。また、学生自身が自身の明確な学習目標を到達しようとするによって、自分への自信を培うことも可能となる。この科目は、前期科目とは異なった内容・問題を扱う。
	英検対策講座 a	この講座は、英検2～準1級受験へ向けて必要な英語力を強化することを目的とする。英検受験・合格を目指して、読解力、リスニング力、スピーキング力を強化する。この講座では、これまでの英語力をブラッシュアップしながら、英検2級の問題形式に対応した教材の練習問題を解き、主体的に学習することで英検受験の準備・対策を行う。単語力、文法の理解なども強化していく。また習熟度に応じて、準1級対策につながる練習問題も適宜、取り入れていく。
	英検対策講座 b	この講座は、英検準1級受験・合格へ向けて必要な英語力を強化することを目的とする。英検準1級の受験・合格を目指して、読解力、リスニング力、ライティング力およびスピーキング力をさらに強化していく。英検2級及び準1級の問題形式に対応した教材の練習問題を解き、主体的に学習することで英検受験の準備・対策を行う。さらに学習した英語の知識を実践的な場面で運用できるように、より正確な理解力を身に付け、表現力の強化することを目指す。
	Business Communication	The aim of this course is to develop students' English skills necessary for international business communication. Students will practice business English through activities in which they will utilize the four language skills to communicate ideas in a formalized context. (和訳)この講座の目的は、国際ビジネスの場面におけるコミュニケーションのために必要となる英語スキルを養成することである。学生が将来、国際ビジネスの場面で英語を用いて意思疎通ができるように、この授業ではビジネス英語を用いた訓練を行う。英語四技能(読む、聞く、話す、書く)を活用する言語活動を通じて、学生が将来国際舞台においてビジネスをおこなう際に、形式に則ったコミュニケーションの取り方を知り、使えるようにする。
	Current Issues: SDGs a	The aim of this course is to develop students' skills in discussing current issues related to the Sustainable Development Goals (SDGs). In this course, students will have opportunities to raise their awareness of and practice predicting global issues and the SDGs, expanding their vocabulary for describing global problems and solutions, prioritizing and justifying their choices, and enhancing their creativity and design skills. (和訳)この講座の目的は、持続可能な開発目標(SDGs)に関連する時事問題を議論するための英語スキルを育成することである。このコースでは、学生に以下のような機会が与えられる。1)グローバルな問題とSDGsについての意識を高め、将来について予測する、2)グローバルな問題とその解決策について英語で表現するための語彙を増やす、3)数ある選択肢の優先順位を付け、その理由を説明する、4)創造性とデザインスキルを向上させる。
	Current Issues: SDGs b	The aim of this course is to develop students' skills in discussing current issues related to the Sustainable Development Goals (SDGs). In this course, students will have opportunities to raise their awareness of and practice predicting global issues and the SDGs, expanding their vocabulary for describing global problems and solutions, prioritizing and justifying their choices, and enhancing their creativity and design skills. This course covers contents and topics that are different from those covered in the first semester course. (和訳)この講座の目的は、持続可能な開発目標(SDGs)に関連する時事問題を議論するための英語スキルを育成することである。このコースでは、学生に以下のような機会が与えられる。1)グローバルな問題とSDGsについての意識を高め、将来について予測する、2)グローバルな問題とその解決策について英語で表現するための語彙を増やす、3)数ある選択肢の優先順位を付け、その理由を説明する、4)創造性とデザインスキルを向上させる。この科目は、前期科目とは異なった内容・トピックを扱う。
	Current Issues: SDGs b	The aim of this course is to develop students' skills in discussing current issues related to the Sustainable Development Goals (SDGs). In this course, students will have opportunities to raise their awareness of and practice predicting global issues and the SDGs, expanding their vocabulary for describing global problems and solutions, prioritizing and justifying their choices, and enhancing their creativity and design skills. This course covers contents and topics that are different from those covered in the first semester course. (和訳)この講座の目的は、持続可能な開発目標(SDGs)に関連する時事問題を議論するための英語スキルを育成することである。このコースでは、学生に以下のような機会が与えられる。1)グローバルな問題とSDGsについての意識を高め、将来について予測する、2)グローバルな問題とその解決策について英語で表現するための語彙を増やす、3)数ある選択肢の優先順位を付け、その理由を説明する、4)創造性とデザインスキルを向上させる。この科目は、前期科目とは異なった内容・トピックを扱う。

基幹教育科目（続き）
選択外国語（続き）

フランス語入門		本科目では、日常生活に用いられる簡単なフランス語を理解し、表現できるようになることを目指す。身近な事柄を表現するためによく用いられる語彙や文構造を、様々な練習を通して学び、正確な発音も身につけていく。フランス語が使われる国や地域の文化、社会背景についての理解も深める。①フランス語の発音や綴りに慣れ、基本的な動詞の活用や、日常よく用いられる語彙を覚えること、②フランス語の日常的な表現を理解し、用いることができるようになること、③フランス語が使われる国や地域の文化や社会についての理解を深めることを目標とする。	
フランス語初級		本科目では、日常生活に用いられるフランス語を理解し、表現できるようになることを目指す。身近な事柄を表現するためによく用いられる語彙や文構造を、様々な練習を通して学び、「フランス語入門」に引き続き、一歩進んだ文法事項も身につけていく。フランス語が使われる国や地域の文化、社会背景、価値観についての理解もより深める。①フランス語の基本的な動詞の活用や、基本語彙を覚えること、②フランス語の日常的な表現を理解し、簡単なやり取りができるようになること、③フランス語が使われる国や地域の文化や社会を、より身近なものとして捉えられるようになることを目標とする。	
ドイツ語入門		本科目では、日常生活に用いられる簡単なドイツ語を理解し、表現できるようになることを目指す。身近な事柄を表現するためによく用いられる語彙や文構造を、様々な練習を通して学び、正確な発音も身につけていく。ドイツ語が使われる国や地域の文化、社会背景についての理解も深める。①ドイツ語の発音や綴りに慣れ、基本的な動詞の活用や、日常よく用いられる語彙を覚えること、②ドイツ語の日常的な表現を理解し、用いることができるようになること、③ドイツ語が使われる国や地域の文化や社会についての理解を深めることを目標とする。	
ドイツ語初級		本科目では、日常生活に用いられるドイツ語を理解し、表現できるようになることを目指す。身近な事柄を表現するためによく用いられる語彙や文構造を、様々な練習を通して学び、「ドイツ語入門」に引き続き、一歩進んだ文法事項も身につけていく。ドイツ語が使われる国や地域の文化、社会背景、価値観についての理解もより深める。①ドイツ語の基本的な動詞の活用や、基本語彙を覚えること、②ドイツ語の日常的な表現を理解し、簡単なやり取りができるようになること、③ドイツ語が使われる国や地域の文化や社会を、より身近なものとして捉えられるようになることを目標とする。	
中国語入門		本科目では、中国語と日本語の違いを比較しながら、中国語の発音と文法の基礎を学ぶ。正確な発音が身につくように練習を重ね、身近な事柄を表現するためによく用いられる語彙や文法事項を学ぶ。中国の文化、社会背景、価値観についての理解も深める。①中国語の発音の基礎を身につけること、②中国語の文法の基礎を理解し、基本語彙を覚えること、③中国語の日常的な表現を理解し、用いることができるようになることを目標とする。	
中国語初級		本科目では、中国語と日本語の違いを比較しながら、中国語の発音と文法の基礎を学ぶ。「中国語入門」に引き続き、より正確な発音が身につくように練習を重ね、一歩進んだ文法事項も身につけていく。中国の文化、社会背景、価値観についての理解もより深める。①正確な中国語の発音を身につけること、②中国語の文法の基礎を定着させ、基本語彙を覚えること、③中国語の日常的な表現を理解し、簡単なやり取りができるようになることを目標とする。	
朝鮮・韓国語入門		本科目では、朝鮮・韓国語と日本語の違いを比較しながら、韓国語の発音と文法の基礎を学ぶ。正確な発音が身につくように練習を重ね、身近な事柄を表現するためによく用いられる語彙や文法事項を学ぶ。韓国の文化、社会背景、価値観についての理解も深める。①韓国語の発音の基礎を身につけること、②文字（ハングル）が読めるようになること、③韓国語の文法の基礎を理解し、基本語彙を覚えること、④韓国語の日常的な表現を理解し、用いることができるようになることを目標とする。	
朝鮮・韓国語初級		本科目では、朝鮮・韓国語と日本語の違いを比較しながら、韓国語の発音と文法の基礎を学ぶ。「朝鮮・韓国語入門」に引き続き、語彙や基本的な表現を学び、一歩進んだ文法事項も身につけていく。韓国の文化、社会背景、価値観についての理解もより深める。①韓国語の文法の基礎を定着させ、基本語彙を覚えること、②身近な事柄について、韓国語で自分の気持ちや考えを伝えることができるようになること、③韓国語の日常的な表現を理解し、簡単なやり取りができるようになることを目標とする。	
イタリア語入門		本科目では、日常生活に用いられる簡単なイタリア語を理解し、表現できるようになることを目指す。身近な事柄を表現するためによく用いられる語彙や文構造を、様々な練習を通して学び、正確な発音も身につけていく。イタリアの文化、社会背景についての理解も深める。①イタリア語の発音や綴りに慣れ、基本的な動詞の活用や、日常よく用いられる語彙を覚えること、②イタリア語の日常的な表現を理解し、用いることができるようになること、③イタリアの文化や社会についての理解を深めることを目標とする。	

基幹教育科目（続き）	選択外国語（続き）	イタリア語初級	本科目では、日常生活に用いられるイタリア語を理解し、表現できるようになることを目指す。身近な事柄を表現するためによく用いられる語彙や文構造を、様々な練習を通して学び、「イタリア語入門」に引き続き、一歩進んだ文法事項も身につけていく。イタリアの文化、社会背景、価値観についての理解もより深める。①イタリア語の基本的な動詞の活用や、基本語彙を覚えること、②イタリア語の日常的な表現を理解し、簡単なやり取りができるようになること、③イタリアの文化や社会を、より身近なものとして捉えられるようになることを目標とする。
		ギリシア語入門	本科目は、①『新約聖書』が書かれたコイネー・ギリシア語の基本文法を学ぶこと、②ギリシア神話、ギリシア文学、ギリシア哲学の概要を学び、ギリシア文化の特質について考えることを目的とする。授業では、名詞、形容詞、前置詞を中心に基礎文法を学び、講読の練習を行う。また、ギリシア神話、ギリシア叙事詩、ギリシア悲劇、ギリシア哲学の概説を通してギリシア文化の特質について考える。到達目標は、①コイネー・ギリシア語で書かれた文章について、辞書などを用いて読むことができる、②ギリシア語で書かれた様々な文学作品をもとに、ギリシア文化の特質について自分なりの考えを説明することができることである。
		ギリシア語初級	本科目は、①『新約聖書』が書かれたコイネー・ギリシア語の基本文法を学ぶこと、②『新約聖書』をギリシア語原典で読めるようにすることを目的とする。授業では、動詞の活用、不定詞、分詞など発展的な文法事項を学び、『新約聖書』の「マルコによる福音書」等の講読練習を行う。到達目標は、①コイネー・ギリシア語で書かれた文章について、辞書などを用いて読むことができる、②コイネー・ギリシア語で書かれた『新約聖書』のギリシア語原典を受講者各自が辞書を用いて読むことができることである。
		ラテン語入門	本科目はラテン語の初等文法を学び、ラテン語で書かれたさまざまな作品、文章について知ることを目的とする。文法は、名詞、形容詞、動詞の直説法能動相の活用までを終える。授業では、各回で学んだ文法事項の例文として、ラテン語で書かれた作品からの引用を紹介する。到達目標は、①学んだ文法事項を用いた簡単なラテン語の作文と読解ができる。②さまざまな時代の作家、作品について知ること興味、視野の範囲を広げ、教養を身につけることである。
		ラテン語初級	本科目はラテン語の初等文法を学び、ラテン語で書かれたさまざまな作品、文章について知ることを目的とする。文法は、「ラテン語入門」の発展として、動詞のさまざまな活用を学ぶ。授業では、各回で学んだ文法事項の例文としてラテン語で書かれた作品からの引用を紹介する。到達目標は、①学んだ文法事項に沿って単語を的確に活用させることができ、簡単な読解もできる、②さまざまな時代の作家、作品について知ること興味、視野の範囲を広げ、教養を身につけることができることである。
		ロシア語入門	本科目は①ロシア語の初等文法を学ぶこと、②歌謡・絵本・映画を通してロシア、ウクライナ、ベラルーシの人々の生活世界を知ることを目指す。授業では、名詞・形容詞の格変化、動詞の現在形・過去形・未来形までを学ぶ。またロシア、ウクライナ、ベラルーシなど東スラヴの人々の歌謡・絵本・映画を鑑賞することによって、その生活世界についての理解を深める。到達目標は、①学んだ文法事項を用いた文を読むことができる、②学んだ文法事項を用いた簡単な文を書くことができる、③学んだ文法事項を用いて、日常会話をする事ができる、④ロシア、ウクライナ、ベラルーシの歌謡・絵本・映画を通して、これらの国々の人びとの生活世界について広く理解することである。
		ロシア語初級	本科目は①ロシア語の中等文法を学ぶこと、②歌謡・絵本・映画を通してロシア、ウクライナ、ベラルーシの人々の生活世界を知ることを目指す。授業では、動詞の体や仮定法、関係詞、形動詞、副動詞、受動態までを学ぶ。またロシア、ウクライナ、ベラルーシなど東スラヴの人々の歌謡・絵本・映画を鑑賞することによって、その生活世界についての理解を深める。到達目標は、①学んだ文法事項を用いた文を読むことができる、②学んだ文法事項を用いた簡単な文を書くことができる、③学んだ文法事項を用いて、日常会話をする事ができる、④ロシア、ウクライナ、ベラルーシの歌謡・絵本・映画を通して、これらの国々の人びとの生活世界について広く理解することである。
		日本語上級文法a	本科目では、日本語を母語としない学生を対象として、文法的誤りの少ない日本語を話したり書いたりするために、日本語文法力を向上させる練習を中心に行う。新聞記事を読んで要約を发表或し、ディクトグロスを行ったり、比較的難易度が高いとされる文型を中心に聞き取り練習をしてみたりしながら、議論、口頭発表、レポート・論文作成などで必要とされる表現を理解し、使えるようにする。①アカデミックな場面や日常で用いられる語彙・文型(文法)・表現の意味が理解できること、②似たような意味の文型(文法)・表現を区別できることを目標とする。
		日本語上級文法b	本科目では、日本語を母語としない学生を対象として、文法的誤りの少ない日本語を話したり書いたりするために、日本語文法力を向上させる練習を中心に行う。新聞記事を読んで要約を发表或し、ディクトグロスを行ったり、日常的に使用頻度のあまり高くない文型を中心に聞き取り練習をしてみたりしながら、議論、口頭発表、レポート・論文作成などで必要とされる表現を理解し、使えるようにする。①アカデミックな場面や日常で用いられる語彙・文型(文法)・表現の意味が理解できること、②学んだ語彙・文型(文法)・表現を正しく使えることを目標とする。

基幹教育科目（続き） 選択外国語（続き）	日本語上級読解a	<p>本科目では、日本語を母語としない学生を対象として、日本語で書かれた様々な読み物を読み、大学での学修において求められる日本語の基礎的な読解力をつけるための授業を行う。授業では読解に必要な様々な読解ストラテジーについて学ぶ。詩、新聞記事、短編小説、エッセイ等様々なジャンルの読み物に触れ、読み方の違いを理解する。読解を通して理解語彙を増やし、日本語の表現力の伸長を図る。①大学での学習に求められる読解力を身につけることができること、②読解ストラテジーを用いて文章を読むことができること、③漢字語の読みや意味を理解し、理解語彙を増やすことができることを目標とする。</p>
	日本語上級読解b	<p>本科目では、日本語を母語としない学生を対象として、日本語で書かれたアカデミックな文章や現代小説を読み、大学での学修において求められる日本語の読解力を高めるための授業を行う。授業では読解に必要な様々な読解ストラテジーについて学ぶ。①大学でのアカデミックな学びに必要な読解力を高めること、②やや複雑な文章や抽象度の高い文章を論理的に読み、文章の構成や内容が理解できること、③読解ストラテジーを用いて文章や書かれた背景を深く理解し、内容について説明したり、自分の考えを述べること、④漢字語やカタカナ語の意味を理解したうえで、他者との議論や再話活動を通じて使用語彙として用いることができることを目標とする。</p>
	日本語上級会話a	<p>本科目では、日本語を母語としない学生を対象として、大学での学修において求められる日本語口頭運用能力を向上させるための練習を行う。平和や格差といったような、日本社会あるいは世界における時事問題や課題について聞いたり読んだりしながら考え、ディスカッションやインタビューをすることを通じて、自然で、流暢にかつ正確に自己表現ができ、柔軟で効果的なことば遣いができるようになるための練習を行う。①自分の興味・関心について詳しく説明できること、②自分の意見をわかりやすくまとめて述べられることを目標とする。</p>
	日本語上級会話b	<p>本科目では、日本語を母語としない学生を対象として、主にアルバイトや就職活動等、大学の外の社会で求められる日本語口頭運用能力を向上させるための練習を行う。社会人としての自身の将来のキャリアについて考えながら聞いたり読んだりしつつ、自然で流暢かつ正確な自己表現ができ、一人の大人として求められるような、柔軟で効果的なことば遣いができるようになるための練習を行う。①社会の一員として働くことや日本のビジネス慣習に対する理解を深めること、②Eメールや電話などで相手の用件が理解でき対応できること、③対人関係に応じた言語表現の使い分けができることを目標とする。</p>
	日本語上級総合a	<p>本科目では、日本語を母語としない学生を対象として、大学での学修に活かせる中上級レベルの日本語の総合的な運用能力をつけるための授業を行う。物語を創作し、日本語のリズム、アクセント、イントネーションについて学んだうえで、他者に伝わりやすく話せるよう練習を行う。①オノマトペをはじめとした中上級レベル以上の語彙が理解できること、②「書き言葉」と「話し言葉」のスタイルの違いを理解し、適切に使用できること、③グループのメンバーとの話し合いを通じて、まとまった文章を書くことができること、④日本語での発表に必要な音韻規則を理解し、他者にわかりやすく自分の意見を伝えたり、発表したりできることを目標とする。</p>
	日本語上級総合b	<p>本科目では、日本語を母語としない学生を対象として、日本語の4技能を総合的に活用し、アカデミックな文章表現力や口頭でのプレゼンテーション能力を高めるための授業を行う。テーマに対する自分の立場を提示し、明確な理由が述べられるよう意見文に取り組んだり、ディスカッションやインタビュー、プレゼンテーションを行う。①自分の立場やその論拠を示した文章を書くことができること、②他者にインタビューした結果を簡潔にまとめ、スライドを用いてわかりやすいプレゼンテーションができること、③読んだ本の内容やその面白さを他者に伝えることができること、④他者の発表を聞き、適切な質疑応答ができることを目標とする。</p>
	日本語中級Ia	<p>本科目は、主に非漢字圏からの交換留学生を対象として、「日本語中級IIa」（および「日本語中級IIIa」「日本語中級IVa」）と同時に履修することで、日本語の4技能を総合的に高めるための授業を行う。聞いて理解する、会話する、長く話す、読んで理解する、書く等、幅広く4技能を活用する活動を行う。学校や娯楽でふだん出会うような身近な話題についてはもちろん、自身の専門分野の議論など抽象的な話題でも、やや複雑なテキストの主要な内容を理解できるような練習を行う。お互いに緊張しないで熟達した日本語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然に話せることを目標とする。</p>
	日本語中級Ib	<p>本科目は、主に非漢字圏からの交換留学生を対象として、「日本語中級IIb」（および「日本語中級IIIb」「日本語中級IVb」）と同時に履修することで、日本語の4技能を総合的に高めるための授業を行う。聞いて理解する、会話する、長く話す、読んで理解する、書く等、幅広く4技能を活用する活動を行う。学校や娯楽でふだん出会うような身近な話題についてはもちろん、自身の専門分野の議論など抽象的な話題でも、やや複雑なテキストの主要な内容を理解できるような練習を行う。お互いに緊張しないで熟達した日本語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然に話せることを目標とする。</p>
日本語中級IIa	<p>本科目は、主に非漢字圏からの交換留学生を対象として、「日本語中級IIa」（および「日本語中級IIIa」「日本語中級IVa」）と同時に履修することで、日本語の4技能を総合的に高めるための授業を行う。聞いて理解する、会話する、長く話す、読んで理解する、書く等、幅広く4技能を活用する活動を行う。学校や娯楽でふだん出会うような身近な話題についてはもちろん、自身の専門分野の議論など抽象的な話題でも、やや複雑なテキストの主要な内容を理解できるような練習を行う。お互いに緊張しないで熟達した日本語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然に話せることを目標とする。</p>	

基幹教育科目（続き）	選択外国語（続き）	日本語中級Ⅱb	本科目は、主に非漢字圏からの交換留学生を対象として、「日本語中級Ⅱb」（および「日本語中級Ⅲb」「日本語中級Ⅳb」）と同時に履修することで、日本語の4技能を総合的に高めるための授業を行う。聞いて理解する、会話する、長く話す、読んで理解する、書く等、幅広く4技能を活用する活動を行う。学校や娯楽でふだん出会うような身近な話題についてはもちろん、自身の専門分野の議論など抽象的な話題でも、やや複雑なテキストの主要な内容を理解できるような練習を行う。お互いに緊張しないで熟達した日本語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然に話せることを目標とする。
		日本語中級Ⅲa	本科目は、主に非漢字圏からの交換留学生を対象として、「日本語中級Ⅳa」（および「日本語中級Ⅰa」「日本語中級Ⅱa」）と同時に履修することで、日本語の4技能を総合的に高めるための授業を行う。聞いて理解する、会話する、長く話す、読んで理解する、書く等、幅広く4技能を活用する活動を行う。学校や娯楽でふだん出会うような身近な話題についてはもちろん、自身の専門分野の議論など抽象的な話題でも、やや複雑なテキストの主要な内容を理解できるような練習を行う。お互いに緊張しないで熟達した日本語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然に話せることを目標とする。
		日本語中級Ⅲb	本科目は、主に非漢字圏からの交換留学生を対象として、「日本語中級Ⅳb」（および「日本語中級Ⅱb」「日本語中級Ⅲb」）と同時に履修することで、日本語の4技能を総合的に高めるための授業を行う。聞いて理解する、会話する、長く話す、読んで理解する、書く等、幅広く4技能を活用する活動を行う。学校や娯楽でふだん出会うような身近な話題についてはもちろん、自身の専門分野の議論など抽象的な話題でも、やや複雑なテキストの主要な内容を理解できるような練習を行う。お互いに緊張しないで熟達した日本語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然に話せることを目標とする。
		日本語中級Ⅳa	本科目は、主に非漢字圏からの交換留学生を対象として、「日本語中級Ⅲa」（および「日本語中級Ⅰa」「日本語中級Ⅱa」）と同時に履修することで、日本語の4技能を総合的に高めるための授業を行う。聞いて理解する、会話する、長く話す、読んで理解する、書く等、幅広く4技能を活用する活動を行う。学校や娯楽でふだん出会うような身近な話題についてはもちろん、自身の専門分野の議論など抽象的な話題でも、やや複雑なテキストの主要な内容を理解できるような練習を行う。お互いに緊張しないで熟達した日本語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然に話せることを目標とする。
		日本語中級Ⅳb	本科目は、主に非漢字圏からの交換留学生を対象として、「日本語中級Ⅲb」（および「日本語中級Ⅱb」「日本語中級Ⅲb」）と同時に履修することで、日本語の4技能を総合的に高めるための授業を行う。聞いて理解する、会話する、長く話す、読んで理解する、書く等、幅広く4技能を活用する活動を行う。学校や娯楽でふだん出会うような身近な話題についてはもちろん、自身の専門分野の議論など抽象的な話題でも、やや複雑なテキストの主要な内容を理解できるような練習を行う。お互いに緊張しないで熟達した日本語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然に話せることを目標とする。
教養科目	考える技法	必ずしも正しくない内容を含みながら多くの情報が社会に溢れている。そのような状況では、目的に沿ってどのような情報が必要かを判断し、それを適切な方法で獲得し、その内容を慎重に吟味して評価しながら自身の推論や判断を導くという、能動的で批判的な知的活動が求められる。こうした知的スキルを素朴な題材で実践して振り返りながら、大学での学びや日常生活でそれを活用できるようになることを目標とする。	
	書く技法（基礎）	本授業では、大学で「文章」を書くために必要な基礎的な知識や技能を身につけることを目指す。段階的に、客観的に文章を書くトレーニングを行う。事前の構成、読み手の理解に応じた書き方、一度書き上げた文章の推敲など、一連の書くための手順を基礎から学ぶ。また、授業中には学生同士のピア活動やグループワークを積極的に取り入れ、コミュニケーション能力の向上をはかることで、「客観的な文章」を書くために求められる「相手の理解の想像力」も培う。こうした学びを通して、大学で学ぶために必要な基礎的文章力を身につけることを目標とする。	
	書く技法（一般）	様々な目的や場面に応じた文章を書く力を養う。日常生活・社会生活で書くことが多い様々なジャンルの文章に触れ、それぞれのジャンルの文章構成やスタイルなどを学び、理解することによって、自らの文章力を向上させていく。文章表現の基礎となる日本語の文法や語彙、敬語の用法を理解すると共に、文章を書く基本的な手順を身につける。そして異なる種類の文章の特色について理解し、ジャンルに応じた自己表現の力をつけることを目標とする。	
	書く技法（発展）	日本語のアカデミック・ライティングの力を向上させることを目的とする。特に説明文やレビュー（書評など）、レポート・論文を中心に扱う。これらの文章それぞれの構成や、論旨の一貫性などに関するスキルを学び向上させ、同時にアカデミックな文章に適切な文章表現を学ぶ。特にレポート・論文は、執筆を始める前にアイデアを整理し、資料を収集し、文献を読み込むといったプロセスが必要である。また草稿完成後には推敲、編集といった作業も必要となる。このようなプロセスを経てより良い文章が書けるようになることを目標とする。	

基幹教育科目（続き）	教養教育科目（続き）	読む技法	日本語母語話者の学生を対象として、日本語の基礎的・汎用的読解力を向上することを目的とする。日本語の文章における、文構造、照応関係、接続関係、定義・分類表現、同義関係、論理的推論などに関する知識を学びあるいは確認し、またこれらに関連したスキルを向上させる。本科目では単に知識を獲得・確認するだけでなく、実際にそれらの知識を利用する活動や、文を生成する活動を通じて、大学での学びや実社会において利用できる形で日本語読解力を向上させる。	
		対話の技法	社会人にとって必須のスキルである日本語コミュニケーション能力の向上を目標とする。口頭表現の技法を基礎から学びながら、人前で話す・伝える経験を重ねながら「伝えるスキル」「聞くスキル」の両方を向上させる。普段無意識で言葉にする日本語を「的確に」「論理的に」「豊かに」使いこなすことで、現代人が見落としがちな「対面コミュニケーション」の重要性を再認識すると共に、相手の理解を想像、確認しながら実際に相手と対話する力を身に付ける。	
		文理融合基礎	人の目や耳や肌で受け取るアナログ情報と情報機器内で表現されるデジタル信号とがどのように変換されたり伝達されたり記録されたりするのかを、人体や人の心の仕組みとあわせてスマートホンやテレビなど身近な機器を題材に解き明かす。さらに、人がデジタル表現を扱う機器を得たことによって、個人の思考や感性がどのように影響され、また、社会・文化がどのように変化したかについて考える。技術進歩などの事情によって取り上げる機器の種類は変わる可能性がある。	
		キャリア・デザインⅡ	インターンシップやその他の社会的な活動を通じて、自らを取り巻く社会の現状について理解を深めていく。大学での学びを社会でどのように生かすか、就職活動などの進路選択の場面で、自分と社会を結びつける（つまり、就労する）方法に取り組み、また、卒業後をより具体的に考えるために、社会の構造や企業の活動を理解を深めていく。具体的には、インターンシップやProject Based Learning、フィールドワークなどを通じて、実際に社会と接点を持つ機会を活用し、自らの体験を通して将来を考えていく。	
		キャリア・デザインⅢ	卒業後の進路を具体的に検討し、多様な選択肢から自らの将来を主体的かつ適切に選び取るための知識と技術を涵養する。具体的には、自分自身を理解し他者に伝える方法、自らを取り巻く企業や業界などの社会を理解していく方法、それらを考えるための実際の業種や企業について情報を得る方法などが挙げられる。また、企業などで業務にあたっている実務者等から説明を受ける機会を設け、多様な業界や業種、職種に触れ、進路選択や就職活動を実践的に進めていく。	
		キャリアの組織論	学校とは異なる組織における個人のキャリアや、組織の構成員との関係性について考える。組織において適切に自らの役割を果たすため、他者と自分の関係に対する考え方を学ぶ。まず、キャリアの基本的な概念を踏まえ、学校から会社、つまり学生から社会人という環境や役割の移行において、自らが体験するであろう組織社会化について考える。ついで、組織内における多様で複雑な価値観の交錯に、自らがいかに対応するかと言った課題を中心的に検討していく。	
		インターンシップ	企業や行政機関・団体等における就業体験を通じて大学で育んでいる汎用的能力を活用し、社会で役割を持って活動することを体験的に学ぶ。就業体験によって、自分自身の将来の可能性を検討する材料とする。また、現時点における自身の能力を見極め、不得意な分野があれば今後の学生生活で補ったり、得意分野については一層伸ばせるように取り組んでいく姿勢が求められる。必要に応じて就業体験の開始前にキャリアサポート課へ相談し、実習先のミスマッチがないようにする。	
		ジェンダー学	ジェンダー論の入門として、フェミニズムの知見を用いながら、ジェンダーという視点を通じて現代社会を解説する。性別二元論の価値観が社会に及ぼす影響を理解し、日常的問題について考える能力を養うことを目標とする。トピックとしては、ジェンダー概念、性の多様性、フェミニズム、トランスジェンダー、性暴力などを扱い、ジェンダーとフェミニズムについての理解を深め、関連する社会問題について議論し、性の多様性と平等についての洞察力を深める。	
		現代社会とジェンダー	セクシュアリティという切り口から社会構造を解説し、「異性愛主義」という価値観を改めて捉え直すことにより、日常生活のさまざまな場面でそれについて考える姿勢を身につける。社会は性別を「男」と「女」に二分し固定化した上で、前者により多くの利益配分を行なうシステムを維持している（性別二元論）。また、その二分された「男」と「女」を一対になるものとして認識する規範をもあわせもっている（異性愛主義）。異性愛主義という性規範について把握し、排除や抑圧を生み出す社会構造への批判的な視点を育む。	

基幹教育科目（続き） 教養科目（続き）	教育とジェンダー	本授業では、教育に関するジェンダーの問題を様々な視点から学ぶ。これまでの歴史的経緯や他国の実践などを参照しながら、学校教育におけるジェンダーバイアスの問題、多様なジェンダーの人々にとっての学校教育がどのような課題を抱えているのか等、各自、自分の問いをみつけ、考察を行う。自らの学校教育の経験を振り返りつつ、現代の教育におけるジェンダーを取り巻く問題状況や課題を学び、歴史的視点、国際的視野のもとに、これからの教育とジェンダーの関わりについて考えることのできる視座を培う。
	表象文化とジェンダー	表象文化研究入門およびジェンダー研究入門を主なテーマとして、ジェンダー・イメージがいかに時代や社会によって規定されるもので、生物学的な性差によって決定されるものではないかを理解する。また普段何気なく触れている表象文化が、いかに政治的・社会的なメッセージを含んだものであるかを学び、その分析方法を習得する。具体例としてジェンダー・イメージが文学や映画などを通じていかに表現されているか、また近年ではそうしたジェンダーそのものを問い直す作品がいかに生み出されているかを知ることによって、ジェンダーや表象文化を論ずる切り口を身につける。
	英語で学ぶ平和	The course will first cover many of the fundamental causes and effects of violent behavior. This will be done with readings and discussions. The second half the the semester will concentrate on nonviolent actions taken by Gandhi and Martin Luther King, as well as the Civil Rights Movement of the 1960's. By the end of the course students will be able to understand why violence occurs and give examples. Students will also be able to give clear examples of how nonviolence can be used to counter violent behavior. (和訳)この科目ではまず、暴力的行動の根本的な原因と影響の多くを取り上げる。これは読書とディスカッションで行なう。後半は、ガンジーやキング牧師の非暴力行動、1960年代の公民権運動に焦点を当てる。後半では、なぜ暴力が起こるのかを理解し、その例を挙げるができるようになる。また、暴力的な行動に対抗するために非暴力をどのように用いることができるか、明確な例を挙げるができるようになる。
	英語で学ぶ対話	Constructive controversy unlike debate (a competitive process where one view "wins" over the other) is a creative problem-solving process. In this course, students will learn a positive way of communication especially in a situation where both parties have a different opinion. The class will train students to become better communicators by practicing a communication approach where disagreement will no longer be an obstacle, but rather a good source to understand each other better. Students will learn to make better decisions based on good reasoning and consideration. (和訳)「建設的な論争」は、ディベート(一方の意見が他方の意見に「勝つ」競争プロセス)とは異なり、創造的な問題解決プロセスである。この科目では、特に両者の意見が異なる状況での積極的なコミュニケーション方法を学ぶ。このクラスでは、意見の相違とは障害ではなく、むしろ互いをよりよく理解するための良い材料となると捉え、そのようなコミュニケーション・アプローチを実践する。
	平和学	平和学の初学者を対象に、平和学の観点から直接的暴力および構造的暴力の諸問題を考える。前半は、20世紀の歴史と思想から、戦争やテロリズム問題など直接的暴力に関わる問題を考える。後半は、暴力と平和の問題について、貧困や格差など構造的暴力の問題を国際的視野のもとに考える。学修到達目標としては、①平和学の基礎的な理論を習得する、②平和に関する諸課題について基礎的知識と問題意識を持つ、③現代の平和の問題を自ら分析・考察することができる、という三点である。
	SDGs概論	SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)とは、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択され、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である。17のゴールから構成され、貧困や不平等、気候変動、環境劣化、繁栄、平和と公正など、私たちが直面するグローバルな諸課題の解決を目指している。SDGsを他人事ではなく、自分事として捉え、行動できるようになるためにSDGsの概要を学ぶ。
	現代社会とボランティア	現代社会とボランティアの関係性に対し、社会を取り巻く構造的な理解を含め多角的な観点から考察ができるようになることを目標とする。現代社会では、福祉ボランティアのような社会的課題の克服をサポートする活動から、スポーツなどの各種イベントを支えるボランティア、地域再生といった「まちづくり」を支えるボランティアまで多岐に及ぶ。さまざまなボランティア活動の事例を検討しながら、活動をおこなう主体(送り手)と客体(受け手)それぞれの立場を考えながら、現代社会におけるボランティア活動の動機や意味を考える。
	地域協力演習	品川区「すまいるスクール」での地域協力活動をおこなう。学校や児童の実情を知り、地域の人々との円滑な関係を築きながら地域社会に貢献できるようになることを目標とする。「すまいるスクール」は、品川区立小学校施設を活用した放課後全児童対策事業であり、専任の職員1名と複数のスタッフが配置されている。受講者はスタッフの一人として、「勉強」や「遊び」を通して小学生と触れ合うことで、地域の児童教育支援に携わる。

基幹教育科目（続き）	教養科目（続き）	暮らしの法律	社会生活を司る法やその適用例を具体的に学習することで、生活のさまざまな場面における法律の役割を理解し、社会人としての法常識を身につけ、無用なトラブル・紛争の未然防止のために必要な知識を獲得する。本科目では「暮らしと法律」をテーマとして、契約・消費者と法、犯罪と法、性の平等、権利と法、著作権・知的財産権、インターネットと法のように、日常生活において一般的な場面で法と関わる様々な具体例を扱いながら学んでいく。
		現代社会と法律	現代社会を司る法律・法体系を学ぶことで、社会のしくみや成り立ちを理解し、社会における法律の役割を理解する。本科目では現代社会における法律の意義や目的・その限界などをふまえ、法への体系的・一般的理解を目指す。憲法と法律、婚姻・離婚と法律、相続、賃貸借と法、交通事故と損害賠償といった現代的な諸問題を扱いながら、法の意義や仕組みを理解し、同時に多角的な視点から対話や問題解決を目指す法的な視点と態度を養う。
		労働者と法律	労働に関する法律は、組織において適切に自らの役割を果たしていくために必須の知識である。本科目では、アルバイトや卒業後の就労において直面するかもしれない、労働条件の変更や解雇など労働や雇用に関する問題や課題を取り上げ、それらを十分に理解し解決に向けて自分で対処できるようにするために必要な法的知識と考え方を習得する。また労働や雇用に関する社会的問題・課題に関して自分で分析・検討し、それを理解して自らの考えを導けるようにする。
		現代の国際経済	経済に対する予備知識が少ない学生を対象とし、国際経済に関する基本的な知識と考え方を身につける。授業の到達目標は、国際経済に関する基本的な知識と概念・考え方を身につけることによって、新聞やインターネット上のメディアの経済情報をより良く理解し、日常生活や将来の進路に活かすことである。扱うトピックには、国際経済の基本、貿易政策、国際金融、為替相場、国際収支、円高と円安、国際通貨制度、国際通貨危機などを含む。
		現代の日本政治	現代における日本政治の動きをテーマとし、そこに関連する政治学上の概念や知識と共に紹介し、今日に至る日本政治の大きな流れを理解する。また日本政治の仕組みを理解すると共に、他国との政治制度や背景の違いにも注意を向け、自国の政治を相対化して捉えられるようにする。トピックとしては、55年体制、高度経済成長、政党政治、官僚機構、中央と地方、選挙制度、行財政改革、圧力団体・NPO等を扱う。授業での学びを通して、日本の政治を客観的に捉え主体的に判断をできる能力を養う。
		現代の国際政治	現代における国際政治の動きをテーマとし、世界政治の動向をその時々に見られたビジョンとともに紹介し、今日に至る国際政治の大きな流れを理解する。近年の世界政治は目まぐるしく変化しており、その背景や要因を含め情報を的確に処理する必要性が求められている。本科目では国際政治について考え、現代の国際政治を動かしている原理が何であるのか、世界はどこへ向かっているのかを自分の思考力で見極められるようトレーニングを積む。
		現代社会とメディア	欧米から始まるマス・メディアとジャーナリズムの歴史と理論を基に、マス・メディアに関する研究がどのように成立してきたか、基礎的な概説を行う。その上で、現代社会におけるマス・コミュニケーション機関、マス・メディアの現状についてその役割と影響を中心に概観していく。そして、メディアが社会に対して果たす、また果たすべき責任と役割について考察する。まずメディアの歴史、メディア理論、表現・言論の自由などを学び、その後メディアと政治・経済・戦争・平和・教育・倫理など、現代社会におけるメディアについて学ぶ。
		現代社会と倫理	現代倫理の源泉や、現代社会における支配的な思考枠組みおよび価値観の思想的背景を学ぶことによって、人間存在を反省的に問い直す。日々多くの選択や出来事が繰り返される人生における無数の分岐点に際して、私たちは、いったいどのようなものか、外見や考え方、外的基準等にもとづいて判断を下すのか。本科目では、このような日常における判断と倫理をめぐる問題を、哲学や倫理的思想の視点から検討する。
		暮らしの倫理学	本科目では、私たちの日常生活における倫理をめぐる諸問題を取り上げ検討する。日々多くの選択や出来事が繰り返される人生の中で訪れる無数の分岐点に際して、私たちはいったい何を頼りに判断し、日常を生活しているのか。とりわけ倫理的判断は、どのようなものか、外見や考え方、外的基準等にもとづいてなされるのか。本科目では、このような日常における判断と倫理をめぐる問題を、具体的・日常的視点から検討する。
心理学 1	人は、他者との関係の中で感情をもち思考する社会的な存在である。そうした個人の心の営みが、個々の他者との関係や集団としての社会との関係をどのように作り上げるか、さらに、そうした関係をどのように維持したり変えたりしていくのかについて、事例を挙げながら検討していく。 人の社会的な性質を心理学の観点から説明できること、それを自身の人間関係や社会活動の中で省察したり活用したりする態度をもつことを目標とする。		

基幹教育科目（続き） 教養科目（続き）	心理学 2	心理学が扱ってきた問題とその答えを歴史的にふりかえりながら、そうした心理学の成果が、我々の日常生活のありようをどのように説明し、また、我々の日常生活の問題をどのように解決するかについて、考えていく。 講義を受けることで知識を得るだけでなく、グループワーク等による具体的な問題への取り組みを通して、心理学の知識を自分なりに活用する態度を身につけることを目標とする。
	暮らしの科学 (実験講座 キッチンサイエンス)	私たちが生きる上で重要な「食」について、「食材を調理して食べる」という日常生活を、科学的なアプローチを通じて「なぜ？」という目で見直す。日常食べている代表的な食材を毎回のテーマとして取り上げ、その性質、組成、歴史的変遷、栄養的な特徴を学ぶ。食材の観察とそれを用いた実験(調理)を数名のグループで行い、熱や塩によっておこる物理的または化学的な変化を、食感や味として体感するとともに、科学の目で観察して理解する。
	科学史・科学哲学	現代社会で身近な科学技術は、様々な価値を生み出し生活を便利にする一方で、地球環境や倫理の面で多くの課題も生み出している。こうした課題に対応するためには、私たち誰もが科学に対する理解を深め、自分たちの問題として捉える必要がある。本授業では「科学とは何か」という問いについて、「歴史」「哲学」「社会」という三つの観点から考察する。17世紀に起こった「科学革命」がそれまでのアリストテレス的自然観をどのように克服したのかを学び、また科学哲学の観点から近代科学の方法論と理論的構造を明らかにする。さらには現代社会で科学に求められる倫理や責任について考察する。
	言語学	本科目では、私たちが普段使っている母語や学んでいる外国語に起こる様々な現象について、学術的にどのように捉えられ、どのように分析されているのかを概観する。自分自身の母語や外国語学習に関心のある者、将来的に言語教師を目指す学生にとって、言語学は学んでおくべき科目の一つである。①自分自身の母語に関心を持つこと、②世界の言語にどのような特徴があるか知ること、③言語学にどのような下位分野があるか知ること、④外国語学習や言語教育に活かせる知識を身に付けることを目標とする。(日本語教員課程必修科目)
	応用言語学	本科目では第二言語習得論を扱い、私たちが母語以外のことばである外国語(第二言語)を、どのように学び、習得するのかを概観する。第二言語習得論は応用言語学の一領域であるが、自分自身の母語や外国語学習に関心のある者、将来的に言語教師を目指す学生にとって第二言語習得論は学んでおくべき科目の一つである。①第二言語習得論の歴史的変遷を説明できること、②母語と第二言語習得の関係について説明できること、③教えることと習得されることの関係について説明できること、④外国語学習や言語教育に知識を活かすことができることを目標とする。(日本語教員課程必修科目)
	社会言語学	本科目では、普段無意識に行っている言語活動を、社会という観点から捉え直し、言語についての理解を深めることを目的とする。社会言語学は、ことばが社会の中でどのように使われているかを、様々な面から考える学問で、地域差や性差、世代差等から、社会における言語使用の多様性について考える。また、話者や聞き手の属性や、場面・話題・機能の観点から、社会と言語の関係を具体的に考えていく。日本社会における言語使用の多様性や位相による言語の特徴の違いが説明できることを目標とする。(日本語教員課程必修科目)
	認知言語学	本科目では、認知言語学について、日本語の事例に触れながら学習する。認知言語学の基本的理論の他にも、言語習得や「やさしい日本語」など、さまざまなトピックを扱う。認知言語学では、ヒトの言語は、認知主体の「世界に対する見方」を反映していると考えられる。本授業では、この考えについて、日本語における様々な言語現象を見ながら理解を深める。①認知言語学の基本的な概念や問題意識について理解すること、②認知言語学の分析モデルを用いて、日本語の言語現象が捉えられることを目標とする。(日本語教員課程必修科目)
	日本語音声学	本科目では、日本語の音声の特徴について、特に日本語を母語としない日本語学習者への音声指導を中心に、基礎的な事柄を中心に学習する。日本語の音声を客観的に捉えることを目的として、言語教育の立場から日本語の音声に関わる諸現象について検討する。①日本語の音声について基礎的な知識を身につけること、②言語教育、また社会言語学的観点から日本語の音声について客観的に捉えられるようになること、③音声教育のための教材作成が行えるようになることを目標とする。(日本語教員課程必修科目)
日本語教育文法	本科目は、日本語の構造を分析・整理し、第二言語(外国語)としての日本語教育に応用することを目的とする。日本語を母語としない人にとって、日本語はどのような言語なのか。本科目では、日本語母語話者が学校の国語で学ぶようなものとは異なる視点から、日本語の基本的な文法構造について、日本語教育で応用できるよう、自分自身で分析しながら整理していく。日本語の基本的な構造を理解し、日本語教育に応用できることを目標とする。(日本語教員課程必修科目)	

基幹教育科目（続き） 教養科目（続き）	法学(日本国憲法)	人権について理解することに力点を置きながら、日本国憲法の基礎を学ぶ。立憲主義とその歴史、大日本帝国憲法と天皇主権、憲法改正と平和主義、日本国憲法と国民主権などを扱い、日本国憲法を歴史に位置づけて捉えられるようにする。また人権については、人権享有主体性、包括的基本権、公共の福祉、表現・思想良心・信教の自由や、教育を受ける権利・学問の自由などについて学び、人権がいかなるものかを具体的に説明できるようにする、同時に教員や公務員などに要求される日本国憲法の知識と考え方を獲得する。
	経済学	企業や個人の経済行動の原理を学び、人材、資本、財・サービスの取引のメカニズムを学ぶことによって、仕事・家計・人生の基礎力としての経済学を身につける。ミクロ経済学の視点からは、競争市場における需要と供給、独占と市場の失敗、ゲームの理論等を扱い、マクロ経済学の視点からは、GDP、インフレ・デフレと雇用問題、為替相場、マクロ経済における貨幣と銀行(金融システム)それぞれの役割などのテーマについて考察する。
	暮らしの経済学	私たちの身の回りにある様々な「モノ」(商品)の生産、流通、消費の過程を学ぶことで、グローバル経済のなかの日本の位置づけを理解する。鉱物資源やエネルギー資源に恵まれない日本に住む私たちの生活は、地球規模でおこなわれているモノの生産のおかげで成り立っている。本科目では日常に深く関係する様々なモノの生産、流通の仕組み、消費のあり方を通じて、世界のなかの日本、そして発展途上諸国で暮らす人々との経済的なつながりについて理解を深めていく。発展途上諸国の経済構造、国際貿易の歴史や仕組み、開発についての基礎的な考え方について学び、より発展的な学修に向けての基礎力を身につけることを目標とする。
	暮らしの社会学	「社会問題の社会学」をテーマとする。日常の“暮らし”のなかで出会う「社会問題」は、なぜ、どのように、構築されるのか。本科目では、社会学の視点から「社会問題」をとらえる理論を学び、そのうえで具体的な諸現象を取り上げ、検討していく。特に排除や抑圧、差別が生み出される現状がどこか遠くにあるのではなく、わたしたちの身近にあること、そして生み出す側にいるかもしれないことに思いを馳せ、他者化せずに考える力を養う。
	哲学1	東洋の哲学に関する基本的な内容について、歴史、宗教といった視点から学ぶ。東洋における様々な地域、時代の哲学・思想を概観し、それぞれの考え方について理解することを目標とする。また「東洋」とは何か、西洋哲学との考え方の違いはどのようなものか、東洋の一部である日本ではどのような哲学・思想が展開してきたか、などについても考えていく。東洋哲学の多様な価値観を理解することによって、物事に対する幅広い視野を身につける。
	哲学2	「哲学」の本質についての概括的理解を得ると共に、キリスト教との関係を検討する。まず「哲学」の意味についての初歩的理解からはじめ、プラトンのイデア論と『ポリテイア』、アリストテレスの学問体系と理論哲学等を扱い、古代哲学の展開を概観する。続いてアウグスティヌス、スコラ学、トマス・アクィナスやイエズス会と人文主義教育などを扱い、中世、近代、そして現代にいたるまでの哲学の展開とキリスト教との関係を概観する。
	表象文化論	表象とは、ある作品やイメージなどによって何かが表現されることである。本科目ではその媒体として、絵画・マンガなどの視覚表現、文学作品などの文字表現、音楽などの聴覚表現、映画・アニメなどそれらを総合した表現を取り上げる。それらの作品の中に、どのような社会規範や思想、概念等が織り込まれており、それがどのような視点からの表象であるのかを分析していく。このような分析を通じて、歴史的変化やその背景にある人々の心性等について考え、今後様々な作品や事象をより深く理解できるようにする。
	音楽	19世紀ロマン派音楽と20世紀の西洋音楽について学ぶ。19世紀ロマン派、20世紀に活躍した西洋音楽を代表する音楽家達の作品、及び、その特徴を響きと共に知識として取り入れ、豊かな教養を身につける。ロマン主義音楽の興隆とその発展を、ロマン派初期・中期・後期の代表作品の音楽形式を通し、響きと共に理解し、初期におけるベートーヴェンの影響や、中期のシューマン、ショパンの音楽語法、後期の二つのドイツ音楽を中心とした流れなど、19世紀ロマン派音楽、20世紀の西洋音楽の各時期に活躍した作曲家の作品の中に存在する音楽的な特徴を認識できるようにする。
	キリスト教の祈り	本授業では、宗教における儀礼の役割について学び、教会の典礼の意味や目的について理解を深めることを目的とする。また、聖書と教会の教えに基づいて、各秘跡に関する基本的知識を学ぶ。さらに、こうした学びを通して、教会の典礼と信者の信仰生活とのつながりを理解することを重視するとともに、典礼に関連するキリスト教の文化や習慣を通して多面的にキリスト教を学ぶ。
キリスト教のことば	本授業では、キリスト教のさまざまな「ことば」を読むことで、キリスト教の価値観に照らし合わせて、現代社会を生きる一人として、自分の価値観や人生観を深めることを目的とする。具体的には、ローマ・カトリック教会の教皇フランシスコ、マザー・テレサ、聖心侍女修道会創立者ラファエラ・マリアなど、社会に貢献した人びとのことばを取りあげる。こうしたことばを学び、キリスト教の世界観、価値観の理解を深め、自らの価値観を振り返る契機を持ち、現代社会を見る視座を獲得する。	

基幹教育科目（続き）	教養科目（続き）	キリスト教の思想	本授業は、日本のキリシタン史をより広く世界史的視点から位置づけるとともに、それが近代日本の精神史に与えた影響について学ぶことを目的とする。取り上げる主題は、ザビエルの日本布教、都のキリシタンと南蛮寺、伴天連追放令、ペトロ・パプチスタとその同士の来日、フェリペ号事件、日本二十六聖人の殉教、江戸幕府による禁教体制の確立、島原・天草の乱、宗門改と隠れキリシタン、開国と信徒発見、明治政府による迫害、浦上四番崩れ、禁教の終焉、など。
		キリスト教と現代社会	本授業では、いのちのはじめやおわり、性についてなど、現代社会における「いのち」にかかわる様々な現代的問題を学んだうえで、カトリック教会におけるいのちへのまなざしを考える。現代社会において、科学技術の進歩とともに、今までにはなかった人間のいのちにかかわる多くの問題が生じている。そうした時代背景を踏まえ、人間のいのちのはじまる場面と終える場面における様々な問題について、カトリック教会の視点から具体的な事例をもとに考察し、最終的には人間のいのちの意味を学生一人ひとりが自分の問題として深く考えることができるようにすることを目標とする。
		キリスト教と美術	本授業では、本学の建学の精神とも深い関わりを持つキリスト教のなかで美術がどのように展開したかについて、様々な作品に触れながら学修する。キリスト教文化圏で展開した美術について、福音書など新・旧約聖書や外典から生みだされた「視覚化された教典」の役割を持つ美術作品を、様々な地域や成立した時代区分を意識しながら学んでいく。説話的・非説話的な図像の表現形式とその意味などを理解し、キリスト教と結びつく作品が生活のなかで果たしてきた役割について考察を深める。
		キリスト教と音楽	本授業では、西洋音楽の根源を探る。その際、イエス・キリストの誕生、カトリック・キリスト教会における典礼の中でのキリスト教音楽の存在、そして、神に対する祈りの空間の中に、純粋な響きとして音楽が歌われていたことについて学ぶ。バロック時代が始まる以前の長いキリスト教音楽を根源とする音楽の流れは、普遍的に17世紀以降も存在し、神の永遠の愛の響きが常に西洋音楽の基礎として響き続けている。本授業では、こうした根源を探ると共に、後世に作られた西洋音楽作品（クラシック音楽作品）への影響にも触れながら授業を行う。
		キリスト教と文学	本授業では、「日本近代文学とキリスト教との関わり」について理解することを目的とする。日本文学がキリスト教からどのような影響を受けてきたか、明治期・大正期・昭和期（戦後）に分けて外観し、また芥川龍之介・太宰治・遠藤周作などを中心に、それぞれの作品を具体的に取り上げ、それぞれのキリスト教理解の特徴と意義について掘り下げる。
		暮らしの科学（実験講座 健康と環境）	健康と環境（環境衛生）をテーマとする。私たちが生きるために必須の資源である飲料水、呼吸により常に身体の中に取り込んでいる空気の成分、温度や湿度、光、音、振動、放射線などの環境が人の健康に及ぼす影響について学ぶ。各テーマに関する基礎知識、現状、問題点と解決策について、教科書レベル、報道のトピックス、立場の異なる人の意見などを理解する。実際に手を動かして、飲料水の成分を測定して飲用の適否を判定したり、学内の空気環境を実際に調べることで、自分達を取りまく環境について深く理解する。
		暮らしの科学（栄養学）	栄養の基礎知識と健康な食生活の理解をテーマとする。栄養は人が生きていく上で必要不可欠なものであり、摂取不足も過剰も望ましくない。自分や家族の健康を保持増進するために、栄養に関する正しい知識をもつことを目的とする。栄養素の働き、栄養摂取の目安や栄養バランスについて学び、自らの食生活を評価し改善を提案する。またダイエットを含めた栄養・食生活に関する正しい知識を身につけ、人生のライフステージや状態における栄養・食生活に関する指針を理解し活用できるようにする。
		暮らしの科学（病気の予防）	「病気の予防」をテーマとし、個人や家族でできること、市町村や国がやるべきことについて学ぶ。病気を予防することは私たちの「健康」にとって重要である。日本及び世界の疾病構造を理解し、健康を損なう要因と対処法を、自分の周りの事象を通して理解する。日本国内だけでなく、外国や地球規模での問題点と、解決のために行われている対策を知る。今後、国や国際社会がなすべきこと、私たちができることは何であるか、を考える力を身につける。
暮らしの科学（健康増進）	「健康でいる」ということを考える。「病気にならない」だけでなく「健康増進」のために何ができるかを学び、「たとえ病気や障害を持っていても、よりよく生きる」とはどういうことを考える。「健康」とは何か、「自分」は健康であるのか、「健康＝幸福」といえるか、ということについて、さまざまな分野の保健活動の例を学びながら考える。より健康で充実した生活を送るために、自分ができることと、社会の制度として必要なことを認識し、現状と展望を学ぶ。私たちが自分や周りの人の健康増進のためにできることについて、自ら考える力を身につける。		

基幹教育科目（続き） 教養科目（続き）	心身の医学	心とからだ（意識と身体）の関係をテーマとして、主に心の方面からアプローチする。精神科臨床で見られること、現代の脳神経科学の所見、さらには心とからだの関係について古代から考えられてきたことや、演劇の訓練のなかで探求されてきたことなどを通じて、心とからだがどのようにすればよりよく寄り添っていけるのかを学ぶ。具体的には、うつ病、統合失調症、摂食障害、精神療法、精神分析、心の発達、心の理論などを扱う。	
	体育実技・理論	本科目では、心身の健康を促進し、充実し安定した状態で生活ができるための理論と実技を探究する。実技においては手軽におこなえる効果的な運動であるエアロビクスやヨガ等を実践しながら、心肺機能や柔軟性、筋力等の体力を向上させる。同時に心身のストレスを軽減し心と体の活性化を目指す。理論の面では、心身の健康を維持するための科学的なアプローチや研究成果をふまえて、自らの生活習慣の改善やコンディショニングに応用できるようにする。	
	体育実技・理論	学外施設において水泳をおこなう。水泳は、一度身につけたら生涯継続できるスポーツであり、体力の維持向上、病気や肥満の予防等の効果も期待できる。本科目では、水泳を通じて日常生活の中に適度な有酸素運動の習慣を取り入れ、健康的な生活態度を形成できるようにする。具体的には、水の特性を理解し、基本となる4種目を心地良く泳ぐことを目標とし、クロール、ブレスト(平泳ぎ)、バック(背泳ぎ)、バタフライ、4種目の泳法技術を学び、実践できるようにする。	
	数量リテラシー	(概要)「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の各科目を履修する上で求められる数量スキルを確認するとともに、必要に応じてそれらを補う学びを展開する。具体的には、統計の基礎、データ集計の基礎、および、それらを支える数量概念について、計算や集計作業を実習しながら、実際の状況で活用するスキルを身につける。オンデマンドビデオと配布教材による授業と教室での対面授業とが週単位で交互に行われる。 (オムニバス形式／全13回) (26 福田健、131 高橋 アヤコ／1回) (共同) ガイダンスと診断的評価を行う。 (26 福田健／6回) Excel上の記述統計を扱う関数の意味と内部計算の方法を扱う。 (131 高橋 アヤコ／6回) データサイエンスに必要とされる基礎的代数スキルを確認して必要な補習を行う。	オムニバス・共同 (一部)
	情報科学1	情報処理推進機構(IPA)が実施するITパスポート試験3級に対応する内容と2級の一部に対応する内容を実習を通して学ぶ。社会人として求められる情報技術の知識・技能とそれを活用した問題発見力や問題解決力を養うことを目標とする。具体的には、PCとネットワークの基本的な構成と機能を学ぶとともに、AI、ビッグデータ、IoTなどの新しい情報技術が社会全体におよぼす影響を知り、さらに、経営やセキュリティ管理など個別の社会事象の中での活用方法を考察する。	
	情報科学2	オデッセイコミュニケーションズが実施するマイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)試験(一般レベル)のWord科目に対応する内容を実習を通して学ぶ。Microsoft Office Systemの中で文書作成・編集機能を提供するMicrosoft Wordの実用的技能を検定する試験がMOS Word一般レベル試験であり、この試験が求める各種技能を修得することを目的として授業内容を構成する。	
	情報科学3	オデッセイコミュニケーションズが実施するマイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)試験(一般レベル)のExcel科目に対応する内容を実習を通して学ぶ。Microsoft Office Systemの中で表計算・編集機能を提供するMicrosoft Excelの実用的技能を検定する試験がMOS Excel一般レベル試験であり、この試験が求める各種技能を修得することを目的として授業内容を構成する。	
	情報科学4	オデッセイコミュニケーションズが実施するマイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)試験(一般レベル)のPowerPoint科目に対応する内容を実習を通して学ぶ。Microsoft Office Systemの中でプレゼンテーション・編集機能を提供するMicrosoft PowerPointの実用的技能を検定する試験がMOS PowerPoint一般レベル試験であり、この試験が求める各種技能を修得することを目的として授業内容を構成する。	